

CICS Transaction Server for z/OS



CICSplex SM API リファレンス

バージョン 5 リリース 5

CICS Transaction Server for z/OS



CICSplex SM API リファレンス

バージョン 5 リリース 5

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 195 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 5 (製品番号 5655-Y04) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： CICS Transaction Server for z/OS
CICSplex SM API Reference
Version 5 Release 5

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1995, 2018.

目次

この PDF について	v
-----------------------	---

第 1 章 CICSplex SM コマンド・レベル・インターフェースの使用 1

CICSplex SM コマンド形式	1
CICSplex SM 引数値	1
COBOL の引数値	2
C の引数値	3
PL/I の引数値	5
Assembler language argument values	6
REXX での CICSplex SM の使用	7
コマンド形式	7
引数値	7
MVS の制限	8
CICS および CICSplex SM の値データ域	9
言語の考慮事項	10
長さオプション	10
RESPONSE オプションおよび REASON オプション	10

第 2 章 REXX 関数およびコマンド . . . 13

関数	13
EYUAPI()	13
EYUINIT()	14
EYUREAS()	14
EYURESP()	15
EYUTERM()	15
コマンド	16
TBUILD	17
TPARSE	18

第 3 章 CICSplex SM API コマンド . . 21

ADDRESS	21
CANCEL	23
CONNECT	25
COPY	29
CREATE	34
DELETE	38
DISCARD	42
DISCONNECT	44
EXPAND	46
FEEDBACK	50
FETCH	54

GET	61
GETDEF	68
GROUP	74
LISTEN	78
LOCATE	81
MARK	86
ORDER	91
PERFORM OBJECT	94
PERFORM SET	101
QUALIFY	106
QUERY	109
RECEIVE	112
REFRESH	116
REMOVE	121
SET	125
SPECIFY FILTER	131
SPECIFY VIEW	133
TERMINATE	137
TRANSLATE	138
UNMARK	141
UPDATE	145

第 4 章 CICSplex SM API コマンド引数リスト 151

第 5 章 CICSplex SM API コマンドの機能コード値 153

第 6 章 RESPONSE 値および REASON 値 155

第 7 章 EYUDA 値 161

EYUDA の一般値 (番号順)	161
EYUDA の一般値 (アルファベット順)	175
EYUDA RESPONSE 値 (番号順)	187
EYUDA RESPONSE 値 (アルファベット順)	188
EYUDA REASON 値 (番号順)	189
EYUDA REASON 値 (アルファベット順)	191

特記事項 195

索引 201

この PDF について

この PDF は、CICS Transaction Server for z/OS の CICSplex SM エlement用のアプリケーション・プログラミング・インターフェースのコマンドの解説書です。この資料は、CICSplex SM と対話するアプリケーションを作成しているアプリケーション・プログラマーを対象としています。

この API を使用して CICS のアプリケーションを作成する方法について詳しくは、*CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・ガイド*を参照してください。

本書で使用される用語および表記の詳細については、IBM Knowledge Center の CICS 資料で使用されている表記規則および用語を参照してください。

この PDF の作成日

この PDF は、2018 年 12 月 14 日に作成されました。

第 1 章 CICSplex SM コマンド・レベル・インターフェースの使用

このセクションでは、CICSplex[®] SM コマンド・レベル・インターフェースの使用法について説明します。

CICSplex SM コマンド形式

CICSplex SM コマンド・レベル・インターフェースを使用して発行される場合の API コマンドの形式では、EXECUTE CPSM (または EXEC CPSM) の後に必要なコマンド名が続きます。1 つ以上のオプションが続く場合もあります。

構文は次のとおりです。

```
EXEC CPSM command option(arg)....
```

ここで、

command

必要な操作 (CONNECT など) を指定します。

option

各コマンドで使用できる必須機能またはオプション機能のうちのいくつかを記述します。一部のオプションには括弧で囲んだ引数が続きます。オプション (引数を必要とするものも含む) は任意の順序で指定することができます。

arg

argument の省略形であり、*data-value* や *data-ref* などの値です。*data-value* は定数にすることもできます。つまり、データを CICSplex SM に送信する引数は通常 *data-value* になります。CICSplex SM からデータを受け取る引数は *data-ref* にする必要があります。

EXEC CPSM コマンドの例を次に示します。

```
EXEC CPSM CONNECT
          USER(JONES) VERSION(0310)
          CONTEXT(EYUPLX01) SCOPE(EYUCSG01)
          THREAD(THRDTKN)
          RESPONSE(RESVAR) REASON(REASVAR)
```

使用しているプログラミング言語に有効なコマンド終了区切り文字を加えなければなりません。例えば、COBOL プログラムでは、コマンド終了区切り文字は END-EXEC ステートメントです。PL/I プログラムおよび C プログラムでは、区切り文字はセミコロン (;) です。

CICSplex SM 引数値

API コマンドの中でオプションに続く括弧で囲まれた引数値を指定する必要があります。

これらの値は以下のとおりです。

data-value

データをプログラムから CICSplex SM に渡すために使用される送信引数。

渡すデータは、フルワード・バイナリー・データ、固定長または可変長の文字データ、または未指定にすることができます。データ型が指定されない場合、CICSplex SM は、可変データ型の複数のフィールドで構成された複合データ構造を想定します。引数は以下のいずれかの形式にすることができます。

- 変数名
- 自己定義項
- 表現

data-value には、サブセットとして *data-ref* が含まれています。

data-ref

データを CICSplex SM からプログラムに渡すために主に使用される受信 (または送受信) 引数。

データ型は、*data-value* 引数で許可されているのと同じタイプにすることができます。ただし、引数は名前付き変数でなければなりません。

場合によっては、CICSplex SM が出力を返す前に、*data-ref* 引数を使用して CICSplex SM に入力を指定することができます。例えば、FETCH コマンドの COUNT オプションで *data-ref* 引数を指定できます。

data-area

データが入っているバッファを指定するために使用される送信引数または受信引数。*data-area* 引数は、データ型が指定されていない *data-ref* 引数として考えることができます。*data-area* 引数は、自己定義項または自己定義式によって定義することはできず、名前付き変数でなければなりません。

ptr-ref ポインター値を CICSplex SM からプログラムに渡すために使用される受信引数。

ptr-ref 引数は、*data-ref* 引数の特殊な形式です。渡されるデータは、バイナリー・データまたは文字データではなく、アドレス・ポインターです。

cpsm-token

CICSplex SM によって生成される識別トークンを渡すために使用される送信引数または受信引数。*cpsm-token* 引数は、データ型が指定されていない *data-ref* 引数として考えることができます。

トークンは、API 処理スレッド、結果セット、フィルター、および通知を識別するために CICSplex SM によって作成されます。

トークン値は CICSplex SM によって作成されるため、プログラムは、そのトークンを後続のコマンドで指定する前に、変数でトークンを受け取る必要があります。トークンは、自己定義項または自己定義式によって定義することはできず、名前付き変数でなければなりません。

COBOL の引数値

COBOL では、CICSplex SM API の引数値を別のデータ型に置き換えることができます。使用できるデータ型は、引数値のタイプによって異なります。

data-value

その引数にとって正しいデータ型の COBOL データ名に置き換えるか、またはその引数にとって正しい型に変換できる定数に置き換えることができます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	COBOL 定義
ハーフワード・バイナリー	PIC S9(4) USAGE BINARY
フルワード・バイナリー	PIC S9(8) USAGE BINARY
ダブルワード・バイナリー	PIC S9(18) COMP
ポインター	USAGE IS POINTER
文字ストリング	PIC X(n)。n はバイト数。
UTF-8 の文字ストリング	PIC X(n)。n はバイト数。
パック 10 進数	PIC S9(n) COMP-3。n は小数桁数。

data-value には、サブセットとして *data-ref* が含まれています。

data-ref

その引数にとって正しいデータ型の任意の COBOL データ名に置き換えることができます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	COBOL 定義
ハーフワード・バイナリー	PIC S9(4) USAGE BINARY
フルワード・バイナリー	PIC S9(8) USAGE BINARY
ダブルワード・バイナリー	PIC S9(18) COMP
ポインター	USAGE IS POINTER
文字ストリング	PIC X(n)。n はバイト数。
UTF-8 の文字ストリング	PIC X(n)。n はバイト数。
パック 10 進数	PIC S9(n) COMP-3。n は小数桁数。

データ型が指定されていない場合、「*data-ref*」は基本項目またはグループ項目を参照できます。

data-area

ハーフワード・バイナリー (PIC S9(4) COMP)、フルワード・バイナリー (PIC S9(8) COMP)、または文字ストリング (PIC X(n)) のデータ型の任意の COBOL データ名に置き換えることができます。

ptr-ref ポインター変数または ADDRESS 特殊レジスターに置き換えることができます。

cpsm-token

フルワード・バイナリー (PIC S9(8) COMP) のデータ型の任意の COBOL データ名に置き換えることができます。

C の引数値

C では、CICSplex SM API の引数値を別のデータ型に置き換えることができます。参照が連続したストレージに対するものである場合、*data-value*、*data-ref*、または *data-area* にとって正しいデータ型の任意のデータ参照を使用できます。

data-value

その引数にとって正しいデータ型に変換できる任意の C 式に置き換えることができます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	C 定義
ハーフワード・バイナリー	short int
フルワード・バイナリー	long int
ダブルワード・バイナリー	long long int
文字配列	char[n]。n は、フィールド内のバイト数 (フィールドには空白を埋め込む必要があります)。
UTF-8 の文字ストリング	char[n]。n は、フィールド内のバイト数 (フィールドは ASCII 空白で埋め込まれます)。

data-value には、サブセットとして *data-ref* が含まれています。

data-ref

その引数にとって正しいデータ型の任意の C のデータ参照に置き換えることができます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	C 定義
ハーフワード・バイナリー	short int
フルワード・バイナリー	long int
ダブルワード・バイナリー	long long int
文字配列	char[n]。n は、フィールド内のバイト数 (フィールドには空白を埋め込む必要があります)。
UTF-8 の文字ストリング	char[n]。n は、フィールド内のバイト数 (フィールドは ASCII 空白で埋め込まれます)。

データ型を指定しない場合、「*data-ref*」はスカラー・データ型、配列、または構造を参照できます。これは連続したストレージでなければなりません。

data-area

ハーフワード・バイナリー (short int)、フルワード・バイナリー (long int)、または文字配列 (char[n]) のデータ型の任意の名前付き変数に置き換えることができます。

ptr-ref 任意の C のポインター型参照に置き換えることができます。

cpsm-token

フルワード・バイナリー (long int) のデータ型の任意の名前付き変数に置き換えることができます。

PL/I の引数値

PL/I では、参照が連結ストレージに対するものである場合、CICSplex SMAPI の引数値を正しいデータ型の任意の PL/I のデータ参照に置き換えることができます。

data-value

その引数にとって正しいデータ型に変換できる任意の PL/I 式に置き換えることができます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	PL/I 定義
ハーフワード・バイナリー	FIXED BIN(15)
フルワード・バイナリー	FIXED BIN(31)
ダブルワード・バイナリー	FIXED BIN(63)
ポインター	POINTER
文字ストリング	CHAR(<i>n</i>). <i>n</i> はバイト数。
UTF-8 の文字ストリング	CHAR(<i>n</i>). <i>n</i> はバイト数。
パック 10 進数 (<i>n</i> 桁の 10 進数)	FIXED DEC(<i>n</i> ,0)

data-value には、サブセットとして *data-ref* が含まれています。

data-ref

その引数にとって正しいデータ型の任意の PL/I データ参照に置き換えることができます。次の表は、適切なデータ型を定義する方法を示しています。

データ型	PL/I 定義
ハーフワード・バイナリー	FIXED BIN(15)
フルワード・バイナリー	FIXED BIN(31)
ダブルワード・バイナリー	FIXED BIN(63)
ポインター	POINTER
文字ストリング	CHAR(<i>n</i>). <i>n</i> はバイト数。
UTF-8 の文字ストリング	CHAR(<i>n</i>). <i>n</i> はバイト数。
パック 10 進数 (<i>n</i> 桁の 10 進数)	FIXED DEC(<i>n</i> ,0)

データ型が指定されていない場合、「*data-ref*」はエレメント、配列、または構造を参照することができます。例えば、FROM (P->STRUCTURE) LENGTH (LNG) などです。参照は連結ストレージに対するものでなければなりません。

データ域はまた、適切な PL/I 位置合わせ属性 (バイナリー項目の場合は ALIGNED、ストリングの場合は UNALIGNED) をもっていなければなりません。

明示的な長さをもたない可変データ・ストリングを使用する場合は、渡されるデータは 2 バイトの長さフィールドで始まり、その長さはストリングについて宣言された最大長です。コマンドに明示的に長さを指定する場合は、渡される長さはその長さになります。つまり、2 バイトの長さフィールドに、指定した長さまでのデータが続きます。

data-area

ハーフワード・バイナリー (FIXED BIN(15))、フルワード・バイナリー (FIXED BIN(31))、または文字ストリング (CHAR(*n*)) のデータ型の任意の名前付き変数に置き換えることができます。

ptr-ref タイプが POINTER ALIGNED の任意の PL/I 参照に置き換えることができます。

cpsm-token

フルワード・バイナリー (FIXED BIN(31)) のデータ型の任意の名前付き変数に置き換えることができます。

Assembler language argument values

一般に、引数はデータのアドレスかデータそのもの (アセンブラー言語では再配置可能式または絶対式) のいずれかです。

再配置可能式には対になっていないブラケット (引用符の外) または対になっていない (長さ属性参照からはずれている) 引用符があってはなりません。この規則に従っていれば、=AL2 (100) などのリテラル定数、20 (0,R11) などの形式、およびマクロ置き換え機能を使用する形式を含めすべての式を使用することができます。

絶対式は、長さ属性参照、または自己定義定数のどちらかの単一の項目でなければなりません。

等号はレジスター (ポインター参照) を参照する場合にのみ使用するようにしてください。例えば、等号を長さに使用すると、アドレスの長さとして処理されて、予測不能なエラーが発生します。

引数値は以下のように置き換えることができます。

data-value

その引数にとって正しい型のデータへのアセンブラー言語参照である再配置可能式に置き換えるか、またはその引数にとって正しい型の定数に置き換えることができます。

data-ref

その引数にとって正しい型のデータへのアセンブラー言語参照である再配置可能式に置き換えることができます。

data-area

ハーフワード (DS H)、フルワード (DS F)、または文字ストリング (CLn) の型のデータへのアセンブラー言語参照である再配置可能式に置き換えることができます。

ptr-ref レジスターへのアセンブラー言語参照である絶対式に置き換えることができます。

cpsm-token

フルワード (DS F) の型のデータへのアセンブラー言語参照である再配置可能式に置き換えることができます。

REXX での CICSplex SM の使用

REXX プログラムから CICSplex SM API コマンドを呼び出すことができます。

コマンド形式

REXX ADDRESS コマンドまたは EYUAPI() 関数のいずれかを使用して、API コマンドを REXX から CICSplex SM に渡すことができます。

REXX ADDRESS コマンドの形式は以下のとおりです。

```
ADDRESS CPSM 'command option(arg)...'
```

この方式で API を呼び出すと、CICSplex SM ホスト・サブコマンド環境が呼び出されます。

あるいは、CICSplex SM で提供されている EYUAPI() 関数を使用することもできます。

```
var = EYUAPI('command option(arg)...')
```

この方式では、CICSplex SM REXX 関数パッケージが呼び出されます。

いずれの方式でも、テキストを大文字と小文字のどちらでも入力できることに注意してください。

以下に、REXX プログラムから呼び出される API コマンドの例を示します。

```
var = EYUAPI('CONNECT'
             'CONTEXT('WCCONTEXT')' ,
             'SCOPE('WSCOPE')'      ,
             'VERSION(0310)'         ,
             'THREAD(THRDTKN)'       ,
             'RESPONSE(RESVAR)'      ,
             'REASON(REASVAR)')
.
.
```

引数値

CICSplex SM API では、標準の REXX変数インターフェースを十分に活用します。

data-value 引数は、文字入力として見なされます。バイナリー・データ (EYUDA 値および CVDA 値など) は、適切な内部形式に変換されます。ユーザー・トークンは変換されません。

data-ref

データを CICSplex SM からプログラムに渡すために主に使用される受信 (または送受信) 引数。

data-ref 引数は、結果出力を受け取るために使用できる名前付き変数でなければなりません。出力データは、次のように必要に応じて変換されます。

- 文字データは変換されません。データは、そのまま変数に入れます。
- バイナリー・データは、表示形式 (10 進数) に変換されて変数に入れます。

- ユーザー・トークンは変換されません。トークン値は、そのまま変数に入れられます。
- アドレス値は変換されません。指定されたストレージ・バッファは、1つ以上の変数に直接入れられます。

場合によっては、CICSplex SM が出力を返す前に、*data-ref* 引数を使用して CICSplex SM に入力を指定することができます (例えば、FETCH コマンドの COUNT オプション)。*data-ref* 引数を入力として指定できる場合、その引数に変数を指定する必要があります。入力値を指定しない場合は、変数を初期設定する必要があります。

data-area

データが入っているバッファを指定するために使用される送信引数または受信引数。*data-area* 引数は、名前付き変数でなければなりません。

複数のリソース・テーブル・レコードを受け取ることができる出力バッファの場合、CICSplex SM は、データを保持するための語幹変数を作成します (または埋め込みます)。語幹配列のゼロのエントリは、配列内のエントリの数を指定します。

例えば、W_INT0_EVALDEF という語幹変数では、W_INT0_EVALDEF.0 エントリには、返される EVALDEF リソース・テーブル・レコードの数が含まれます。エントリ W_INT0_EVALDEF.1 から W_INT0_EVALDEF.n には、実際のリソース・テーブル・レコードが含まれます。

実際の出力が単一のレコードと複数のレコードのどちらであるかに関係なく、語幹変数は作成されます。

ptr-ref ポインター値を CICSplex SM からプログラムに渡すために使用される受信引数。

ptr-ref 引数は、結果出力を受け取るために使用できる名前付き変数でなければなりません。渡されるデータは、16 進アドレスの文字表現です。

cpsm-token

CICSplex SM によって生成される識別トークンを渡すために使用される送信引数または受信引数。

cpsm-token 引数は、名前付き変数でなければなりません。トークンは変換されません。トークン値は、そのまま変数に入れられます。

注: CICSplex SM によって返される各変数 (または語幹変数) には、リソース・テーブル・レコード全体が含まれます。TPARSE コマンドを使用して、レコードを個々のフィールドに分割することができます。このコマンドの説明については、13 ページの『第 2 章 REXX 関数およびコマンド』を参照してください。

MVS の制限

すべての CICSplex SM API コマンドには、多数の一般的な制約事項が適用されます。

- プログラムは、CICSplex SM サービスを呼び出すときには基本アドレッシング・モードでなければなりません。基本アドレス・スペースは、ホーム・アドレ

ス・スペースにしてください。CICSplex SM に渡されるすべてのパラメーターは基本アドレス・スペースになければなりません。

- CICSplex SM は、コマンド間で常にアクセス・レジスターを保持するわけではありません。プログラムがアクセス・レジスターを使用する場合は、CICSplex SM サービスを呼び出す前にそれを保管して、再び使用する前に復元してください。

CICS および CICSplex SM の値データ域

一部の CICSplex SM リソース・テーブル属性の値は、エンコード形式で維持されます。

これらの値は、CICSplex SM 値データ域 (EYUDA) または CICS® 値データ域 (CVDA) の場合があります。以下の 2 つの組み込み変換プログラム関数のいずれかを使用して、これらの値を変換できます。

EYUDA

EYUVALUE という CICSplex SM 変換プログラム関数を使用します。

EYUVALUE 関数は、REXX で作成されたプログラムでは使用できません。REXX プログラム専用提供されている **TPARSE** コマンドを使用して、リソース・テーブル内の属性値にアクセスして変換することができます。このコマンドの説明については、13 ページの『第 2 章 REXX 関数およびコマンド』を参照してください。

CVDA

DFHVALUE という CICS 変換プログラム関数を使用します。

一部の CICS 環境では、DFHVALUE 関数によって非互換の CVDA 値が返されることがあります。これらの CVDA 値は、その他の CICS 環境で使用される値と競合するため、CICSplex SM は、固有性を維持するためにこれらの値を変更する必要があります。CICSplex SM は、これらの CVDA 属性のそれぞれについて DFHVALUE によって返される値に 8000 または 9000 のいずれかを加算します。CVDA 値の変換について詳しくは、**TRANSLATE** コマンドを参照してください。

例えば、COBOL ステートメントについて考えてみます。

```
MOVE EYUVALUE(QUIESCING) TO EYUDATA
```

このステートメントは、プログラムの変換時に、EYUDA 文字値 QUIESCING をそれに相当する数値の 48 に変換します。CICSplex SM は、EYUDA 値および CVDA 値を実行時に変換するための **TRANSLATE** コマンドも提供します。次のように **TRANSLATE** を使用して、特定のリソース・テーブルおよび属性に関連付けられている EYUDA 値または CVDA 値を変換できます。

```
EXEC CPSM TRANSLATE OBJECT(WLMAWAOR)
                     ATTRIBUTE(STATUS)
                     FROMCV(48)
                     TOCHAR(EYUCHAR)
                     RESPONSE(RESPDATA)
                     REASON(READDATA)
```

このコマンドは、プログラムの実行時に、WLMAWAOR リソース・テーブルの STATUS 属性の EYUDA 値を文字値に変換します。

TRANSLATE コマンドについては、TRANSLATE コマンドを参照してください。
CICSplex SM によって使用される EYUDA 値のリストについては、161 ページの『第 7 章 EYUDA 値』を参照してください。

言語の考慮事項

さまざまな言語環境 (CICS、MVS™ バッチ、TSO、および NetView®) に適用される言語に関する考慮事項はすべて、これらの環境で実行するために作成される CICSplex SM プログラムにも適用されます。

長さオプション

多くの API コマンドがアプリケーション・プログラムと CICSplex SM の間でデータの転送を行います。

COBOL、PL/I、およびアセンブラー言語では、変換プログラムにデフォルトの特定の長さオプションが用意されています。つまり、データ域を指定するプログラムでは、これらはオプションになります。C および REXX では、すべての長さオプションを指定する必要があります。

CICSplex SM API では、大半の data-value 引数を使用できます。これらの引数は、デフォルトでプログラムから CICSplex SM に渡されるだけです。例外は、以下のコマンドで LENGTH オプションです。

- CREATE
- REMOVE
- UPDATE

一方、プログラムから CICSplex SM に渡して、その逆にも渡すことができる data-ref 引数は、常に指定する必要があります。

API コマンドで長さオプションを指定する場合は、常に符号付きフルワード・バイナリー値で表されます。これにより、長さの理論上の上限値が 2 147 483 647 バイトになります。達成可能な上限は、コマンドや言語コンパイラーの種類によって異なりますが、1 つの API コマンドでのすべての入力データ域の上限は通常 16 124 バイトです。この限界を超えると、API コマンドは、応答 INVALIDCMD と理由 LENGTH で失敗します。

RESPONSE オプションおよび REASON オプション

API コマンドは、処理を完了すると、応答を返し、必要に応じて理由も返します。コマンドによって返される応答値と理由値を受け取るには、各コマンドで RESPONSE オプションおよび REASON オプションを指定する必要があります。

注: REXX ランタイム・インターフェースでのみ使用できる TBUILD コマンドおよび TPARSE コマンドでは、RESPONSE オプションおよび REASON オプションを使用しません。これらの REXX に固有のプロセスの結果は、STATUS オプションによって返されます。詳しくは、13 ページの『第 2 章 REXX 関数およびコマンド』の TBUILD コマンドおよび TPARSE コマンドの説明を参照してください。

RESPONSE(*data-ref*)

data-ref は、ユーザー定義変数です。コマンドが返される際、コマンド処理の結果を記述する文字値が含まれています。RESPONSE 値は、各コマンドの説明に示してあります。

REASON(*data-ref*)

data-ref は、ユーザー定義変数です。コマンドから返される際、ここには特定のコマンドに対する応答をさらに修飾する値が含まれています。REASON 値は、値を使用する応答の RESPONSE 値と共に示してあります。

RESPONSE オプションおよび REASON オプションについて詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。コマンド別の RESPONSE 値および REASON 値の要約については、155 ページの『第 6 章 RESPONSE 値および REASON 値』を参照してください。

第 2 章 REXX 関数およびコマンド

このセクションには、CICSplex SM で提供される REXX 関数およびコマンドについての詳細な説明が記載されています。これらの関数およびコマンドは、REXX ランタイム・インターフェースでのみ使用できます。

それぞれの説明には以下の情報が記載されています。

- コマンドの説明
- 目的
- コマンドの構文 (*var* は変数)
- コマンドで使用可能なオプション
- コマンドによって返される REXX 応答コード

関数はアルファベット順に示されています。

- 『EYUAPI()』
- 14 ページの『EYUINIT()』
- 14 ページの『EYUREAS()』
- 15 ページの『EYURESP()』
- 15 ページの『EYUTERM()』

関数

CICSplex SM で提供されている REXX 関数では、標準の REXX 変数置換規則を使用します。

REXX 戻りコードに加えて、これらの関数は EYUARnnnn メッセージを生成することがあります。これらのメッセージの説明については、CICSplex SM メッセージを参照してください。

EYUAPI()

API コマンドを CICSplex SM に渡します。

```
var = EYUAPI(command string)
```

OR

```
var = EYUAPI('command string')
```

説明

この関数は、API コマンドを CICSplex SM に渡します。API コマンドを REXX に渡すために ADDRESS CPSM コマンドを使用する前に、EYUAPI 関数または EYUINIT 関数を発行する必要があります。

オプション

command string

渡される API コマンドおよびオプションを指定します。

戻りコード

割り当てられた変数 (*var*) で EYUAPI 関数によって返される可能性がある REXX 戻りコードを以下にリストします。

これらの戻りコードは、REXX による EYUAPI 関数の処理を示しており、渡された API コマンドが CICSplex SM によって正常に処理されたかどうかを示すものではありません。その情報については、コマンドによって返される RESPONSE 値および REASON 値を参照する必要があります。

- 0 EYUAPI 関数は正常に実行されました。
- 1 EYUAPI 関数は失敗しました。

EYUINIT()

CICSplex SM API 環境を初期設定して、必要なリソースを割り振ります。

```
var = EYUINIT()
```

説明

このコマンドは、CICSplex SM API 環境を初期設定して、必要なリソースを割り振ります。EYUINIT は、REXX プログラムで発行する最初の関数でなければなりません。

注: API コマンドを REXX に渡すために ADDRESS CPSM コマンドを使用する前に、EYUINIT 関数または EYUAPI 関数を発行する必要があります。

戻りコード

割り当てられた変数 (*var*) で EYUINIT 関数によって返される可能性がある REXX 戻りコードを以下にリストします。

- 0 EYUINIT 関数は正常に実行されました。
- 1 EYUINIT 関数は失敗しました。

EYUREAS()

API コマンドの REASON オプションによって返された数値を変換します。

```
var = EYUREAS(reason)
```

説明

このコマンドは、API コマンドの REASON オプションによって返された数値を同等の文字に変換し、その逆にも変換します。

オプション

reason

変換される REASON 値です。

戻りコード

割り当てられた変数 (*var*) で EYUREAS 関数によって返される可能性がある REXX 戻りコードを以下にリストします。

nnnn 指定された REASON 値に相当する数値または文字。

-1 指定された REASON 値は無効であり、変換できませんでした。

EYURESP()

API コマンドの RESPONSE オプションによって返された数値を変換します。

```
var = EYURESP(response)
```

説明

このコマンドは、API コマンドの RESPONSE オプションによって返された数値を同等の文字に変換し、その逆にも変換します。

オプション

応答

変換される RESPONSE 値です。

戻りコード

割り当てられた変数 (*var*) で EYURESP 関数によって返される可能性がある REXX 戻りコードを以下にリストします。

nnnn 指定された RESPONSE 値に相当する数値または文字。

-1 指定された RESPONSE 値は無効であり、変換できませんでした。

EYUTERM()

CICSplex SM API 環境を終了して、割り振られているリソースをすべて解放します。

```
var = EYUTERM()
```

説明

このコマンドは、CICSplex SM API 環境を終了して、割り振られているリソースをすべて解放します。EYUTERM は、REXX プログラムで発行する最後の関数でなければなりません。

注: CICSplex SM ホスト・サブコマンド環境が (関数パッケージから呼び出されるのではなく) 社内でインストールされている場合、すべてのプログラムの最後に EYUTERM を使用する必要はありません。割り振られたままになっているリソースを、ホスト・サブコマンド環境にアクセスする次のプログラムで再使用できます。

戻りコード

割り当てられた変数 (*var*) で EYUTERM 関数によって返される可能性がある REXX 戻りコードを以下にリストします。

- 0 EYUTERM 関数は正常に実行されました。
- 1 EYUTERM 関数は失敗しました。

コマンド

CICSplex SM で提供される REXX に固有のコマンドは、一連の API コマンドを内部的に実行して、結果を REXX に返します。

コマンドはアルファベット順に示されています。それぞれの説明には、コマンドの目的、構文、使用可能なオプションが記載されています。

注:

1. これらのコマンドを使用して、SPECIFY VIEW コマンドによって作成された、リソース・テーブルのユーザー定義のビューを処理することはできません。提供されているリソース・テーブルと同じ名前で作成して、その名前をこれらのコマンドのいずれかで指定すると、そのコマンドは失敗します。
2. これらのコマンドでは、RESPONSE オプションも REASON オプションも使用しません。これらの REXX に固有のプロセスの結果は、STATUS オプションによって返されます。
3. これらのコマンドは、有用な FEEDBACK 情報を提供しません。内部的に発行された API コマンドは、同じフィードバック域を再使用します。そのため、これらのコマンドのいずれかが処理を終了するときに、フィードバック域はイベントのシーケンス全体を表していません。

次のようなコマンドがあります。

- 17 ページの『TBUILD』
- 18 ページの『TPARSE』

TBUILD

変数のセットからリソース・テーブル・レコードを作成します。

```
▶—TBUILD—OBJECT—(—data-value—)—PREFIX—(—data-value—)—————▶
▶—STATUS—(—data-ref—)—VAR—(—data-area—)—[ASIS]————▶
▶—THREAD—(—cpsm-token—)—————▶
```

説明

このコマンドは、CICSplex SM 定義または CICS 定義の個々の属性を表す変数のセットからリソース・テーブル・レコードを作成します。定義は、タイプが CPSM 定義または CICS 定義のリソース・テーブルによって表されます。

次のように、属性名を付加することによって属性変数を形成します。

`prefix_attribute`

ここで、`prefix` は指定するテキスト・ストリング、`attribute` はリソース・テーブル内の属性の名前です。接頭部と属性名の間に下線文字 (`_`) を挿入する必要があります。

リソース・テーブル・レコードは、語幹変数を含む任意の有効な REXX 変数に入れることができます。

TBUILD は、指定される属性のみを使用します。オプション属性についてデフォルト値を想定しません。オプションの属性に変数を指定しない場合、リソース・テーブル・レコード内の対応するフィールドは、そのデータ型に従って初期設定されます (つまり、文字フィールドはブランクに設定され、バイナリー・データおよび EYUDA の値はゼロに設定されます)。

注: タイプ別の CICSplex SM リソース・テーブルのリストについては、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブルおよびその属性の詳細な説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

オプション

ASIS

リソース・テーブルの属性値が既に内部形式になっていることを指定します。これらは、変換されず、そのまま処理されます。

以前に (TPARSE ASIS コマンドによって) 解析した CICSplex SM 定義または CICS 定義を再作成するには、ASIS オプションを使用する必要があります。

OBJECT(*data-value*)

レコードが作成される対象のリソース・テーブルを指定します。この値は、有効な CPSM 定義または CICS 定義のリソース・テーブルの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

注: TBUILD コマンドを使用して、SPECIFY VIEW コマンドによって作成されたリソース・テーブル・ビューを処理することはできません。提供されているリソース・テーブルと同じ名前でビューを作成して、その名前を TBUILD コマンドで指定すると、コマンドは失敗します。

PREFIX(*data-value*)

リソース・テーブル属性を含む変数名を指定するために使用した接頭部を指定します。

注: 接頭部の許容最大長は、REXX およびプログラムが実行されている環境によって決まります。

STATUS(*data-ref*)

このコマンドに対して返される REXX 状況値を受け取る変数名を指定します。状況は、以下のいずれかの文字形式で返されます。

OK TBUILD コマンドは処理を正常に完了しました。

SYNTAX ERROR

構文エラーのため、TBUILD コマンドを処理できませんでした。エラーを説明する EYUARnnnn メッセージは、システムで IRXSAY WRITEERR 出力に定義されている宛先に書き込まれます。

FAILURE

TBUILD コマンドは、処理を試行していたデータの一部が無効であるために失敗しました。トレース・データは、EYUTRACE という REXX 語幹変数に書き込まれます。失敗を説明する EYUARnnnn メッセージは、システムで IRXSAY WRITEERR 出力に定義されている宛先にも書き込まれる場合があります。

注: EYUTRACE 語幹変数について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

VAR(*data-area*)

TBUILD によって作成されたリソース・テーブル・レコードを受け取る変数名を指定します。

TPARSE

リソース・テーブル・レコードを変数から変数のセットに解析します。

▶▶—TPARSE—OBJECT—(—*data-value*—)—PREFIX—(—*data-value*—)—————▶

▶—STATUS—(—*data-ref*—)—VAR—(—*data-area*—)—ASIS————▶

▶—THREAD—(—*cpsm-token*—)—————▶▶

説明

このコマンドは、リソース・テーブル・レコードを変数からテーブルの個々の属性を表す変数のセットに解析します。TPARSE は、任意のタイプの CICSplex SM リソース・テーブルで使用できます。

リソース・テーブル変数は、語幹変数を含む任意の有効な REXX 変数にすることができます。出力変数は、次のように、接頭部を属性名に付加することによって形成されます。

`prefix_attribute`

ここで、`prefix` は指定するテキスト・ストリング、`attribute` はリソース・テーブル内の属性の名前です。接頭部と属性名の間に下線 (`_`) が挿入されます。

注: リソース・テーブルおよびその属性の詳細な説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

オプション

ASIS

リソース・テーブルの属性値が外部形式に変換されないことを指定します。これらは、そのまま返されます。属性値は次のように表されます。

- 文字値には末尾ブランクがあります。
- バイナリー値には先行ゼロがあります。これらの値は、表示形式に変換されません。
- EYUDA 値および CVDA 値は、文字形式に変換されません。

(TBUILD ASIS コマンドによって) 再作成する CPSM 定義または CICS 定義のリソース・テーブルを解析するには、ASIS オプションを使用する必要があります。

注: EYUDA 値または CVDA 値を指定して ASIS オプションを使用する場合、TRANSLATE コマンドを使用して、コード化された数値を文字値に変換することができます。

OBJECT(*data-value*)

解析されるリソース・テーブルを指定します。この値は、有効なリソース・テーブルの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

注: TPARSE コマンドを使用して、SPECIFY VIEW コマンドによって作成されたリソース・テーブル・ビューを処理することはできません。提供されているリソース・テーブルと同じ名前でビューを作成して、その名前を PARSE コマンドで指定すると、コマンドは失敗します。

PREFIX(*data-value*)

TPARSE によって返される属性変数名を指定するために使用する接頭部を指定します。

注: 接頭部の許容最大長は、REXX およびプログラムが実行されている環境によって決まります。

STATUS(*data-ref*)

このコマンドに対して返される REXX 状況値を受け取る変数名を指定します。状況は、以下のいずれかの文字形式で返されます。

OK TPARSE コマンドは処理を正常に完了しました。

SYNTAX ERROR

構文エラーのため、TPARSE コマンドを処理できませんでした。エラーを説明する EYUARnnnnn メッセージは、システムで IRXSAY WRITEERR 出力に定義されている宛先に書き込まれます。

FAILURE

TPARSE コマンドは、処理を試行していたデータの一部が無効であるために失敗しました。トレース・データは、EYU_TRACE という REXX 語幹変数に書き込まれます。失敗を説明する EYUARnnnnn メッセージは、システムで IRXSAY WRITEERR 出力に定義されている宛先にも書き込まれる場合があります。

注: EYUTRACE 語幹変数について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

VAR(*data-area*)

解析されるリソース・テーブル・レコードを含む変数名を指定します。

第 3 章 CICSplex SM API コマンド

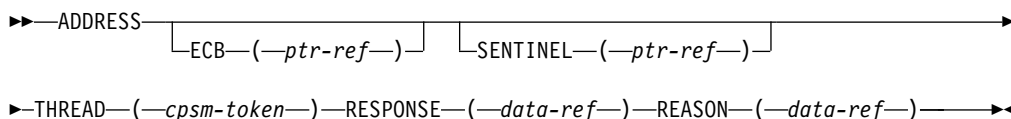
このセクションには、API コマンドについての詳細な説明が記載されています。これらのコマンドはすべて、コマンド・レベル・インターフェースまたは REXX ランタイム・インターフェースで使用できます。

それぞれの説明には、必要に応じて以下の情報が記載されています。

- コマンドの説明
- 使用上の注意
- 関連するコマンド
- コマンドの構文
- コマンドで使用可能なオプション
- コマンドによって返される応答

ADDRESS

CICSplex SM ストレージ域へのアクセスを提供します。



説明

ADDRESS コマンドは、CICSplex SM ストレージ域へのアクセスを提供します。

- ADDRESS は、各 API スレッドに関連付けられている以下の 2 つの制御フィールドのアドレスを返します。
 - イベント制御ブロック (ECB)
 - 標識
- ユーザー・プログラムが REXX で作成されている場合、ECB 値および標識値は、16 進アドレスの文字表現として返されます。これらのアドレスでストレージにアクセスするには、REXX STORAGE 関数を使用する必要があります。

関連するコマンド

LISTEN、RECEIVE

オプション

ECB(ptr-ref)

このスレッドに関連付けられている非同期要求が処理を待機しているときに通知を受ける ECB のアドレスを受け取る変数名を指定します。SENTINEL フィールドのカウンター値が 0 に達するたびに、ECB フィールドはクリアされます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

SENTINEL(*ptr-ref*)

このスレッドに関連付けられている完了済み非同期要求の 4 バイトのカウンターのアドレスを受け取る変数名を指定します。

非同期要求が完了するたびに、標識値は増えます。非同期要求の例は次のとおりです。

- NOWAIT オプションを指定したコマンドが発行される
- LISTEN コマンドで指定されたイベントが発生する

RECEIVE コマンドが発行されると、標識値は減ります。カウンター値が 0 の場合は、受け取る未解決の非同期要求がないことを意味します。

注: 各 API 処理スレッドは、一度に最大 256 の非同期要求を処理できます (SENTINEL カウンターによって示されます)。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

ADDRESS コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ECB
- SENTINEL
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

CANCEL

前の LISTEN コマンドによって生成された通知要求を取り消します。

►►—CANCEL—NOTIFICATION—(—*cpsm-token*—)—THREAD—(—*cpsm-token*—)—►►

►—RESPONSE—(—*data-ref*—)—REASON—(—*data-ref*—)—►►

説明

このコマンドは、前の LISTEN コマンドによって生成された通知要求を取り消します。

関連するコマンド

LISTEN

オプション

NOTIFICATION(*cpsm-token*)

取り消す通知要求を指定します。通知要求を識別する *cpsm-token* 値は LISTEN コマンドによって返されます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって返されます。

条件

CANCEL コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- NOTIFICATION
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

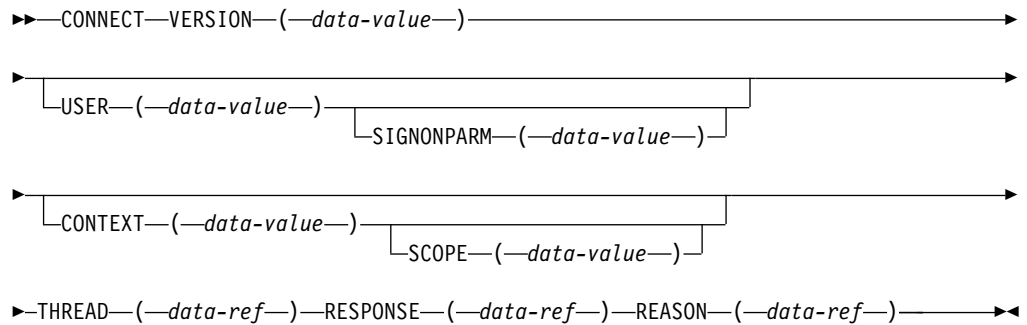
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

CONNECT

CICSplex SM との接続を確立して、API 処理スレッドを定義し、スレッドによって使用されるデフォルト設定を指定します。



説明

接続プロセスの詳細は、ご使用のプログラムが実行されている環境によって異なります。接続プロセスの詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

関連するコマンド

DISCONNECT、QUALIFY、TERMINATE

オプション

CONTEXT(*data-value*)

このスレッドに対して発行されるコマンドのデフォルト・コンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

デフォルト・コンテキストは、特定のコマンドのために指定変更するか、QUALIFY コマンドを発行して変更しない限り、スレッドに対して発行されるすべてのコマンドで有効になります。スレッドにデフォルト・コンテキストを指定する代わりに、個々のコマンドに対して処理時にコンテキストを指定することができます。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルト・コンテキストは、スレッドの接続先の CMAS になります。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

SCOPE(*data-value*)

このスレッドに対して発行されるコマンドのデフォルト・スコープを指定します。

SCOPE オプションは、CONTEXT オプションを修飾します。コンテキストが CICSplex である場合、スコープは以下のようになります。

- CICSplex 自体の 1 文字から 8 文字の名前
- CICSplex 内の CICS システムまたは CICS システム・グループ
- CICSplex SM リソース記述 (RESDESC) に定義されている論理スコープ

コンテキストが CMAS である場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

デフォルト・スコープは、特定のコマンドのために指定変更するか、QUALIFY コマンドを発行して変更しない限り、スレッドに対して発行されるすべてのコマンドで有効になります。SCOPE オプションを指定しない場合に想定されるデフォルト・スコープはありません。

注: 特定の API コマンドでは、コンテキストが CICSplex である場合に有効なスコープが必要です。CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドにスコープを指定しない場合、CICS リソースを表すリソース・テーブルに対して以下のいずれかのコマンドを発行するときに、SCOPE オプションを指定する必要があります。

- GET
- PERFORM OBJECT
- PERFORM SET
- REFRESH
- SET

SIGNONPARM(data-value)

社内で作成された API セキュリティ・エクスポートルーチン (EYU9XESV) に渡される 1 文字から 8 文字のサインオン・パラメーターを指定します。パスワード・フレーズはサポートされていません。

CMAS セキュリティがアクティブになっていて、API プログラムが実行されている環境でセキュリティが定義されていない場合、CICSplex SM は、CONNECT コマンドから USER 値および SIGNONPARM 値を EYU9XESV に渡します。API セキュリティの詳細については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

THREAD(data-ref)

CICSplex SM がその処理スレッドに割り当てるフルワード・トークンを受け取る変数名を指定します。

この識別トークンを、このスレッドに対して発行するすべての後続のコマンドで指定する必要があります。

USER(data-value)

社内で作成された API セキュリティ・エクスポートルーチン (EYU9XESV) に渡される 1 文字から 8 文字のユーザー ID を指定します。

CMAS セキュリティがアクティブになっていて、API プログラムが実行される環境で定義されているセキュリティが CICSplex SM によって検出されない場合、CONNECT コマンドから USER 値および SIGNONPARM 値が EYU9XESV に渡されます。API セキュリティの詳細については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

VERSION(data-value)

プログラムで使用可能にする CICSplex SM リソース・テーブル・データのリリースを指定します。VERSION 値は、有効な CICSplex SM リリースの 4 文字の数値でなければなりません (CICS TS 4.1 を表す 0410 など)。

注:

1. VERSION 値は、0120 以上でなければなりません。API は、リリース 2 より前のリリースの CICSplex SM からデータにアクセスできません。
2. VERSION 値は、CICSplex SM ランタイム環境のバージョン以下でなければなりません。
3. 以下を条件として、API プログラムが最初に作成されたリリースよりも大きい VERSION 値を指定できます。
 - 指定されたバージョン用の適切なコピーブックを使用してプログラムをコンパイルしている。
 - プログラムは、指定されたバージョン用のコピーブックと互換性がある。

別のリリースで実行する場合の考慮事項の詳細については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

条件

CONNECT コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理は異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

APITASKERR

API 制御サブタスクで始動時にエラーが発生しました。

INVALIDTCB

非 CICS 環境用のアプリケーション・スタブを使用しているプログラム EYU9ABSI が、CICS TCB で実行されているときに接続を試みました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

SOERESOURCE

環境サービス・システム・サービス (ESSS) アドレス・スペースによって所有される必須リソースが使用不可です。

SOLRESOURCE

ローカル側で所有されている (つまり、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースによって所有されている) 必須リソースが使用不可です。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- SCOPE
- SIGNONPARM
- USRID

- **VERSION**

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

CPSMSERVER

処理スレッドが接続を試行していた CMAS が使用不可です。

CPSMSYSTEM

使用可能な CICSplex SM システムがありません。

CPSMVERSION

指定されたバージョンの使用可能な CICSplex SM システムがありません。

NOTPERMIT

以下のいずれかの理由により、許可されない状態が発生しました。

EXPIRED

指定されたユーザー ID のセキュリティ許可の有効期限が切れています。

SIGNONPARM

指定されたサインオン・パラメーターは、ユーザー ID に許可されていません。

USRID

指定されたユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

VERSIONINVL

以下の理由により、バージョンの競合が発生しました。

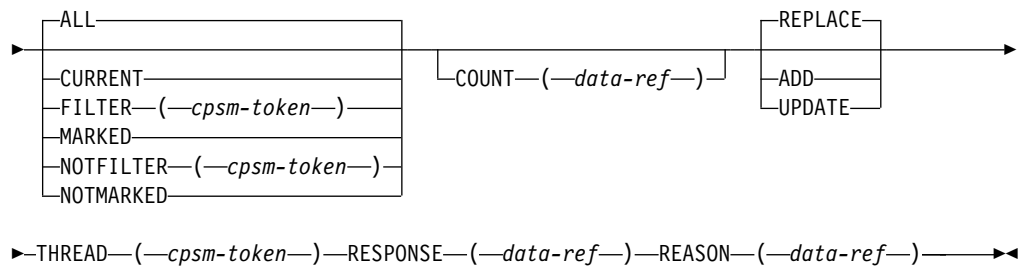
NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

COPY

リソース・テーブル・レコードをコピーします。

►►—COPY—FROM—(—*cpsm-token*—)—TO—(—*cpsm-token*—)—►►



説明

このコマンドは、ある結果セット内の一部またはすべてのリソース・テーブル・レコードを同じ処理スレッド上の別の結果セットにコピーします。

- COPY コマンドは、結果セット内の次のレコードではなく、フェッチされた最後のレコードで常に処理を開始します。
- ターゲット結果セットとして、既存の結果セットまたはこのプロセスによって作成される新規の結果セットを指定できます。既存の結果セットをターゲットとして指定する場合は、既存のレコードを上書きすることも、既存のレコードに追加することもできます。
- 結果セットには、特定のリソースのレコードを 1 つのみ含めることができます。コピー・プロセス中に重複したレコードが検出された場合、指定した ADD、REPLACE、または UPDATE の各オプションによって、どのレコードが保持されるかが決まります。
- 選択したレコードをソース結果セットからコピーするには、以下を使用できます。
 - ソース結果セットのフィルターを定義する SPECIFY FILTER コマンド。
 - ソース結果セットのレコードにマークを付ける MARK コマンドおよび UNMARK コマンド。ソース結果セットのレコードに付けたマークは、それらのレコードがターゲット結果セットにコピーされるときに保持されません。
- ターゲット結果セット内のレコードの相対位置は、ソース結果セット内の相対位置とは異なる可能性があります。位置は、以下の影響を受ける可能性があります。
 - (COPY ALL が指定されるときに) ソース結果セットに残されている削除済みレコード、およびターゲット結果セットでそれぞれの位置を想定する他のレコード。
 - ターゲット結果セットに関連付けられているソート順 (ある場合)。ターゲット結果セットが存在しない場合、レコードは、ソース結果セットでの出現順と同じ順序でコピーされます。既存の結果セットがターゲットとして指定される場合、レコードはコピーされてから、その結果セットで有効になっていたソート順に従ってソートされます。

関連するコマンド

DELETE、DISCARD、GET、GETDEF、
LOCATE、MARK、ORDER、PERFORM OBJECT、QUERY、SPECIFY FILTER

オプション

ADD

ソース結果セットから既存のターゲット結果セットにリソース・テーブル・レコードを追加します。重複したレコードが検出された場合、ターゲット結果セット内のレコードが保持されます。

既存の結果セットがターゲットとして指定されていない場合、ADD オプションは無視されます。

ALL

ソース結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードをターゲット結果セットにコピーします。

ソース結果セットから削除されたレコードはコピーされません。実際には、ALL オプションは、ソース結果セット内に削除済みレコードを残して、残りのレコードを新規結果セットにコピーすることにより、結果セットを圧縮します。

COUNT(*data-ref*)

コピー・プロセスの完了後にターゲット結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

CURRENT

ソース結果セット内の現行のリソース・テーブル・レコードのみをターゲット結果セットにコピーします。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみをコピーします。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

FROM (*cpsm-token*)

この操作の対象のソース結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- PERFORM OBJECT

MARKED

ソース結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみをコピーします。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみをコピーします。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

ソース結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードの

みをコピーします。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

REPLACE

既存のターゲット結果セット内のリソース・テーブル・レコードを削除して、このコピー操作の結果に置き換えます。コピー操作によって、どのリソース・テーブル・レコードもコピーされない場合は、ターゲット結果セットは破棄されます。

既存の結果セットがターゲットとして指定されていない場合、REPLACE オプションは無視されます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TO (*cpsm-token*)

この操作の対象のターゲット結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- PERFORM OBJECT

注: ターゲット結果セットを、FROM オプションに指定したソース結果セットと同じにすることはできません。

このフィールドが以下の場合:

- 2 進ゼロに設定されている (COBOL、C、PL/I、またはアセンブラー)
- 初期設定されていない変数である (REXX)

上記の場合、CICSplex SM は、新規結果セットを作成して、識別トークンを同じフィールドで返します。

UPDATE

既存のターゲット結果セットをソース結果セットのリソース・テーブル・レコードで更新します。重複したレコードが検出された場合、ターゲット結果セット内のレコードは、ソース結果セット内のレコードに置き換えられます。

既存の結果セットがターゲットとして指定されていない場合、UPDATE オプションは無視されます。

条件

COPY コマンドによって戻すことのできる **RESPONSE** 値を以下にリストします。それぞれの **RESPONSE** の説明には、該当する場合には関連する **REASON** 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BUSY 以下のいずれかの理由により、使用中状態が発生しました。

FROM

FROM オプションで指定されたソース結果セットが別のコマンドによって処理中です。

TO

TO オプションで指定されたターゲット結果セットが別のコマンドによって処理中です。この状態は、**FROM** オプションと **TO** オプションに同じ結果セットを指定した場合に起こることがあります。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INCOMPATIBLE

以下のいずれかの理由により、非互換状態が発生しました。

INVALIDOBJ

TO オプションで指定されたターゲット結果セットは、**FROM** オプションで指定されたソース結果セットと互換性がありません。結果セットには、同じタイプのリソース・テーブル・レコードが含まれている必要があります。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- **FILTER**

- FROM
- NOTFILTER
- THREAD
- TO

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

CREATE

新しい CICSplex SM 定義または CICS 定義を作成します。

```

▶▶—CREATE—OBJECT—(—data-value—)—FROM—(—data-area—)—————▶
▶—LENGTH—(—data-value—)—————▶
▶
└─PARM—(—data-area—)—PARMLEN—(—data-value—)—┐
▶
└─CONTEXT—(—data-value—)—┐ └─SCOPE—(—data-value—)—┐
▶—THREAD—(—cpsm-token—)—RESPONSE—(—data-ref—)—REASON—(—data-ref—)—▶▶

```

説明

このコマンドは、指定された属性値を使用して新しい CICSplex SM 定義または CICS 定義を作成します。新しい定義は、CICSplex SM データ・リポジトリに保管されます。CICSplex をコンテキストとして使用する定義 (ワークロード管理定義やリアルタイム分析定義など) の場合、新しい定義は、CICSplex の管理に関するすべての CMAS に自動的に配布されます。

関連するコマンド

REMOVE、UPDATE

オプション

CONTEXT(*data-value*)

このコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのコンテキストが想定されます。

FROM(*data-area*)

作成される定義を表すリソース・テーブル・レコードが入っているバッファを指定します。

レコードには、OBJECT オプションに指定されたリソース・テーブルのすべての属性が入っている必要があります。指定しないオプションの属性については、フィールドをヌル (ゼロ) 値に設定します。

許可されているすべてのヌル値のリストについては、CICSplex SM リソース・テーブルを参照してください。

LENGTH(*data-value*)

FROM バッファの長さを指定するフルワード値。

OBJECT(*data-value*)

作成される定義を表すリソース・テーブルを指定します。この値は、有効な CICSplex SM 定義または CICS 定義のリソース・テーブルの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。タイプ別の CICSplex SM リソース・テーブルのリストについては、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

PARM(*data-area*)

定義の作成に使用されるパラメーター式が入ったバッファを指定します。

CREATE コマンドでパラメーター式を使用する方法について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブルに有効なパラメーターの説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables overview』および『Reference』の『CICSplex SM resource tables overview』を参照してください。

PARMLN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

SCOPE(*data-value*)

このコマンドのスコープを指定します。

(このコマンドあるいは以前の CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドで設定された) 現行コンテキストが CICSplex であり、OBJECT オプションに CICS 定義リソースが指定されていて、PARM オプションに CSD パラメーターが含まれている場合、有効なスコープを指定できます。

スコープには、CICSplex 内の CICS システムを指定できます。現行コンテキストが CMAS であるか、OBJECT オプションにその他のタイプのリソース・テーブルが指定されているか、CICS 定義リソースに CSD パラメーターが指定されていない場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

SCOPE がコマンドに適用され、SCOPE オプションが指定されない場合、スレッドのデフォルトのスコープが想定されます。現行コンテキストが CICSplex であり、CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドにデフォルトのスコープが設定されていない場合、SCOPE オプションに対する INVALIDPARM 応答を受け取ります。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

CREATE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

CSD 要求の場合に限り、要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- FROM
- LENGTH
- OBJECT
- PARM
- PARMLLEN
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

CSDAPI

CICS CSD にアクセスするための CICSplex SM API のサポートが使用不可です。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

NOTPERMIT

以下のいずれかの理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下のいずれかの理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは次の場合に起こることがあります。

- リソース・テーブルに必須属性が欠落しているか、1 つ以上の競合する属性が含まれているか、あるいは重複がある。
- CICS リソース定義に、EXEC CICS CREATE コマンドで警告が出る原因になる属性が含まれている。

このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

INVALIDATTR

リソース・テーブル属性の 1 つが無効です。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM でサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

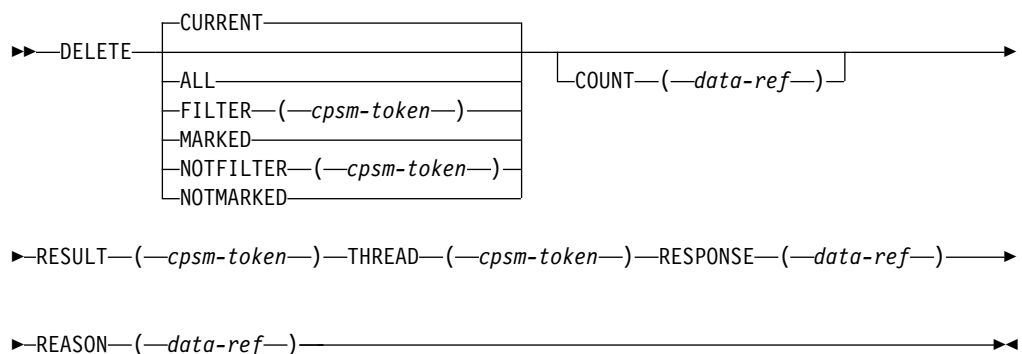
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

DELETE

リソース・テーブル・レコードを削除します。



説明

このコマンドは、結果セットから 1 つ以上のリソース・テーブル・レコードを削除します。

- DELETE コマンドは、結果セット内の次のレコードではなく、フェッチされた最後のレコードで常に処理を開始します。

- 削除するレコードには削除のマークが付けられますが、結果セット内での位置は保持されます。残りのレコードもそれぞれの位置を保持します。再番号付けは行われません。DELETE コマンドの後で発行するすべての API コマンドでは、結果セット内の削除されたレコードはスキップされます。1 つの例外は ORDER コマンドです。このコマンドは、削除されたレコードを含めて、結果セット内のすべてのレコードをソートします。削除されたレコードに対してコマンドを発行しようとする、RESPONSE 値 NODATA を受け取ります。
- 削除されたレコードを除去して結果セットを圧縮するために、残りのレコードを新しい結果セットにコピーできます。削除されたレコードを除く、結果セット内のすべてのレコードをコピーするには、ALL オプションを指定して COPY コマンドを使用します。

注: REFRESH コマンドを発行する場合も、削除されたレコードは除去され、残りのレコードの再番号付けが行われます。

関連するコマンド

COPY、DISCARD、GET、GROUP、LOCATE、MARK、ORDER、PERFORM OBJECT、REFRESH、SPECIFY FILTER

オプション

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードを削除します。

COUNT(*data-ref*)

削除プロセスの完了後に結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

CURRENT

結果セット内の現行のリソース・テーブル・レコードのみを削除します。

注: レコード・ポインターは、削除されたレコードに配置されたままになります。ポインターを位置変更する前に、CURRENT オプションを指定して API コマンドを発行すると、RESPONSE 値 NODATA を受け取ります。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを削除します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

MARKED

結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみを削除します。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみを削除します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードのみを削除します。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

DELETE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

SOLRESOURCE

ローカル側で所有されている (つまり、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースによって所有されている) 必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- FILTER
- NOTFILTER
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

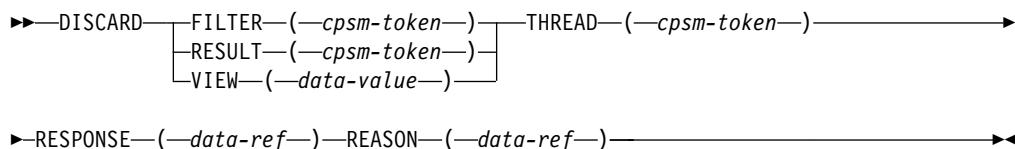
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

DISCARD

結果セット、フィルター、またはビューを廃棄します。



説明

このコマンドは、結果セット、フィルター、またはビューを破棄します。

関連するコマンド

COPY、GET、GETDEF、GROUP、PERFORM OBJECT、SPECIFY FILTER、SPECIFY VIEW

オプション

FILTER(*cpsm-token*)

破棄するフィルターを指定します。フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

破棄する API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

注: GROUP コマンドによって要約された結果セットを破棄すると、すべての要約済み結果セットも破棄されます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

VIEW(*data-value*)

破棄するビューを指定します。この値は、SPECIFY VIEW コマンドで定義されているビューの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

条件

DISCARD コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INUSE

以下のいずれかの理由により、使用中状態が発生しました。

FILTER

指定されたフィルターは現在使用中で、破棄できません。

VIEW 指定されたビューは現在使用中で、破棄できません。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- FILTER
- RESULT
- THREAD
- VIEW

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

DISCONNECT

CICSplex SM から API 処理スレッドを切断します。

►—DISCONNECT—THREAD—(*cpsm-token*)—RESPONSE—(*data-ref*)—►
►—REASON—(*data-ref*)—►

説明

結果セット、フィルター、ビュー、診断データ、および未解決の非同期要求を含めて、スレッドに関連付けられているすべてのリソースが解放されます。

関連するコマンド

CONNECT、TERMINATE

オプション

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

切断する API スレッドを指定します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

DISCONNECT コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

• THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

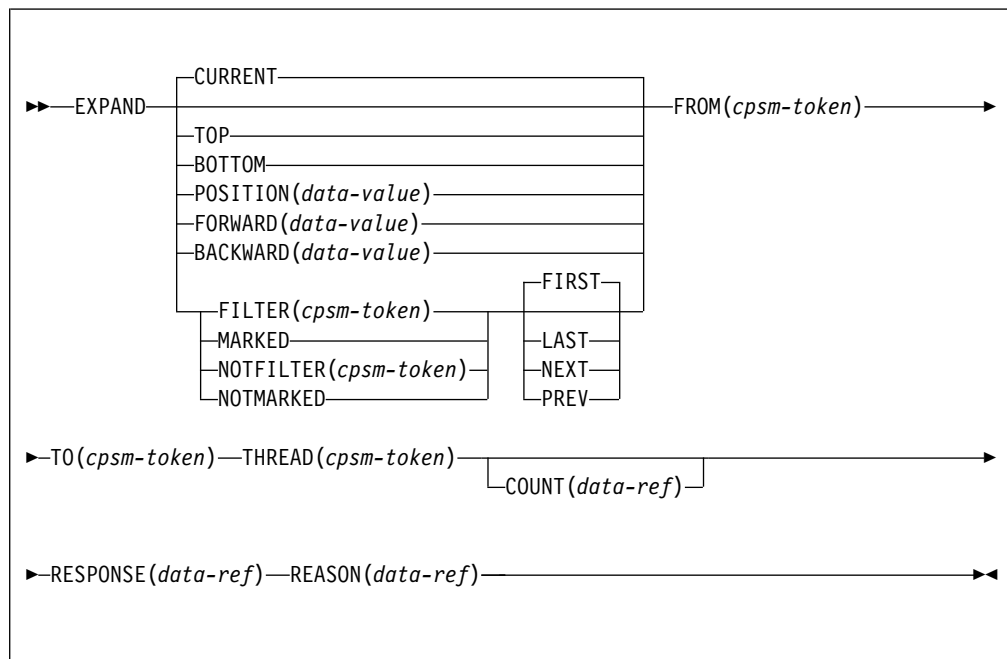
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

EXPAND

1 つの要約レコードにまとめられたすべてのレコードが含まれる結果セットを戻します。



説明

このコマンドは、要約結果セットの展開をサポートします。このコマンドは、GROUP コマンドによって生成された要約済み結果セットからのトークン、および展開される結果セット内のレコード・ポインターの位置によって識別される選択レコードを受け入れます。レコード・ポインターの位置は、コマンドで指定するオプションによって異なります。このコマンドによって新しい結果セットが作成され、その結果セットには 1 つの要約レコードにまとめられたすべてのレコードが含まれています。

関連するコマンド

FETCH、GET、GROUP、LOCATE、MARK、ORDER、QUERY、REFRESH、SPECIFY FILTER、UNMARK

オプション

BACKWARD(data-value)

data-value レコード数だけ現在のポインター位置から後方に移動させた位置にあ

るレコードを展開します。*data-value* 値が残りのレコード数よりも多い場合には、要約結果セット内の最初のレコードが展開されます。

BOTTOM

要約結果セット内にある最終レコードが展開されます。

COUNT(*data-ref*)

この操作の完了後の TO 結果セット内のリソース・テーブル・レコード数。このパラメーターは出力専用です。

CURRENT

FROM 結果セットの現行レコードを展開します。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用されるフィルターを識別し、フィルター基準に一致するレコードで EXPAND 操作を実行します。FIRST、LAST、NEXT、および PREV オプションと一緒に使用します。

FIRST

結果セット内のマークが付けられた最初のレコード、またはフィルター基準に一致する最初のレコードを展開します。レコードがない場合には、NODATA コードが戻ります。

FORWARD(*data-value*)

data-value レコード数だけ現在のポインター位置から前方に移動させた位置にあるレコードを展開します。*data-value* 値が要約結果セット内の残りのレコード数よりも多い場合には、最終レコードが展開されます。

FROM (*cpsm-token*)

EXPAND コマンドを実行する要約結果セット。一致する結果セットがない場合には、INVALIDPARM 戻りコードが FROM の理由コードと共に発行されます。

LAST

結果セット内のマークが付けられた最終レコード、またはフィルター基準に一致する最終レコードを展開します。レコードがない場合には、NODATA コードが戻ります。

MARKED

MARK コマンドを使用して選択された 1 つ以上のレコードを展開します。

FIRST、LAST、NEXT、および PREV オプションと一緒に使用します。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NEXT

NEXT は、現在選択されているレコードから開始して結果セット内を前方に移動しながら、次にマークされているレコードか、フィルター基準と一致する次のレコードを展開します。レコードがない場合には、NODATA コードが戻ります。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用されるフィルターを識別し、フィルター基準に一致しないレコードで EXPAND 操作を実行します。FIRST、LAST、NEXT、および PREV オプションと一緒に使用します。

NOTMARKED

MARK コマンドによって選択解除のままにされている 1 つ以上のレコードを展開します。FIRST、LAST、NEXT、および PREV オプションと一緒に使用します。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

POSITION(*data-value*)

提供された値によって指定された、要約結果セット内の位置にあるレコードを展開します。

PREVIOUS

PREVIOUS は、現在選択されているレコードから開始して結果セット内を後方に移動しながら、結果セット内で次にマークされているレコードか、フィルター基準と一致する次のレコードを展開します。レコードがない場合には、NODATA コードが戻ります。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

EXPAND 操作に使用する API スレッド。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

T0 (*cpsm-token*)

EXPAND コマンドを実行する展開済みレコードを入れる要約結果セットを指定します。この結果セットが既に存在する場合には、この EXPAND コマンドによって生成されたリソース・テーブル・レコードによって、関連する既存のリソース・テーブル・レコードが置換されます。

TOP

要約結果セット内にある最初のレコードが展開されます。

条件

EXPAND コマンドによって返される可能性がある RESPONSE 値は以下のとおりです。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

以下のいずれかの理由により、指定された基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BACKWARD

後方には検索基準を満たすレコードがありません。

FORWARD

前方には検索基準を満たすレコードがありません。

BUSY 以下のいずれかの理由により、使用中状態が発生しました。

FROM

FROM オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

TO TO オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常処理しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- BACKWARD
- FORWARD
- POSITION
- FILTER
- NOTFILTER
- FROM
- TO
- THREAD
- COUNT

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

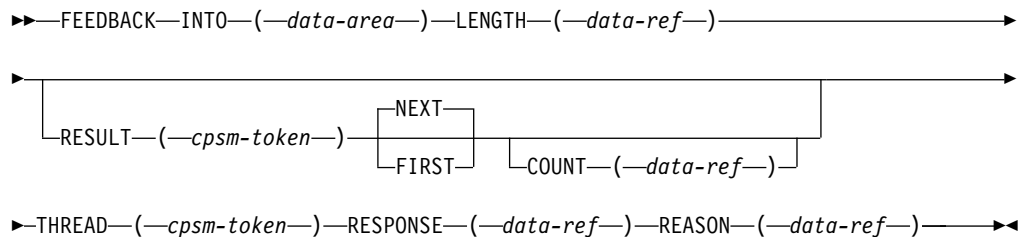
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

FEEDBACK

診断データを取得します。



説明

このコマンドは、以前に発行された API コマンドに関する診断データを取得します。

- 診断データは、FEEDBACK リソース・テーブル・レコードとして返されます。
- 前回のコマンドに結果セットの処理が関与していて、OK 以外の RESPONSE 値が返された場合、FEEDBACK リソース・テーブル・レコードは、OK 以外の RESPONSE が送信される原因となったエラーが関連付けられている結果セット内の各リソース・テーブル・レコードの末尾に付加されます。別のコマンドが同じ結果セットを処理するまで、診断データを FEEDBACK コマンドで使用できます。別のコマンドが処理した時点で、データは後続のコマンドの FEEDBACK レコードに置き換えられます。

注: 結果セットを処理したコマンドが RESPONSE 値 OK を返した場合、CICS が EIBRESP2 フィールドに追加情報を返すと、FEEDBACK レコードが生成されます。

- 前回のコマンドが結果セットを処理しなかった場合、FEEDBACK リソース・テーブル・レコードは別のフィードバック域で返されます。そのフィードバック域のレコードは、結果セット指向ではない各コマンドでクリアされてリフレッシュされます。そのため、結果セットではなくフィードバック域に診断データを配置するコマンドの場合、FEEDBACK は、最後に発行されたコマンドのデータのみを取得できます。

- **FEEDBACK** コマンドを発行してコマンドの診断データを取得した後、フィードバック・レコードまたはフィードバック域はクリアされます。同じ **FEEDBACK** リソース・テーブル・レコードを複数回要求することはできません。
- コマンドが非同期的に処理される場合 (つまり、**NOWAIT** オプションを指定する場合)、そのコマンドの診断データは、**ASYNCREQ** 通知リソース・テーブルで返されます。非同期要求では **FEEDBACK** リソース・テーブル・レコードは生成されません。
- 以下のコマンドでは診断データは使用できません。
 - **DISCONNECT**
 - **FEEDBACK**
 - **TERMINATE**
- **REXX** プログラムで使用するために提供されている **TBUILD** コマンドおよび **TPARSE** コマンドは、有用な **FEEDBACK** 情報を提供しません。

FEEDBACK リソース・テーブル全体の説明については、「『**Reference**』の『**FEEDBACK Resource Table**』」を参照してください。

オプション

COUNT(*data-ref*)

RESULT オプションで指定された結果セットから取得されるフィードバック・レコードの数を指定します。**COUNT** オプションを指定しない場合、1 つのフィードバック・レコードのみが取得されます。

複数のフィードバック・レコードを取得する場合、レコードは **INTO** バッファに順番に配置されます。**INTO** バッファの長さは、取得されるすべてのフィードバック・レコードを保持するのに十分でなければなりません。

CICSplex SM がこのフィールドで返す値は、次のように **FEEDBACK** コマンドの **RESPONSE** 値によって異なります。

OK **INTO** バッファに返されるレコードの実際の数。

WARNING AREATOOSMALL

INTO バッファに返されるレコードの数。要求されたレコードの総数ではありません。

INVALIDPARM LENGTH

INTO バッファの長さがリソース・テーブル・レコードを 1 つ保持するのに十分ではなかったため、フィールドは設定されません。

FIRST

RESULT オプションで指定された結果セットから最初のフィードバック・レコードを取得します。

COUNT オプションを指定する場合、**FIRST** は、結果セット内の最初のレコードから始めて、指定された数のレコードを取得します。

INTO(*data-area*)

フィードバック・データを受け取るバッファ (REXX では語幹変数) を指定します。このバッファの長さは、取得されるすべてのフィードバック・データを保持するのに十分でなければなりません。

LENGTH(*data-ref*)

INTO バッファの長さを指定するフルワード値。

CICSplex SM がこのフィールドで返す値は、次のように FEEDBACK コマンドの RESPONSE 値によって異なります。

OK INTO バッファに返されるデータの実際の長さ。

WARNING AREATOOSMALL

要求されたすべてのレコードを保持するのに必要になるバッファ長。

INVALIDPARM LENGTH

INTO バッファの長さがリソース・テーブル・レコードを 1 つ保持するのに十分ではなかったため、フィールドは設定されません。

NEXT

RESULT オプションで指定された結果セットから次に使用可能なフィードバック・レコードを取得します。

COUNT オプションを指定する場合、NEXT は、結果セット内の次のレコードから始めて、指定された数のレコードを取得します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

結果セットを処理した、以前に発行されたコマンドに関するフィードバック・データを取得するには、RESULT オプションを使用します。結果セットを処理していない、最後に発行されたコマンドに関するデータを取得するには、RESULT オプションを指定せずに FEEDBACK を使用します。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

FEEDBACK コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つからなかったか、結果セットを処理したコマンドが **RESPONSE** 値 **OK** を返しました。

WARNING

コマンドは処理を完了しましたが、以下の理由により警告があります。

AREATOOSMALL

要求された使用可能なレコードの数を保持するには、**INTO** バッファの長さが不十分です。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- **COUNT**
- **INTO**
- **LENGTH**
- **RESULT**
- **THREAD**

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される **CMAS** で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

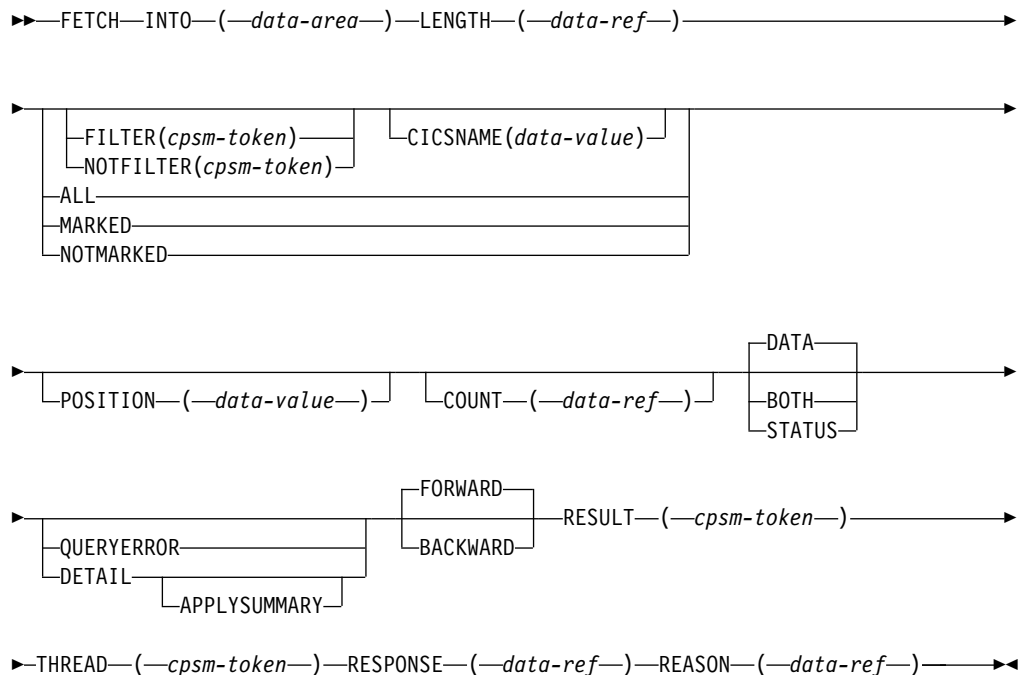
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

FETCH

リソース・テーブル・レコードのデータおよび状況情報を取得します。



説明

このコマンドは、結果セット内の 1 つ以上のリソース・テーブル・レコードに関するデータおよび状況情報を取得します。

- FETCH コマンドの実行後、レコード・ポインターは通常、結果セット内の次のレコード（つまり、ポインターが移動した順方向または逆方向のどちらの方向でもフェッチされた最後のレコードの次のレコード）に配置されます。ただし、以下の API コマンドは常に、フェッチされた最後のレコードに対して作用します（つまり、レコード・ポインターは進められません）。
 - COPY

- DELETE
- MARK
- UNMARK
- PERFORM SET CURRENT
- REFRESH CURRENT
- SET CURRENT
- (指定された基準と一致するレコードがなかったために) レコードがフェッチされなかった場合、ポインターが移動した方向に応じて、ポインターは結果セットの最上部または最下部に配置されます。

関連するコマンド

COPY、GET、GETDEF、GROUP、LOCATE、MARK、ORDER、PERFORM OBJECT、QUERY、SPECIFY FILTER

オプション

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードを取得します。ALL を指定する場合、POSITION オプションおよび COUNT オプションは無視されます。

APPLYSUMMARY

以下のオプションの 1 つ、一部、またはすべてを要約レコードに適用して、選択された要約レコードに関連付けられている詳細レコードを取得します。

- MARKED
- NOTMARKED
- FILTER
- NOTFILTER

APPLYSUMMARY オプションは、DETAIL オプションも指定されている場合にのみ有効です。

APPLYSUMMARY オプションを指定せずに DETAIL オプションが指定された場合、結果は、DETAIL オプションの説明と同じようになります。

DETAIL オプションも APPLYSUMMARY オプションも指定されず、MARKED、NOTMARKED、FILTER、および NOTFILTER の一部またはすべてのレコード選択オプションの組み合わせが要約結果セットに対して発行された場合、レコード選択オプションは要約結果セットに適用され、選択された要約レコードが取得されます。

BACKWARD

フェッチされた最後のレコードで取得プロセスを開始して、指定された結果セットを逆方向に進みます。

BOTH

リソース・テーブル・データと、リソース・テーブル・データに対して実行された最後のアクションに関する OBJSTAT 状況情報の両方を取得します。各レコードには、リソース・テーブル・データの後に OBJSTAT 情報が格納されます。

CICSNAME(data-value)

この操作に使用する CICS システムの 1 文字から 8 文字の固有名または総称名を指定します。

CICSNAME オプションは、指定された名前パターンと一致する CICS システムから発信されたリソース・テーブル・レコードのみを取得の対象とすることを指定します。CICSNAME が FILTER または NOTFILTER と一緒に指定される場合、FILTER または NOTFILTER の要件を満たしていて、CICSNAME パターンとも一致するレコードのみが対象となります。取得されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。

CICSNAME を指定する場合、RESULT オプションで指定される結果セットは、要約済み結果セットであってはならず、EYU_CICSNAME 属性が指定されたリソース・テーブル・レコードを格納している必要があります。RESULT で指定された結果セットに、要約レコードまたは EYU_CICSNAME 属性が指定されていないリソース・テーブルが含まれている場合、CICSNAME オプションに対する INVALIDPARM 応答を受け取ります。

COUNT(data-ref)

処理されるリソース・テーブル・レコードの数を指定します。

COUNT オプションは、RESULT オプションで指定された結果セットに適用されます。DETAIL オプションも指定する場合、COUNT は、ソース・レコードが返される要約済み結果セット内の要約レコードの数を RESULT で指定します。各要約レコードの OBJSTAT テーブルには、DETAIL オプションが指定された場合にそのレコードについて返されるソース・レコードの数が格納されます。

COUNT オプションを指定しない場合、デフォルトは 1 になります。

COUNT オプションが指定される場合、COUNT には、処理されたレコードの数が示されます。大半の場合は、返されるレコードの数と同じです。ただし、DETAIL オプションも指定する場合は、要求された数の要約レコードに関連付けられているすべてのソース・レコードが取得されます。これは通常、COUNT オプションで指定された数より大きくなります。

複数のレコードを取得する場合、レコードは INTO バッファに順番に配置されます。INTO バッファの長さは、取得されるすべてのレコードを保持するのに十分でなければなりません。

CICSplex SM がこのフィールドで返す値は、次のように FETCH コマンドの RESPONSE 値によって異なります。

OK INTO バッファに返されるレコードの実際の数。

WARNING AREATOOSMALL

INTO バッファに返されるレコードの数。要求されたレコードの総数ではありません。

INVALIDPARM LENGTH

INTO バッファの長さがリソース・テーブル・レコードを 1 つ保持するのに十分ではなかったため、フィールドは設定されません。

DATA

指定されたリソース・テーブル・データのみを取得します。レコードには、リソース・テーブルに対して実行された最後のアクションに関する OBJSTAT 状況情報は格納されません。

注: OBJSTAT 情報には、GROUP コマンドを使用してリソース・テーブル・レコードが要約されたときに設定された要約カウント・フィールドが含まれます。リソース・テーブル・レコードに対する GROUP を計画していて、要約レコードを形成するために結合されるレコードの数を確認したい場合は、レコードがフェッチされるときにデータと OBJSTAT 情報の両方を取得するために BOTH を指定する必要があります。

DETAIL

特定の要約リソース・テーブル・レコードに関連付けられているソース・レコードを取得します。

DETAIL を指定する場合、RESULT オプションで指定される結果セットは、要約済み結果セットでなければなりません。DETAIL は、要約レコードに関連付けられているリソース・テーブル・レコードをソース結果セットから取得することにより、それらのレコードを拡張します。要約済み結果セットの処理時に DETAIL を指定しない場合、要約レコード自体が取得されます。結果セットが要約済み結果セットではない場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

FORWARD オプションまたは BACKWARD オプションを DETAIL と一緒に使用して、拡張する要約レコードを選択することができます。FORWARD オプションおよび BACKWARD オプションは、ソース結果セットからレコードが取得される方向も制御します。

デフォルトでは、1 つ以上の要約レコードに関連付けられているすべてのソース・レコードが取得されます。ただし、FILTER オプションまたは NOTFILTER オプションを使用して、ソース結果セットから取得されるレコードを制限することができます。MARKED オプションまたは NOTMARKED オプションを使用して、ソース結果セットでマークを付けられている (またはマークを付けられていない) 要約レコードに関連付けられているレコードのみを取得することもできます。

ソース結果セット内にレコード・ポインターを明示的に配置することはできません。DETAIL を指定する場合、POSITION オプションは、要約結果セット内のレコードを参照します。APPLYSUMMARY オプションが指定される場合、オプション FILTER、NOTFILTER、MARKED、および NOTMARKED は、ソース・レコードではなく要約結果セット内のレコードに適用されます。

要約済み結果セットの処理について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。要約済み結果セットを作成する GROUP コマンドの説明については、74 ページの『GROUP』を参照してください。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを取得の対象とすることを指定します。取得されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

FORWARD

次のレコード (フェッチされた最後のレコードの後に続くレコード) で取得プロセスを開始して、指定された結果セットを順方向に進みます。

INTO(*data-area*)

リソース・テーブル・レコードを受け取るバッファ (REXX では語幹変数) を指定します。このバッファの長さは、取得されるすべてのレコードを保持するのに十分でなければなりません。

LENGTH(*data-ref*)

INTO バッファの長さを指定するフルワード値。

CICSplex SM がこのフィールドで返す値は、次のように FETCH コマンドの RESPONSE 値によって異なります。

OK INTO バッファに返されるデータの実際の長さ。

NODATA

長さはゼロに設定されます。

WARNING AREATOOSMALL

要求されたすべてのレコードを保持するのに必要になるバッファ長。

INVALIDPARM LENGTH

INTO バッファの長さがリソース・テーブル・レコードを 1 つ保持するのに十分ではなかったため、フィールドは設定されません。

MARKED

結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみを取得の対象とすることを指定します。取得されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみを取得の対象とすることを指定します。取得されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードのみを取得の対象とすることを指定します。取得されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

POSITION(*data-value*)

結果セット内の *n* 番目のリソース・テーブル・レコードで取得プロセスを開始します。

この値は、結果セット内のレコードの相対位置を示す数値でなければなりません。結果セット内の最初のレコードは数値 1 で識別されます。

例えば、結果セット内の 5 番目のリソース・テーブル・レコードで取得プロセスを開始するには、POSITION(5) と指定します。

注: POSITION オプションが DETAIL オプションと一緒に使用される場合、特定の要約済み結果セットのレコードのソース・レコードを取得するために、COUNT オプションの値は強制的に 1 に設定されます。この場合、COUNT オプションによって返される値は、指定された結果セット・レコードで要約されたソース・レコードの数になります。

QUERYERROR

この要求が、結果セットに対する前回の GET、PERFORM、または SET のコマンドによって生成された MASQRYER リソースを返すことを指定します。

注: QUERYERROR オプションを指定する場合、データ選択オプションの FILTER、NOFILTER、MARKED、NOTMARKED、および CICSNAME は無視されます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

STATUS

リソース・テーブルに対して実行された最後のアクションに関する OBJSTAT 状況情報のみを取得します。レコードには、リソース・テーブル・データは格納されません。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

FETCH コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

以下のいずれかの理由により、指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BACKWARD

後方には検索基準を満たすレコードがありません。

FORWARD

前方には検索基準を満たすレコードがありません。

WARNING

コマンドは処理を完了しましたが、以下の理由により警告があります。

AREATOOSMALL

要求された使用可能なレコードの数を保持するには、INTO バッファの長さが不十分です。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

SOLRESOURCE

ローカル側で所有されている (つまり、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースによって所有されている) 必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- COUNT
- FILTER

- INTO
- LENGTH
- NOTFILTER
- POSITION
- RESULT
- THREAD
- CICSNAME

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

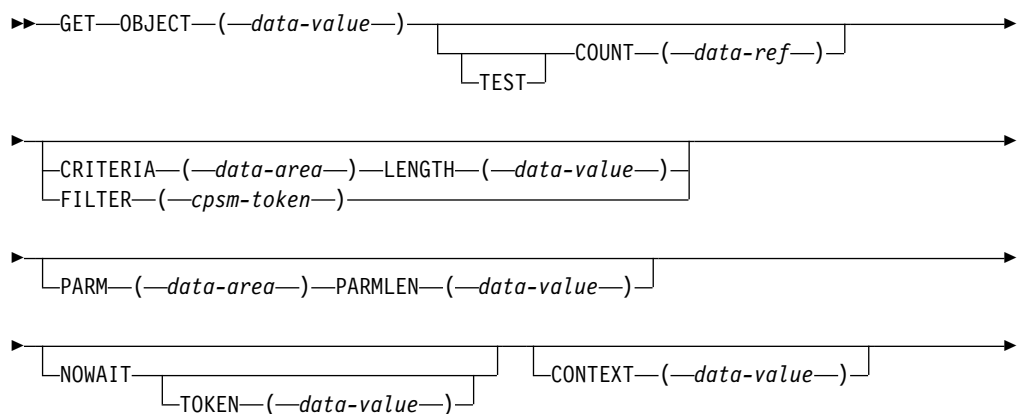
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

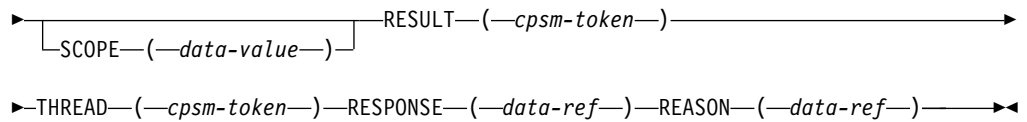
NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

GET

選択されたリソース・テーブル・レコードが入った結果セットを識別して、オプションで返します。





説明

このコマンドは、選択されたリソース・テーブル・レコードが入った結果セットを識別します。また、このコマンドは、識別されたレコード、識別されたレコードの数、あるいはレコードと数の両方を返します。

- リソース・テーブルは、CICS リソース、CICSplex SM 定義、CICS 定義、または CICSplex SM 実行時オブジェクトを表す場合があります。
- GET コマンドの実行後、レコード・ポインターは、結果セットの最上部 (つまり、結果セット内の最初のレコード) に配置されます。
- GET コマンドの発行時に有効になっているコンテキストおよびスコープに、要求されたリソース・テーブルをサポートしていない CICS システムが含まれている場合、要求はそれらの CICS システムで無視されます。
- 一部の CICS 環境では、以下のリソース・テーブル属性値が CICSplex SM によって返されます。

リソース・テーブル	属性値	CICS 環境
LOCTRAN	RESSEC(RESSECEXT)	CICS/MVS

上記の値は、CICS によって返される CVDA 値と一致していません。CICS によって返される値は、他の CICS 環境では CVDA 値と矛盾しています。属性の固有性を維持するために、CICSplex SM は、CICS によって返された値に 9000 を付加します。CVDA 値の変換について詳しくは、TRANSLATE コマンドを参照してください。

関連するコマンド

DISCARD、FETCH、GETDEF、QUERY、RECEIVE、REFRESH、SPECIFY
FILTER、SPECIFY VIEW

オプション

CONTEXT(*data-value*)

このコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのコンテキストが想定されます。

COUNT(*data-ref*)

この操作の完了後にターゲット結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

CRITERIA(*data-area*)

この操作に使用されるフィルター式が入ったバッファを指定します。

CRITERIA オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを取得します。

FILTER(cpsm-token)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを取得します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

LENGTH(data-value)

CRITERIA バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、フィルター式以外のデータを含めてはなりません。

NOWAIT

GET コマンドが受け入れられるとすぐに制御をプログラムに戻して、コマンドを非同期的に処理できるようにします。

NOWAIT オプションを指定する場合、その後に RECEIVE コマンドを使用して、この要求の完了をテストする必要があります。非同期要求の結果は、ASYNCREQ リソース・テーブル・レコードとして返されます。

注: TOKEN オプションを指定する場合、デフォルトで NOWAIT オプションが指定されているものと解釈されます。

OBJECT(data-value)

レコードを取得するリソース・テーブルを指定します。この値は、有効なリソース・テーブルまたは有効なビューのどちらかの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。TEST パラメーターを使用する場合、**OBJECT** に CICS リソース・テーブル名を指定する必要があります。ビュー名など、その他の値を指定すると、エラーになります。

PARM(data-area)

リソース・テーブル・レコードの事前選択に使用されるパラメーター式が入ったバッファを指定します。

GET コマンドでパラメーター式を使用する方法については、PARM オプションの使用を参照してください。特定のリソース・テーブルに指定できるパラメーターの説明については、CICSplex SM リソース・テーブルを参照してください。

PARMLN(data-value)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

REASON(data-ref)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(data-ref)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(cpsm-token)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY

- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

CICSplex SM は、既存の結果セットの内容を、この GET コマンドによって要求されたリソース・テーブル・レコードに置き換えます。

このフィールドが以下の場合:

- 2 進ゼロに設定されている (COBOL、C、PL/I、またはアセンブラー)
- 初期設定されていない変数である (REXX)

上記の場合、CICSplex SM は、新規結果セットを作成して、識別トークンを同じフィールドで返します。

TEST パラメーターを使用する場合、**RESULT** にゼロの値を指定する必要があります。その他の値指定すると、エラーになります。

SCOPE(*data-value*)

このコマンドのスコープを指定します。

(このコマンドまたは以前の CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドで設定された) 現行コンテキストが CICSplex であり、OBJECT オプションに CICS リソースが指定されている場合、有効なスコープは必須です。スコープには以下を指定できます。

- CICSplex 自体の 1 文字から 8 文字の名前
- CICSplex 内の CICS システムまたは CICS システム・グループ
- CICSplex SM リソース記述 (RESDESC) に定義されている論理スコープ

OBJECT に CICS 定義リソースが指定されていて、PARM オプションに CSDGROUP パラメーターが含まれている場合、有効なスコープを指定できます。スコープには以下を指定できます。

- CICSplex 内の CICS システム。

現行コンテキストが CMAS であるか、OBJECT オプションにその他のタイプのリソース・テーブルが指定されている場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

SCOPE オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのスコープが想定されます。現行コンテキストが CICSplex であり、CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドにデフォルトのスコープが設定されていない場合、SCOPE オプションに対する INVALIDPARM 応答を受け取ります。

TEST

要求と一致するレコードの数のみを返します。TEST を指定する場合、要求によってレコードは返されません。TEST を指定する場合、OBJECT パラメーターに CICS リソース名を指定して、RESULT パラメーターにゼロの値を指定する必要があります。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOKEN(*data-value*)

非同期 GET 要求を後続の RECEIVE コマンドの結果と相互に関連付けるため

に選択する 1 文字から 4 文字のトークンを定義します。このトークンはプログラムによって使用されます。CICSplex SM は、この値を使用しません。トークンは、この GET 要求の完了時に RECEIVE コマンドによって返されます。

条件

GET コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

SCHEDULED

コマンドの処理がスケジュールされました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS または MAS の 1 つが応答しませんでした。

応答しなかった CMAS または MAS が一部のみである場合は、GET コマンドは有効な結果を生成することができます。COUNT がゼロより大きく、RESULT がゼロ以外である可能性があります。このような結果セットには、応答した CMAS および MAS からのデータが含まれています。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDDATA

無効なデータが検出されました。無効データを含むパラメーターは理由値として戻されます。

CRITERIA

CRITERIA バッファーにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

INVALIDCMD

以下のいずれか 1 つの理由により、コマンドが無効です。

FILTER

操作に渡されたフィルター式が大きすぎるか、または複雑すぎます。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- CRITERIA
- FILTER
- LENGTH
- OBJECT
- PARM
- PARMLLEN
- RESULT
- SCOPE
- TOKEN
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

SCOPE

指定されたスコープ内のいずれの MAS も使用不可であるか、いずれも要求されたリソース・テーブルをサポートしていません。

WORKLOAD

API 要求で指定されたワークロードは、ローカル CMAS で使用不可です。

NOTFOUND

以下の理由により、未検出状態が発生しました。

ATTRIBUTE

CRITERIA バッファで指定された属性は、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

NOTPERMIT

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下の理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

WARNING

コマンドは処理を完了しましたが、以下の理由により警告があります。

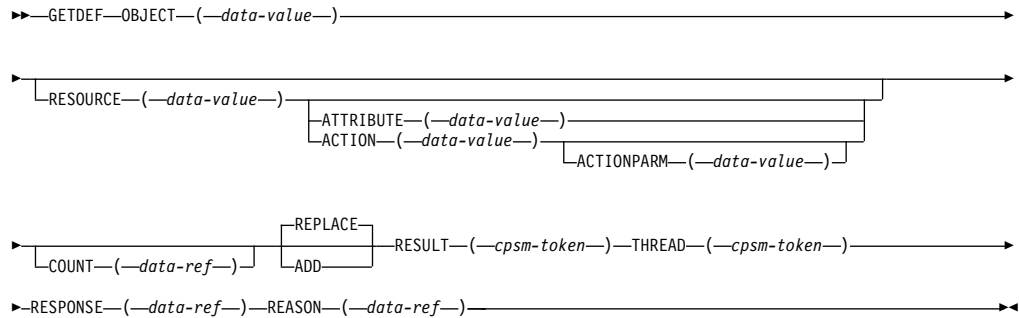
MAXRECORDS

MAS によって結果セットに追加されたレコードの数が、その MAS の MAXHISTRECS 値を超えていました。MAXHISTRECS 制限の範囲内のレコードが結果セットに追加されました。FILTER パラメーター値または PARM パラメーター値を変更して、MAS によって結果セットに追加されるレコードの数を増減してください。

注: 複数の MAS を含むスコープが指定されている場合、収集されるレコードの総数が個々の MAS の MASHISTRECS 値を超える可能性があります。

GETDEF

リソース・テーブル用に選択された記述レコードを含む結果セットを返します。



説明

このコマンドは、リソース・テーブル用に選択された記述レコードを含む結果セットを返します。

- GETDEF は、GET コマンドの一種です。GET は、テーブルによって表されるリソースのデータ・レコードを取得します。一方、GETDEF は、リソース・テーブル自体を記述する内部データを取得します。
- GETDEF コマンドは、各外部リソース・テーブルを記述する内部リソース・テーブルから、メタデータと呼ばれるこのデータを取得します。これらの内部リソース・テーブルは、CICSplex SM メタデータ・テーブルと呼ばれます。CICSplex SM メタデータ・テーブルの属性は、テーブルが表すリソースではなく、外部テーブルの特性です。GETDEF によって取得できる CICSplex SM メタデータ・リソース・テーブルのリストについては、OBJECT オプションの説明の Object を参照してください。
- GETDEF を使用して、他のコマンドによる処理に使用できるリソース・テーブルを確認できます。さらに、リソース・テーブルの属性、変更可能な属性で許可される値、およびリソース・テーブルに対して実行できるアクションを特定できます。GETDEF を使用して、CICSplex SM メタデータ・リソース・テーブル自体の説明を要求することもできます。
- GETDEF コマンドは、CICSplex SM によって提供されているリソース・テーブルでのみ使用できます。GETDEF は、SPECIFY VIEW コマンドによって作成された、リソース・テーブルのユーザー定義のビューでは有効ではありません。
- GETDEF によって取得されたデータ・レコードをリフレッシュするために REFRESH コマンドを使用することはできません。

関連するコマンド

DISCARD、FETCH、GET、LOCATE、QUERY

オプション

ACTION(*data-value*)

CICSplex SM メタデータ・レコードが検索されるリソース・テーブルに対する、12 文字のアクション名。

ACTIONPARM(*data-value*)

CICSplex SM メタデータ・レコードが検索されるリソース・テーブルに対するアクションの、API パラメーター・ストリングに示されているとおりの 12 文字のパラメーター名。

ADD

取得された CICSplex SM メタデータ・リソース・テーブル・レコードを既存のターゲット結果セットに追加します。既存の結果セットがターゲットとして指定されていない場合、ADD オプションは無視されます。

ATTRIBUTE(*data-value*)

CICSplex SM メタデータ・レコードを取得する対象として RESOURCE オプションで指定されたリソース・テーブルの 1 つ以上の属性を指定します。

OBJECT オプションで指定された CICSplex SM メタデータ・テーブルに応じて、この値は、特定の属性の 1 文字から 12 文字の名前、またはリソース・テーブル内のすべての属性を表すアスタリスク (*) とすることができます。

ATTRIBUTE オプションが必須ではない OBJECT に対してそのオプションを指定しない場合、データはリソース・テーブル内のすべての属性に対して検索されます。

CICSplex SM メタデータ・リソース・テーブルおよびそれぞれの有効な ATTRIBUTE 値の詳細については、OBJECT オプションの説明を参照してください。

COUNT(*data-ref*)

この操作の完了後にターゲット結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

OBJECT(*data-value*)

RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブル用に取得されるメタデータのタイプを指定します。この値は、以下のいずれかの CICSplex SM メタデータ・リソース・テーブル名でなければなりません。

OBJECT

RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブルのインスタンスごとに 1 つのレコードが返されます。このレコードは、リソース・テーブルの一般特性を記述します。以下のような関連オプションおよび制限があります。

- ACTION は無視されます。
- ATTRIBUTE は無視されます。
- ACTIONPARM は無視されます。
- RESOURCE は、特定のリソース・テーブル名またはすべてのリソース・テーブルを表す * でなければなりません。

OBJECT

RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブルで使用可能なアクションごとに 1 つのレコードが返されます。

以下のような関連オプションおよび制限があります。

- ACTION は通常、省略されます。存在する場合は、アクションの名前または * を指定できます。
- ATTRIBUTE は無視されます。
- ACTIONPARM は無視されます。
- RESOURCE は、特定のリソース・テーブル名でなければなりません。値 * は許可されません。

METADDESC

RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブルの属性ごとに 1 つのレコードが返されます。各レコードは、名前、データ・タイプ、長さ、およびリソース・テーブル内のオフセットなど、属性の基本構造のみを提供します。このような情報は、FETCH コマンドによって返されるバッファ内の属性フィールドにアクセスする際に役立つことがあります。

以下のような関連オプションおよび制限があります。

- ACTION は無視されます。
- ATTRIBUTE には、特定の属性名またはリソース・テーブル内のすべての属性を表す * を指定できます。
- ACTIONPARM は無視されます。
- RESOURCE は、特定のリソース・テーブル名でなければなりません。値 * は許可されません。

ATTR

RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブルの属性ごとに 1 つのレコードが返されます。各レコードは、属性に関する包括的な情報を提供します。

以下のような関連オプションおよび制限があります。

- ATTRIBUTE には、特定の属性名またはリソース・テーブル内のすべての属性を表す * を指定できます。
- RESOURCE は、特定のリソース・テーブル名でなければなりません。値 * は許可されません。

ATTRAVA

指定された属性に有効な EYUDA 値または CVDA 値ごとに 1 つのレコードが返されます。

以下のような関連オプションおよび制限があります。

- ATTRIBUTE は、データ・タイプ EYUDA、CVDAS、または CVDAT の特定の属性の名前でなければなりません。
- RESOURCE は、特定のリソース・テーブル名でなければなりません。値 * は許可されません。

注: ATTR 内部リソース・テーブルの AVAAVAIL 属性は、特定に属性で AVA リストが使用可能であるかどうかを示します。

METANAME

CVDA および EYUDA ごとに 1 つのレコードが返されます。キーワード RESOURCE、ATTRIBUTE、ACTION、および ACTIONPARM は無視されます。

METAPARM

指定された RESOURCE および ACTION のすべてのパラメーターに対して 1 つのレコードが返されます。

- ACTION は、特定のアクション名でなければなりません。値 * は許可されません。
- ACTIONPARM は無視されます。
- RESOURCE は、特定のテーブルでなければなりません。値 * は許可されません。

PARMAVA

指定された RESOURCE、ACTION、および ACTIONPARM に対して 1 つのレコードが返されます。

- ACTION は、特定のアクション名でなければなりません。値 * は許可されません。
- ACTIONPARM は、特定のパラメーター名でなければなりません。値 * は許可されません。
- RESOURCE は、特定のテーブルでなければなりません。値 * は許可されません。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

REPLACE

既存のターゲット結果セットの内容を削除して、この操作の結果に置き換えます。操作によって、どの CICSplex SM メタデータ・リソース・テーブル・レコードも選択されない場合、ターゲット結果セットは破棄されます。

既存の結果セットがターゲットとして指定されていない場合、REPLACE オプションは無視されます。

RESOURCE(*data-value*)

CICSplex SM メタデータ・レコードを取得するリソース・テーブルを指定します。

ATTRIBUTE オプションを指定する場合、この値は、特定の CICSplex SM リソース・テーブルの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。そうでない場合、アスタリスク (*) の値を指定して、すべてのリソース・テーブルのデータを検索できます。

注: GETDEF は、CICSplex SM によって提供されているリソース・テーブルでのみ使用できます。GETDEF は、SPECIFY VIEW コマンドによって作成された、リソース・テーブルのユーザー定義のビューでは有効ではありません。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

CICSplex SM は、既存の結果セットの内容を、この GETDEF コマンドによって要求されたリソース・テーブル・レコードで置き換えます。操作によって、どのリソース・テーブル・レコードも選択されない場合、ターゲット結果セットは破棄されます。

このフィールドが以下の場合:

- 2 進ゼロに設定されている (COBOL、C、PL/I、またはアセンブラー)
- 初期設定されていない変数である (REXX)

上記の場合、CICSplex SM は、新規結果セットを作成して、識別トークンを同じフィールドで返します。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

GETDEF コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

OBJECT が OBJECT オプションと共に指定されましたが、指定された RESOURCE に定義されたアクションはありません。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INCOMPATIBLE

以下の理由により、非互換状態が発生しました。

INVALIDOBJ

RESULT オプションに指定されたターゲット結果セットは、このコマンドの出力と互換性がありません。結果セットには、コマンドによって生成されるのと同じタイプの (OBJECT オプションに指定された) メタデータが含まれている必要があります。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ACTION
- ACTIONPARM
- ATTRIBUTE
- OBJECT
- RESOURCE
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下のいずれかの理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM ではサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

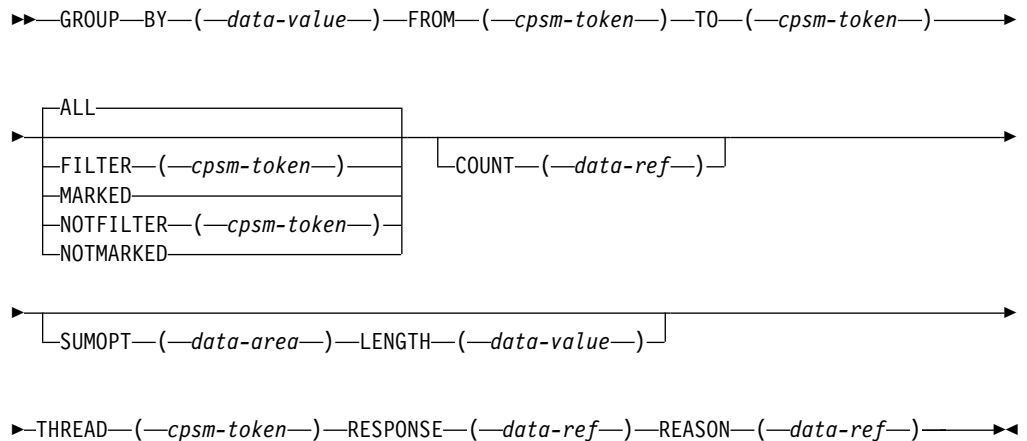
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

GROUP

要約済み結果セットを返します。



説明

このコマンドは、結果セット内の一部またはすべてのリソース・テーブル・レコードをグループ化することにより、要約済み結果セットを返します。

- ターゲット結果セットとして、既存の結果セットまたはこのプロセスによって作成される新規の結果セットを指定できます。既存の結果セットを GROUP コマンドのターゲットとして指定する場合、以下の点に注意してください。
 - 同じソース結果セットに対する以前の GROUP コマンドによって生成された要約済み結果セットでなければなりません。
 - ソース結果セット内に現在存在しているのと同じタイプのリソース・テーブル・レコードが含まれている必要があります。
 - 結果セット内の既存のレコードは上書きされます。
- ソース結果セットの選択したレコードから要約済み結果セットを作成するには、以下を使用できます。
 - ソース結果セットのフィルターを定義する SPECIFY FILTER コマンド。

- ソース結果セットのレコードにマークを付ける MARK コマンドおよび UNMARK コマンド。
- GROUP コマンドを使用できるのは、長さが 251 以下の属性だけです。長さが 251 を超える属性では、RESPONSE(INVALIDPARM) REASON(BY) エラーが発生します。
- 要約済み結果セットの処理について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

関連するコマンド

DISCARD、EXPAND、FETCH、GET、LOCATE、MARK、ORDER、QUERY、SPECIFY FILTER

オプション

ALL

ソース結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードを要約します。

BY(*data-value*)

この操作のグループ化因数として使用される値を持つリソース・テーブル属性を指定します。この値は、リソース・テーブルの有効な属性の 1 文字から 12 文字の名前でなければなりません。

COUNT(*data-ref*)

この操作の完了後にターゲット結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを要約します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

FROM (*cpsm-token*)

この操作の対象のソース結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- PERFORM OBJECT

注: ソース結果セットを破棄すると、その結果セットから作成されたすべての要約済み結果セットも破棄されます。

LENGTH(*data-value*)

SUMOPT バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、要約式以外のデータを含めてはなりません。

MARKED

ソース結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみを要約します。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみを要約します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

ソース結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードのみを要約します。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマーク付けられます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

SUMOPT(*data-area*)

この操作に使用される要約式が入ったバッファを指定します。SUMOPT 値は、リソース・テーブル属性のデフォルトの要約オプションを指定変更します。

要約式を形成する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブルのデフォルトの要約オプションのリストについては、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

T0 (*cpsm-token*)

この操作の対象のターゲット結果セットを指定します。

このフィールドが以下の場合:

- 2 進ゼロに設定されている (COBOL、C、PL/I、またはアセンブラー)
- 初期設定されていない変数である (REXX)

CICSplex SM は、新しい要約済み結果セットを作成して、識別トークンを同じフィールドで返します。

それ以外の場合は、FROM オプションに指定された結果セットに対する以前の GROUP コマンドによって生成された既存の要約済み結果セットを指定できます。つまり、要約済み結果セットを再使用できます。ただし、同じ結果セット内のレコードを再び要約するためにのみ使用できます。

注: 以前に生成された要約済み結果セットのトークンを指定する場合、結果セットがまだ存在していることを確認してください。ソース結果セットを破棄すると、その結果セットから作成されたすべての要約済み結果セットも破棄されます。

条件

GROUP コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BUSY 以下のいずれかの理由により、使用中状態が発生しました。

FROM

FROM オプションで指定されたソース結果セットが別のコマンドによって処理中です。

TO TO オプションで指定されたターゲット結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- BY
- FILTER
- FROM
- LENGTH

- NOTFILTER
- SUMOPT
- THREAD
- TO

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

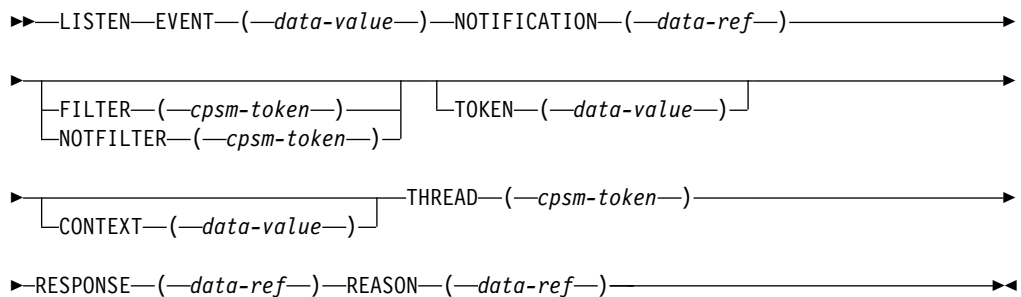
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

LISTEN

通知要求が処理スレッドに送信されます。



説明

このコマンドは、CICSplex で特定のイベントが発生した場合に通知が処理スレッドに送信されることを要求します。

- イベントは、タイプが CPSM Notification のリソース・テーブルによって表されます。

- LISTEN コマンドは、RECEIVE コマンドと一緒に使用されます。LISTEN を使用してイベントの通知を要求する場合、その後で RECEIVE コマンドを使用してイベントに関する情報を取得する必要があります。
- 1 つの API 処理スレッドに一度に存在できる未解決の完了済み非同期要求の数は、最大 256 です。RECEIVE コマンドを定期的に発行せず、処理スレッドが最大数の 256 に達した場合、非同期要求は破棄され、処理されません。非同期処理の詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

関連するコマンド

ADDRESS、CANCEL、RECEIVE

オプション

CONTEXT(*data-value*)

このコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのコンテキストが想定されます。

EVENT(*data-value*)

listen されるイベントを表すリソース・テーブルを指定します。この値は、有効な CICSplex SM Notification リソース・テーブルの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。タイプ別の CICSplex SM リソース・テーブルのリストについては、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすイベントのみを listen します。

FILTER オプションを使用して、受信する通知を、特定の CMAS または CICSplex に関連付けられているイベントに制限することができます。例えば、次のようなフィルターを作成できます。

```
PLEXNAME=EYUPLX01.
```

LISTEN コマンドで、CICSplex EYUPLX01 によって生成されたイベントのみの通知を受け取るためのフィルターを指定できます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないイベントのみを listen します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTIFICATION(*data-ref*)

CICSplex SM がこの通知要求に割り当てるフルワード・トークンを受け取る変数名を指定します。

通知要求を取り消す場合、この識別トークンを CANCEL コマンドで指定する必要があります。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOKEN(*data-value*)

この LISTEN 要求を後続の RECEIVE コマンドの結果と相互に関連付けるために選択する 1 文字から 4 文字のトークンを定義します。このトークンはプログラムによって使用されます。CICSplex SM は、この値を使用しません。トークンは、指定されたタイプのイベントの発生時に RECEIVE コマンドによって返されます。

条件

LISTEN コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INCOMPATIBLE

以下の理由により、非互換状態が発生しました。

INVALIDEVT

指定されたイベントは、FILTER オプションまたは NOTFILTER オプションに指定されたフィルターと互換性がありません。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- EVENT
- FILTER
- NOTFILTER
- NOTIFICATION
- THREAD
- TOKEN

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続を試行していた CMAS で、API 処理を行えません。

PLEXMGR

処理スレッドが現在接続されている CMAS が、指定された CICSplex の管理に参加せず、CICSplex を管理するその他のすべての CMAS が使用不可です。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

LOCATE

結果セット内にレコード・ポインターを配置します。

►►—LOCATE—| pointer_group |—RESULT—(—*cpsm-token*—)—————►

►THREAD—(—*cpsm-token*—)—RESPONSE—(—*data-ref*—)—REASON—(—*data-ref*—)—►

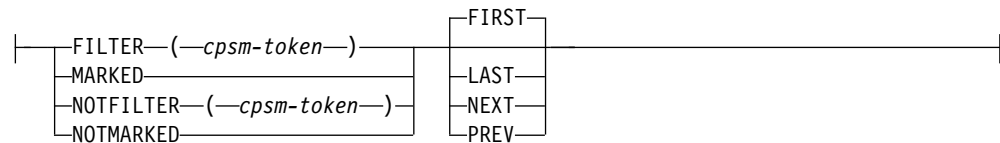
pointer_group



POSITION_group



FILTER_group



説明

このコマンドは、結果セット内にレコード・ポインターを配置します。

- 結果セット内のレコードの操作またはデータの更新を行う API コマンドは、次のようにレコード・ポインターの位置に影響を与えます。
 - GET コマンドの実行後、ポインターは、結果セットの最上部に配置されます。
 - FETCH コマンドの実行後、ポインターは、結果セット内の次のレコード (つまり、ポインターが移動した順方向または逆方向のどちらの方向でもフェッチされた最後のレコードの次のレコード) に配置されます。(指定された基準と一致するレコードがなかったために) レコードがフェッチされなかった場合、ポインターが移動した方向に応じて、ポインターは結果セットの最上部または最下部に配置されます。

レコードの操作またはデータの更新を行うその他のコマンドを発行した後のレコード・ポインターの位置は、コマンドで指定したオプションなどの要因の組み合わせによって異なります。ポインターの位置を確認するには、LOCATE コマンドを使用して結果セット内にポインターを明示的に配置してください。

- LOCATE コマンドは、結果セット内のすべての削除済みレコードをスキップします。削除されたレコードにレコード・ポインターを配置しようとすると、RESPONSE 値 NODATA を受け取ります。

関連するコマンド

COPY、DELETE、FETCH、GETDEF、GROUP、MARK、ORDER、
PERFORM OBJECT、PERFORM SET、REFRESH、SET、
SPECIFY FILTER、UNMARK

オプション

BACKWARD(*data-value*)

レコード・ポインターを、指定された数のリソース・テーブル・レコードだけ逆方向に移動します。

ポインターが結果セットの最上部に達した場合は、最初のリソース・テーブル・レコードに配置されたままになります。ポインターは、結果セットの最下部に向かって逆方向の移動を続行しません。

BOTTOM

レコード・ポインターを結果セット内の最後のリソース・テーブル・レコードに移動します。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。

FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを配置します。オプション

FIRST、**LAST**、**NEXT**、または **PREV** は、結果セットの中で検索がどこで開始され、どの方向で続行されるかを決定します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が **SPECIFY FILTER** コマンドによって戻されます。

FIRST

結果セット内の最初のリソース・テーブル・レコードから、フィルター基準またはマーキング基準に基づく検索を開始します。一致が検出されるまで、検索は結果セットを順方向に進みます。

FORWARD(*data-value*)

レコード・ポインターを、指定された数のリソース・テーブル・レコードだけ順方向に移動します。

ポインターが結果セットの最下部に達した場合、最後のリソース・テーブル・レコードに配置されたままになります。ポインターは、結果セットの最上部に向かって順方向の移動を続行しません。

LAST

結果セット内の最後のリソース・テーブル・レコードから、フィルター基準またはマーキング基準に基づく検索を開始します。一致が検出されるまで、検索は結果セットを逆方向に進みます。

MARKED

マークを付けられているリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを配置します。オプション **FIRST**、**LAST**、**NEXT**、または **PREV** は、結果セットの中で検索がどこで開始され、どの方向で続行されるかを決定します。

MARK コマンドと **UNMARK** コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NEXT

結果セット内の現行のリソース・テーブル・レコードから、フィルター基準またはマーキング基準に基づく検索を開始します。一致が検出されるまで、検索は結果セットを順方向に進みます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。

NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを配置します。オプション FIRST、LAST、NEXT、または PREV は、結果セットの中で検索がどこで開始され、どの方向で続行されるかを決定します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

マークを付けられていないリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを配置します。オプション FIRST、LAST、NEXT、または PREV は、結果セットの中で検索がどこで開始され、どの方向で続行されるかを決定します。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

POSITION(*data-value*)

結果セット内の *n* 番目のリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを移動します。

この値は、結果セット内のレコードの相対位置を示す数値でなければなりません。結果セット内の最初のレコードは数値 1 で識別されます。

例えば、結果セット内の 5 番目のリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを移動するには、POSITION(5) と指定します。

PREV

結果セット内の直前のリソース・テーブル・レコードから、フィルター基準またはマーキング基準に基づく検索を開始します。一致が検出されるまで、検索は結果セットを逆方向に進みます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOP

結果セット内の最初のリソース・テーブル・レコードにレコード・ポインターを移動します。

条件

LOCATE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

以下のいずれかの理由により、指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BACKWARD

後方には検索基準を満たすレコードがありません。

FORWARD

前方には検索基準を満たすレコードがありません。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

SOLRESOURCE

ローカル側で所有されている (つまり、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースによって所有されている) 必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- BACKWARD
- FILTER
- FORWARD
- NOTFILTER
- POSITION
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続を試行していた CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

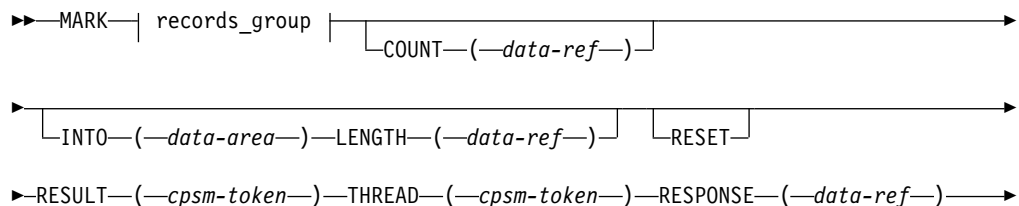
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

MARK

結果セット内の選択されたリソース・テーブル・レコードにマークを付けます。



► REASON—(—data-ref—)—————▶

records_group

CURRENT	
ALL	
FILTER—(—cpsm-token—)	
NOTFILTER—(—cpsm-token—)	
POSITION—(—data-value—)	
PARM—(—data-area—)—PARMLEN—(—data-value—)	

説明

このコマンドは、結果セット内の選択されたりソース・テーブル・レコードにマークを付けます。

- MARK コマンドは、結果セット内の次のレコードではなく、フェッチされた最後のレコードで常に処理を開始します。
- 以前に結果セットでマークを付けたリソース・テーブル・レコードは、RESET オプションを使用しない限り、マークを付けられたままになります。

関連するコマンド

COPY、DELETE、EXPAND、FETCH、GROUP、LOCATE、PERFORM SET、REFRESH、SET、SPECIFY FILTER、UNMARK

オプション

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードにマークを付けます。
ALL を指定する場合、RESET オプションは無視されます。

COUNT(data-ref)

マークを付けることができなかったリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

CURRENT

現行のリソース・テーブル・レコードのみにマークを付けます。

FILTER(cpsm-token)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみにマークを付けます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

INTO(data-area)

マークを付けることができなかったリソース・テーブル・レコードのリストを受け取るバッファーを指定します。

このバッファーの長さは、MARK 要求によって生成される可能性がある最大数のレコード番号を保持するのに十分でなければなりません (いずれにもマークを

付けることができない場合)。レコード番号は、INTO バッファで (範囲ではなく) 個別にリストされ、コンマで区切られます。

注: (バッファの長さが十分でなかったために) RESPONSE 値 WARNING AREATOOSMALL を受け取る場合、このバッファに返されたデータは、マークを付けることができなかったレコードの部分的なリストを表します。

LENGTH(*data-ref*)

INTO バッファの長さを指定するフルワード値。

CICSplex SM がこのフィールドで返す値は、次のように MARK コマンドの RESPONSE 値によって異なります。

OK INTO バッファに返されるデータの実際の長さ。

WARNING AREATOOSMALL

マークを付けることができなかったレコードのリスト全体を保持するのに必要になるバッファ長。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみにマークを付けます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

PARM(*data-area*)

マークを付けるリソース・テーブル・レコードをリストするパラメーター式が入ったバッファを指定します。

MARK コマンドのパラメーター式は、レコード番号の文字ストリングです。例えば、以下のような項目が含まれています。

```
PARM('1,3,6:9,24.')
```

個別のレコードを指定するには、レコード番号をコンマで区切ります。レコードの範囲を指定するには、下位と上位のレコード番号をコロンで区切ります。パラメーター式の全体は、ピリオドで終了させなければなりません。

MARK コマンドでパラメーター式を使用する方法について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

PARMLN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

POSITION(*data-value*)

結果セット内の *n* 番目のリソース・テーブル・レコードにマークを付けます。

この値は、結果セット内のレコードの相対位置を示す数値でなければなりません。結果セット内の最初のレコードは数値 1 で識別されます。

例えば、結果セット内の 5 番目のリソース・テーブル・レコードにマークを付けるには、POSITION(5) と指定します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESET

結果セット内のリソース・テーブル・レコードに以前に付けられたマークをすべて解除して、現行の MARK 要求で指定されたレコードのみにマークを付けます。

RESET オプションを使用しない場合、以前にマークを付けられたすべてのレコードは、マークを付けられたままになります。つまり、以前にマークを付けられたレコードに加えて、現行の MARK 要求で指定されたレコードにマークが付けられます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

MARK コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

WARNING

コマンドは処理を完了しましたが、以下のいずれかの理由により警告があります。

AREATOOSMALL

INTO オプションおよび LENGTH オプションを指定しましたが、バッファの長さが、マークを付けることができなかったレコードのストリングを保持するのに十分ではありませんでした。

DATAERROR

PARM バッファで指定された 1 つ以上のレコードにマークを付けることができませんでした。COUNT オプションを指定した場合、マークを付けることができなかったレコードの数が返されます。INTO オプションおよび LENGTH オプションを指定した場合、レコードのリストがバッファに返されます。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

SOLRESOURCE

ローカル側で所有されている (つまり、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースによって所有されている) 必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- COUNT
- FILTER
- INTO
- LENGTH
- NOTFILTER
- PARM
- PARMLen
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

ORDER

結果セット内のリソース・テーブル・レコードをソートします。

```
►►—ORDER—BY—(—data-area—)—LENGTH—(—data-value—)—————►
►—RESULT—(—cpsm-token—)—THREAD—(—cpsm-token—)—RESPONSE—(—data-ref—)————►
►—REASON—(—data-ref—)—————►◄
```

説明

このコマンドは、結果セット内のリソース・テーブル・レコードをユーザー指定の順序でソートします。

- デフォルトでは、レコードは、リソース・テーブルのキー属性によってソートされます。
- 結果セットに指定するソート順は、別の ORDER コマンドを発行するまで有効なままになります。
- 結果セットに削除済みレコードが含まれている場合、それらのレコードはソート・プロセスの対象に組み込まれます。他のレコードと同じ属性によってソートされるため、新しい順序の結果セット内でのそれらの位置を判別するのが困難になることがあります。この状況が発生しないように、ORDER を発行する前に REFRESH コマンドを発行してください。REFRESH により、削除済みレコードが結果セットから除去されます。

関連するコマンド

COPY、GET、GETDEF、GROUP、LOCATE、PERFORM OBJECT

オプション

BY(*data-area*)

この操作に使用される順序式が入ったバッファを指定します。

順序式は、リソース・テーブル・レコードのソートに使用される属性のリストです。例えば、以下のような項目が含まれています。

CICSSYS,TRANID.

ここで、属性名はコンマまたはスペースで区切られ、式全体はピリオドで終了します。

この例では、1 次ソート・キーとして CICS システム名を使用し、2 次キーとしてトランザクション ID を使用し、リソース・テーブル・レコードがソートされます。デフォルトのソート順は昇順です。属性値を降順でソートするには、属性名の末尾に /D を付加します。

ORDER コマンドで順序式を使用する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

LENGTH(*data-value*)

BY バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、順序式以外のデータを含めてはなりません。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

ORDER コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- BY
- LENGTH
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

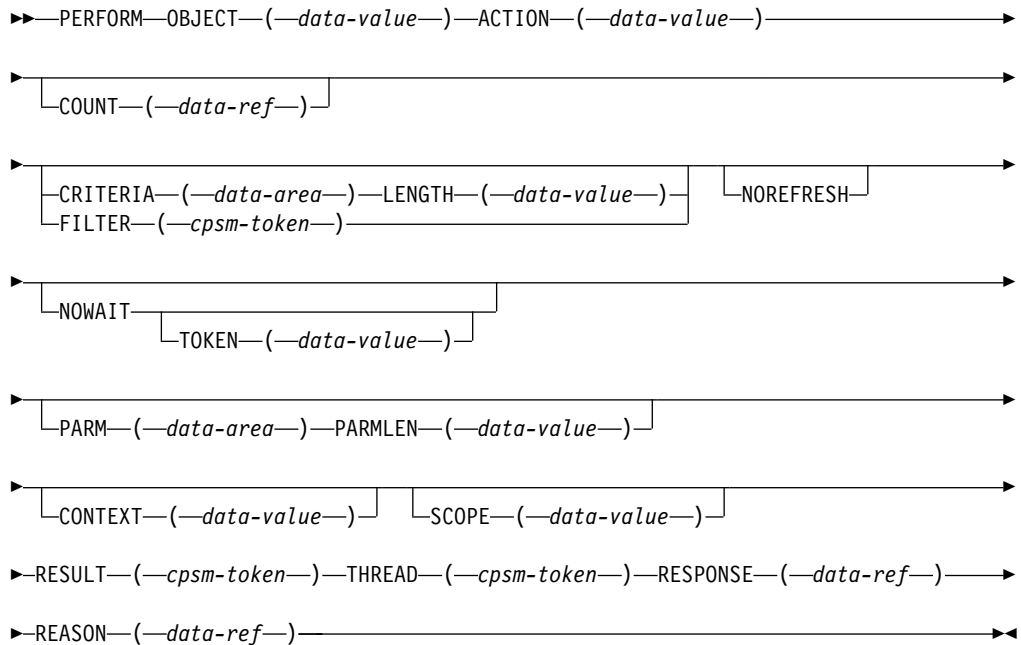
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

PERFORM OBJECT

1 つ以上のリソースに対してアクションを実行します。



説明

このコマンドは、1 つ以上のリソースに対してアクションを実行します。

- **PERFORM OBJECT** によってアクションが実行されるリソースは、結果セット内のレコードとして存在している必要はありません。結果セットは、このプロセスによって暗黙的に作成されます。
- **PERFORM OBJECT** コマンドの発行時に有効になっているコンテキストおよびスコープに、要求されたアクションをサポートしていない CICS システムが含まれている場合、要求はそれらの CICS システムで無視されます。
- **PERFORM OBJECT** コマンドには 2 つのフェーズがあります。最初のフェーズでは結果セットを作成して、2 番目のフェーズでは、要求されたアクションを結果セット内のレコードに対して実行します。結果セットの作成中にエラーが発生しても、結果セットが空でない場合は、要求されたアクションは、結果セット内に存在しているレコードに対して試行されます。

関連するコマンド

DISCARD、GET、LOCATE、PERFORM SET、QUERY、SET、SPECIFY FILTER

オプション

ACTION(*data-value*)

実行するアクションを指定します。この値は、リソース・テーブルの有効なアクションの 1 文字から 12 文字の名前でなければなりません。

特定のリソース・テーブルに有効なアクションの説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

CONTEXT(*data-value*)

このコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのコンテキストが想定されます。

COUNT(*data-ref*)

この操作の完了後にターゲット結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

CRITERIA(*data-area*)

この操作に使用されるフィルター式が入ったバッファを指定します。

CRITERIA オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを取得します。

フィルター式を形成する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを取得します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

LENGTH(*data-value*)

CRITERIA バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、フィルター式以外のデータを含めてはなりません。

NOREFRESH

PERFORM OBJECT によって作成された結果セット内のリソース・テーブル・レコードをリフレッシュしないことを指定します。レコードは、結果セットの作成時のリソースの状況を反映します。

NOREFRESH オプションを指定しない場合、この操作の完了後のリソースの状況を反映するためにリソース・テーブル・レコードがリフレッシュされます。

NOWAIT

PERFORM OBJECT コマンドが受け入れられるとすぐに制御をプログラムに戻して、コマンドを非同期的に処理できるようにします。

NOWAIT オプションを指定する場合、その後に RECEIVE コマンドを使用して、この要求の完了をテストする必要があります。非同期要求の結果は、ASYNCREQ リソース・テーブル・レコードとして返されます。非同期処理の詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

注: TOKEN オプションを指定する場合、デフォルトで NOWAIT オプションが指定されているものと解釈されます。

OBJECT(*data-value*)

アクションを実行する対象のリソース・テーブルを指定します。この値は、有効なリソース・テーブルの 8 文字の名前でなければなりません。

PARM(*data-area*)

アクションの実行に使用されるパラメーター式が入ったバッファを指定します。

PERFORM OBJECT コマンドでパラメーター式を使用する方法について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブル・アクションに必要なパラメーターの説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

PARMLEN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

CICSplex SM は、既存の結果セットの内容を、この **PERFORM OBJECT** コマンドによって要求されたリソース・テーブル・レコードに置き換えます。

このフィールドが以下の場合:

- 2 進ゼロに設定されている (COBOL、C、PL/I、またはアセンブラー)
- 初期設定されていない変数である (REXX)

上記の場合、CICSplex SM は、新規結果セットを作成して、識別トークンを同じフィールドで返します。

SCOPE(*data-value*)

このコマンドのスコープを指定します。

SCOPE オプションを使用するには、(このコマンドあるいは以前の CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドで設定された) 現行コンテキストが CICSplex でなければなりません。スコープには以下を指定できます。

- CICSplex 自体の 1 文字から 8 文字の名前
- CICSplex 内の CICS システムまたは CICS システム・グループ
- CICSplex SM リソース記述 (RESDESC) に定義されている論理スコープ

OBJECT に CICS 定義リソースが指定されていて、PARM オプションに **CSDGROUP** パラメーターが含まれている場合、有効なスコープを指定できます。スコープには以下を指定できます。

- CICSplex 内の CICS システム。

現行コンテキストが CMAS であるか、OBJECT オプションにその他のタイプのリソース・テーブルが指定されている場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

SCOPE オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのスコープが想定されます。現行コンテキストが CICSplex であり、CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドにデフォルトのスコープが設定されていない場合、SCOPE オプションに対する INVALIDPARM 応答を受け取ります。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOKEN(*data-value*)

非同期 **PERFORM OBJECT** 要求を後続の RECEIVE コマンドの結果と相互に関連付けるために選択する 1 文字から 4 文字のトークンを定義します。このトークンはプログラムによって使用されます。CICSplex SM は、この値を使用しません。トークンは、この **PERFORM OBJECT** 要求の完了時に RECEIVE コマンドによって返されます。

条件

PERFORM OBJECT コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

SCHEDULED

コマンドの処理がスケジュールされました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS または MAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDDATA

無効なデータが検出されました。無効データを含むパラメーターは理由値として戻されます。

PARM

PARM バッファーにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

CRITERIA

CRITERIA バッファーにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

INVALIDCMD

以下のいずれか 1 つの理由により、コマンドが無効です。

FILTER

操作に渡されたフィルター式が大きすぎるか、または複雑すぎます。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ACTION
- CONTEXT
- CRITERIA

- FILTER
- LENGTH
- OBJECT
- PARM
- PARMLLEN
- RESULT
- SCOPE
- THREAD
- TOKEN

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

PLEXMGR

処理スレッドが現在接続されている CMAS が、指定された CICSplex の管理に参加せず、CICSplex を管理するその他のすべての CMAS が使用不可です。

SCOPE

指定されたスコープ内のいずれの MAS も使用不可であるか、いずれも要求されたアクションをサポートしていません。

WORKLOAD

API 要求で指定されたワークロードは、ローカル CMAS で使用不可です。

NOTFOUND

以下のいずれかの理由により、未検出状態が発生しました。

ACTION

ACTION オプションで指定されたアクションは、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

ATTRIBUTE

CRITERIA バッファまたは PARM バッファで指定された属性は、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

NOTPERMIT

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

TABLEERROR

以下の理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは、リソース・テーブルに必須フィールドが欠落しているか、1 つ以上の競合するフィールドが含まれているか、あるいは重複がある場合に起こることがあります。BAS では、必要なセキュリティ許可がない場合にも、このエラーが発生することがあります。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

ACTION

指定されたアクションは、CONNECT コマンドで使用されているバージョンではサポートされていません。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

WARNING

以下のいずれかの理由により、PERFORM OBJECT コマンドの一部のみが完了した可能性があります。

RESULT

コマンドで使用する結果セットの作成中に、OK 以外の応答を受信しました。ただし、一部の結果セット・レコードが使用可能で、それらに対しては、要求されたアクションが正常に実行されました。RESULT オプションを指定せずに FEEDBACK コマンドを使用して、OK 以外の応答に関する情報を取得してください。

ACTION

コマンドで使用する結果セットの作成中に、OK 以外の応答を受信しました。ただし、一部の結果セット・レコードが使用可能で、要求されたアクションが試行されました。TABLEERROR または DATAERROR の CICSplex SM の応答または理由が原因で、指定されたアクションは、少なくとも 1 つの結果セット・レコードで正常に完了しませんでした。

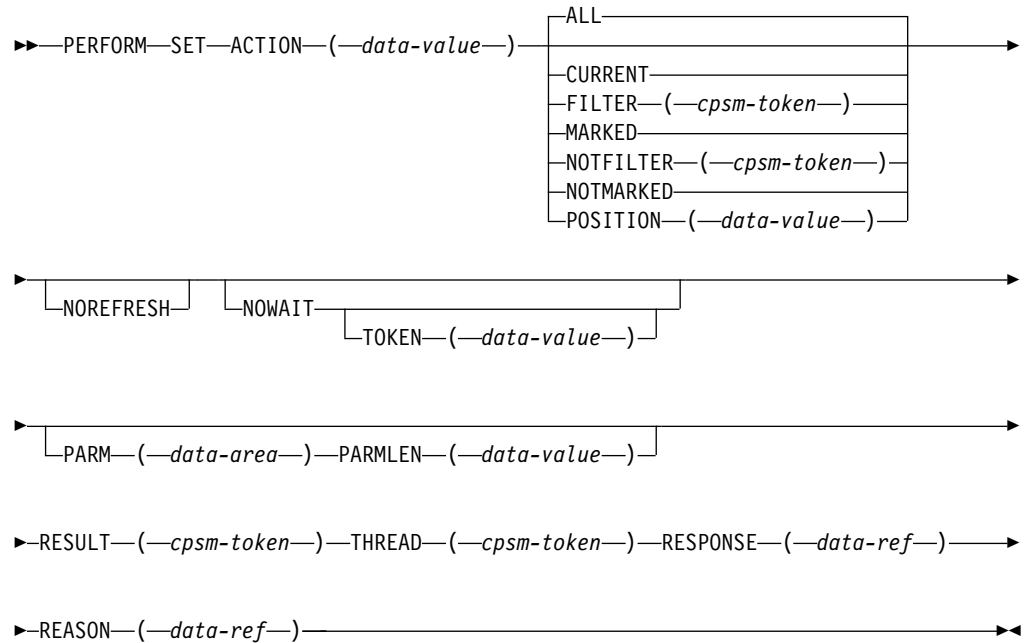
RESULT オプションを指定せずに FEEDBACK コマンドを使用して、結果セットの作成中に発生したエラーに関する情報を取得してください。TABLEERROR または DATAERROR の応答または理由の原因となったレコードに関する情報を取得するには、RESULT オプションを指定して FEEDBACK コマンドを使用してください。

WORKLOAD

API 要求で指定されたワークロードは、ローカル CMAS で使用不可です。

PERFORM SET

1 つ以上のリソースに対してアクションを実行します。



説明

このコマンドは、既存の結果セット内のリソース・テーブル・レコードによって表されている 1 つ以上のリソースに対してアクションを実行します。PERFORM SET コマンドの発行時に有効になっているコンテキストおよびスコープに、要求されたアクションをサポートしていない CICS システムが含まれている場合、要求はそれらの CICS システムで無視されます。

関連するコマンド

LOCATE、MARK、PERFORM OBJECT、SET、SPECIFY FILTER

オプション

ACTION(data-value)

実行するアクションを指定します。この値は、リソース・テーブルの有効なアクションの 1 文字から 12 文字の名前でなければなりません。

特定のリソース・テーブルに有効なアクションの説明については、
『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードに対して、指定されたアクションを実行します。

CURRENT

現行のリソース・テーブル・レコードのみに対して、指定されたアクションを実行します。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみに対してアクションを実行します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

MARKED

結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみに対して、指定されたアクションを実行します。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOREFRESH

ソース結果セット内のリソース・テーブル・レコードをリフレッシュしないことを指定します。レコードは、PERFORM SET コマンドの処理前のリソースの状況を反映します。

NOREFRESH オプションを指定しない場合、この操作の完了後のリソースの状況を反映するためにリソース・テーブル・レコードがリフレッシュされます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみに対してアクションを実行します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードのみに対して、指定されたアクションを実行します。MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOWAIT

PERFORM SET コマンドが受け入れられるとすぐに制御をプログラムに戻して、コマンドを非同期的に処理できるようにします。

NOWAIT オプションを指定する場合、その後に RECEIVE コマンドを使用して、この要求の完了をテストする必要があります。非同期要求の結果は、ASYNCREQ リソース・テーブル・レコードとして返されます。非同期処理の詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

注: TOKEN オプションを指定する場合、デフォルトで NOWAIT オプションが指定されているものと解釈されます。

PARM(*data-area*)

アクションの実行に使用されるパラメーター式が入ったバッファを指定します。

PERFORM SET コマンドでパラメーター式を使用する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブル・アクションに必要なパラメーターの説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

PARMLEN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

POSITION(*data-value*)

結果セット内の *n* 番目のリソース・テーブル・レコードに対して、指定されたアクションを実行します。

この値は、結果セット内のレコードの相対位置を示す数値でなければなりません。結果セット内の最初のレコードは数値 1 で識別されます。

例えば、結果セット内の 5 番目のリソース・テーブル・レコードに対して、指定されたアクションを実行するには、POSITION(5) と指定します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOKEN(*data-value*)

非同期 PERFORM SET 要求を後続の RECEIVE コマンドの結果と相互に関連付けるために選択する 1 文字から 4 文字のトークンを定義します。このトークンはプログラムによって使用されます。CICSplex SM は、この値を使用しません。トークンは、この PERFORM SET 要求の完了時に RECEIVE コマンドによって返されます。

条件

PERFORM SET コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

SCHEDULED

コマンドの処理がスケジュールされました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。ALL オプションが指定されていた場合、以下の理由が返される可能性があります。

FORWARD

前方には検索基準を満たすレコードがありません。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS または MAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDDATA

無効なデータが検出されました。無効データを含むパラメーターは理由値として戻されます。

PARM

PARM バッファにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ACTION
- FILTER
- NOTFILTER
- PARM
- PARMLen
- POSITION
- RESULT
- THREAD
- TOKEN

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

PLEXMGR

処理スレッドが現在接続されている CMAS が、指定された CICSplex の管理に参加せず、CICSplex を管理するその他のすべての CMAS が使用不可です。

SCOPE

指定されたスコープ内の少なくとも 1 つの MAS が使用不可です。

WORKLOAD

API 要求で指定されたワークロードは、ローカル CMAS で使用不可です。

以下のいずれかの理由により、未検出状態が発生しました。

ACTION オプションで指定されたアクションは、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

CRITERIA バッファまたは PARM バッファで指定された属性は、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

以下の理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは、リソース・テーブルに必須フィールドが欠落しているか、1 つ以上の競合するフィールドが含まれているか、あるいは重複がある場合に起こることがあります。BAS では、必要なセキュリティ許可がない場合にも、このエラーが発生することがあります。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

指定されたアクションは、CONNECT コマンドで使用されているバージョンではサポートされていません。

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

CICSplex SM のコンテキストおよびスコープを定義します。



関連するコマンド

CONNECT

説明

このコマンドは、API 処理スレッドによって発行される後続のコマンドに CICSplex SM のコンテキストおよびスコープを定義します。

オプション

CONTEXT(*data-value*)

このスレッドに対して発行される後続のコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

指定されたコンテキストは、後続のコマンドで指定変更または変更されるまで、このスレッドに対して有効なままになります。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

SCOPE(*data-value*)

このスレッドに対して発行される後続のコマンドのスコープを指定します。

SCOPE オプションは、CONTEXT オプションを修飾します。コンテキストが CICSplex である場合、スコープは以下のようになります。

- CICSplex 自体の 1 文字から 8 文字の名前
- CICSplex 内の CICS システムまたは CICS システム・グループ
- CICSplex SM リソース記述 (RESDESC) に定義されている論理スコープ

コンテキストが CMAS である場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

指定されたスコープは、特定のコマンドのために指定変更するか、別の QUALIFY コマンドを発行して変更しない限り、スレッドに対して有効なままになります。SCOPE オプションを指定しない場合に想定されるスコープ値はありません (つまり、CONNECT コマンドによってスレッドに設定されたデフォルトのスコープは保持されません)。

注: 特定の API コマンドでは、コンテキストが CICSplex である場合に有効なスコープが必要です。QUALIFY コマンドにスコープを指定しない場合、CICS リソースを表すリソース・テーブルに対して以下のいずれかのコマンドを発行するときに、SCOPE オプションを指定する必要があります。

- GET
- PERFORM OBJECT

- PERFORM SET
- REFRESH
- SET

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

QUALIFY コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- SCOPE
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

PLEXMGR

処理スレッドが現在接続されている CMAS が、指定された CICSplex の管理に参加せず、CICSplex を管理するその他のすべての CMAS が使用不可です。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

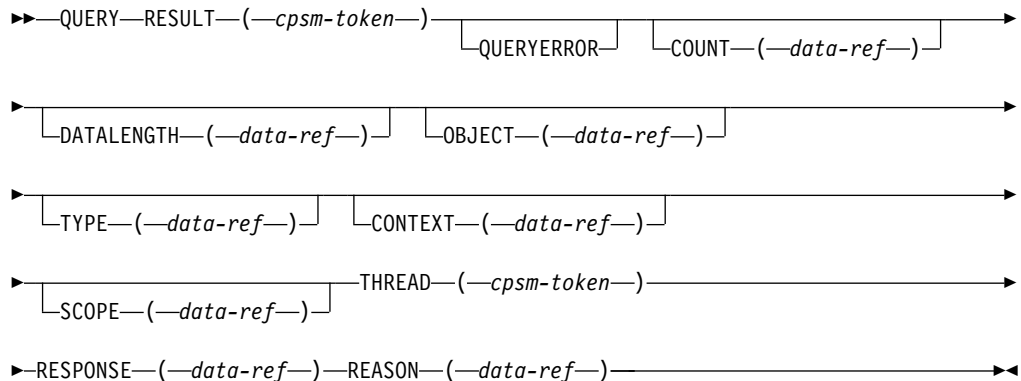
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

QUERY

結果セット、および結果セットに含まれているリソース・テーブル・レコードに関する情報を取得します。



説明

このコマンドは、結果セット、および結果セットに含まれているリソース・テーブル・レコードに関する情報を取得します。

- QUERY コマンドを使用して、以下のことを判別できます。
 - 結果セットのコンテキストおよびスコープ
 - 結果セットに含まれているリソース・テーブル・レコードのタイプ
 - レコードが CICSplex SM リソース・テーブルまたはそのテーブルのユーザー定義のビューのどちらのものであるか
 - 結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数
 - リソース・テーブル・レコードの長さ
- REXX で作成されたプログラムの場合、QUERY コマンドの発行は、特定のリソース・テーブル・レコードの長さを判別するための唯一の手段です。

関連するコマンド

COPY、GET、GETDEF、GROUP、PERFORM OBJECT

オプション

CONTEXT(*data-ref*)

結果セットに関連付けられているコンテキストを受け取る変数名を指定します。

COUNT(*data-ref*)

結果セット内のリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

DATALength(*data-ref*)

結果セット内のリソース・テーブル・レコードの長さを受け取る変数名を指定します。

OBJECT(*data-ref*)

結果セットに現在関連付けられているリソース・テーブルの名前を受け取る変数名を指定します。

注: QUERYERROR が指定される場合、返される OBJECT は、結果セットに含まれているオブジェクトでもビューでもなく、MASQRYER です。

QUERYERROR

この要求が、結果セットに対する前回の GET、PERFORM、または SET のコマンドによって生成された MASQRYER リソースに関する情報を返すことを指定します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

SCOPE(*data-ref*)

結果セットに関連付けられているスコープを受け取る変数名を指定します。
CMAS タイプのリソースが含まれている結果セットの場合、この値をブランクにすることができます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TYPE(*data-ref*)

結果セットに含まれているレコードのタイプを示す 1 文字の値を受け取る変数名を指定します。

T CICSplex SM によって提供されているリソース・テーブル。

V この処理スレッドで以前に発行された SPECIFY VIEW コマンドによって作成されたリソース・テーブルのビュー。

条件

QUERY コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- DATALENGTH
- OBJECT
- RESULT
- THREAD
- TYPE

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NODATA

コマンドは、結果セットを処理するために前回のコマンドによって生成された MASQRYER リソースに関する情報を要求しましたが、前回のコマンドは正常に完了したため、MASQRYER リソースはありません。COUNT が要求されていた場合、ゼロの値が返されます。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

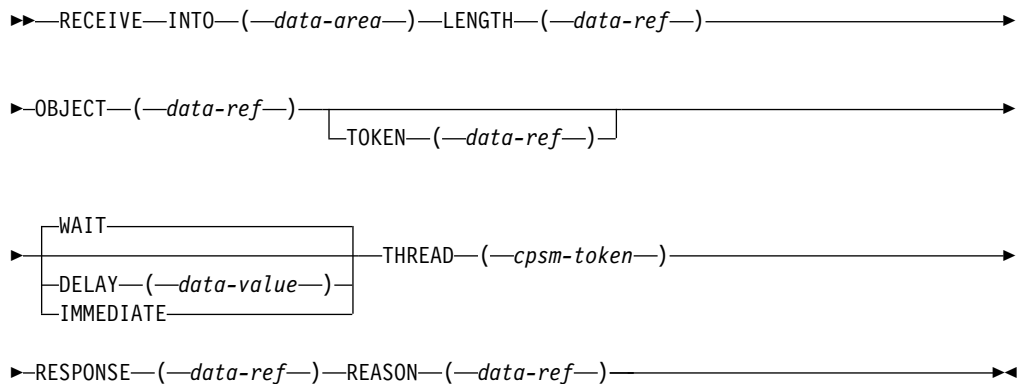
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

RECEIVE

完了した非同期要求から出力を受け取ります。



説明

このコマンドは、処理スレッドに関連付けられている完了済みの非同期要求から出力を受け取ります。

- 以前に LISTEN コマンド、または NOWAIT オプションを指定した以下のいずれかのコマンドを発行した場合、非同期出力が出されることがあります。
 - GET
 - PERFORM OBJECT
 - PERFORM SET
 - REFRESH
 - SET
- 受け取る非同期出力があるかどうかを判別するには、RECEIVE コマンドを発行する前に、ADDRESS コマンドを発行して SENTINEL 値を確認します。
- 1 つの API 処理スレッドに一度に存在できる未解決の完了済み非同期要求の数は、最大 256 です。RECEIVE コマンドを定期的に発行せず、処理スレッドが最大数の 256 に達した場合、非同期要求は破棄され、処理されません。非同期処理の詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

関連するコマンド

ADDRESS、GET、LISTEN、PERFORM OBJECT、PERFORM SET、REFRESH、SET

オプション

DELAY(*data-value*)

RECEIVE コマンドの発行時に使用可能な出力がない場合に処理が待機する秒数を指定します。指定された秒数が経過した後、出力が使用可能であるかどうかに関係なく、制御は処理スレッドに戻ります。遅延期間中に出力が使用可能になった場合、制御は処理スレッドに戻ります。出力が即時に使用可能になった場合は、遅延は生じません。制御は即時に処理スレッドに戻ります。

DELAY にはゼロ以外の値を指定する必要があります。プログラムが待機状態にならないようにする場合は、DELAY ではなく、IMMEDIATE オプションを使用します。

IMMEDIATE

出力が使用可能であるかどうかに関係なく、制御を処理スレッドに即時に戻します。

INTO(*data-area*)

このスレッドに使用可能な非同期出力がある場合、出力を受け取るバッファを指定します。このバッファの長さは、受け取るすべての出力を保持するのに十分でなければなりません。

返される出力は以下のようになります。

- 前回の LISTEN コマンドで指定されたイベントを表すリソース・テーブル・レコード
- 非同期の GET、PERFORM、REFRESH、または SET の要求の完了を表す ASYNCREQ リソース・テーブル・レコード

LENGTH(*data-ref*)

INTO バッファの長さを指定するフルワード値。

操作の完了後、このフィールドは、INTO バッファに返されるデータの実際の長さに設定されます。バッファの長さが不十分であるために操作を完了できない場合、このフィールドは、必要な長さに設定されます。

OBJECT(*data-ref*)

このスレッドに使用可能な出力がある場合、リソース・テーブル名を受け取る変数名を指定します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

WAIT

制御を処理スレッドに返す前に、非同期出力が使用可能になるまで待機します。

注: WAIT オプションを指定すると、非同期出力を無期限に待機します。

RECEIVE を発行する前に ADDRESS コマンドを発行して、未解決の完了済み非同期要求があることを確認してください。

TOKEN(*data-ref*)

非同期出力に関連付けられているユーザー定義のトークンを受け取る変数に名前を付けます。この値は、出力を生成した

GET、LISTEN、PERFORM、REFRESH、または SET のコマンドで定義したトークンです。

条件

RECEIVE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

受け取るデータはありませんでした。

WARNING

コマンドは処理を完了しましたが、以下の理由により警告があります。

AREATOOSMALL

要求された使用可能なレコードの数を保持するには、INTO バッファの長さが不十分です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- DELAY
- INTO
- LENGTH
- OBJECT
- THREAD
- TOKEN

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

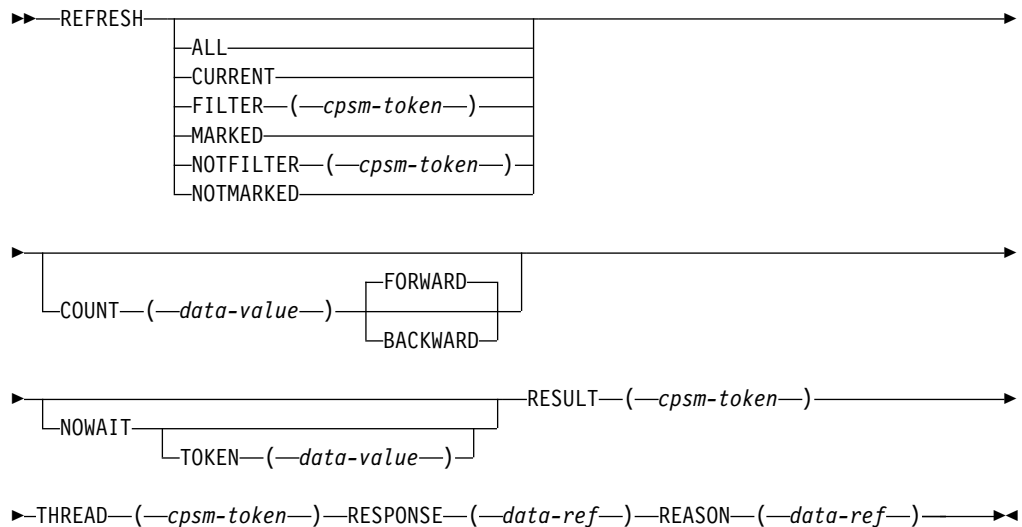
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

REFRESH

リソース・テーブル・レコードのデータをリフレッシュします。



説明

- このコマンドは、結果セット内の一部またはすべてのリソース・テーブル・レコードのデータをリフレッシュします。
- MAS リソース・テーブルの場合、REFRESH は、結果セットが最後に作成されたときに MAS がアクティブであった場合にのみ、データを提供します。

関連するコマンド

COPY、GET、LOCATE、MARK、PERFORM OBJECT、SPECIFY FILTER

オプション

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードをリフレッシュします。ALL を指定する場合、以下のようになります。

- COUNT オプションは無視されます。
- 削除されたレコードはすべて、結果セットから除去されます。削除されたレコードが以前に保持していた位置はすべて埋められ、残りのレコードは再番号付けされます。そのため、結果セット内の特定のレコードの相対位置がリフレッシュ後に変わる可能性があります。

BACKWARD

直前のリソース・テーブル・レコードをリフレッシュして、結果セットを逆方向に進み、COUNT オプションに指定された数のレコードをリフレッシュします。

注: レコード・ポインターが結果セットの下部にある場合、BACKWARD を使用すると、現行のレコード (最後のレコード) がリフレッシュされ、その前のレコードに進みます。

COUNT(*data-value*)

リフレッシュするリソース・テーブル・レコードの数を指定します。COUNT オプションを指定しない場合、1 つのレコードのみがリフレッシュされます。

FORWARD オプションも BACKWARD オプションも指定しない場合、リフレッシュ・プロセスは結果セットを順方向に進みます。

CURRENT

現行のリソース・テーブル・レコードのみをリフレッシュします。CURRENT を指定する場合、COUNT オプションは無視されます。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみをリフレッシュの対象とすることを指定します。

リフレッシュされるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、フィルター基準を満たす最初のレコードのみがリフレッシュされます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

FORWARD

現行のリソース・テーブル・レコードをリフレッシュして、結果セットを順方向に進み、COUNT オプションに指定された数のレコードをリフレッシュします。

MARKED

結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみをリフレッシュの対象とすることを指定します。

リフレッシュされるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、マークが付けられている最初のレコードのみがリフレッシュされます。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみをリフレッシュの対象とすることを指定します。

リフレッシュされるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、フィルター基準を満たしていない最初のレコードのみがリフレッシュされます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードのみをリフレッシュの対象とすることを指定します。

リフレッシュされるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、マークが付けられていない最初のレコードのみがリフレッシュされます。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOWAIT

REFRESH コマンドが受け入れられるとすぐに制御をプログラムに戻して、コマンドを非同期的に処理できるようにします。

NOWAIT オプションを指定する場合、その後に RECEIVE コマンドを使用して、この要求の完了をテストする必要があります。非同期要求の結果は、ASYNCREQ リソース・テーブル・レコードとして返されます。非同期処理の詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

注: TOKEN オプションを指定する場合、デフォルトで NOWAIT オプションが指定されているものと解釈されます。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOKEN(*data-value*)

非同期 REFRESH 要求を後続の RECEIVE コマンドの結果と相互に関連付けるために選択する 1 文字から 4 文字のトークンを定義します。このトークンはプログラムによって使用されます。CICSplex SM は、この値を使用しません。トークンは、この REFRESH 要求の完了時に RECEIVE コマンドによって返されます。

条件

REFRESH コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

SCHEDULED

コマンドの処理がスケジュールされました。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS または MAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARAM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- COUNT
- FILTER
- NOTFILTER
- RESULT
- THREAD
- TOKEN

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

RESOURCE

リフレッシュされている結果セットのリソース・テーブル・タイプは、このコマンドでサポートされていません。結果セットをリフレッシュするには、最初に獲得するために使用した GET コマンドを再実行します。現時点では、EVCSPEC、HTASK、OSGIBUND、OSGISERV、SYSPARM、および RULE のリソース・テーブルの結果セットをリフレッシュできません。

SCOPE

指定されたスコープ内の 1 つ以上の MAS が使用不可です。要求に応答しなかった MAS を識別するために、MASQRYER リソース・テーブル・レコードが生成されます。

NOTPERMIT

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下の理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは、リソース・テーブルに必須属性が欠落しているか、1 つ以上の競合する属性が含まれているか、あるいは存在しない場合に起こることがあります。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

REMOVE

データ・リポジトリから CICSplex SM または CICS 定義を除去します。

```
►►—REMOVE—OBJECT—(—data-value—)—FROM—(—data-area—)—►
►—LENGTH—(—data-value—)—►
►└─PARM—(—data-area—)—PARMLEN—(—data-value—)—┘►
►└─CONTEXT—(—data-value—)—┘└─SCOPE—(—data-value—)—┘►
►—THREAD—(—cpsm-token—)—RESPONSE—(—data-ref—)—REASON—(—data-ref—)—►►
```

説明

このコマンドは、データ・リポジトリから CICSplex SM または CICS 定義を除去します。CICSplex をコンテキストとして使用する定義 (ワークロード管理定義やリアルタイム分析定義など) の場合、定義は、CICSplex の管理に関するすべての CMAS のデータ・リポジトリからも除去されます。

関連するコマンド

CREATE、UPDATE

オプション

CONTEXT(data-value)

このコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのコンテキストが想定されます。

FROM(data-area)

除去される定義を表すリソース・テーブル・レコードが入っているバッファを指定します。レコードには、OBJECT オプションに指定されたリソース・テーブルのすべての属性が入っている必要があります。

LENGTH(data-value)

FROM バッファの長さを指定するフルワード値。

OBJECT(data-value)

除去される定義を表すリソース・テーブルを指定します。この値は、有効な CICSplex SM 定義または CICS 定義のリソース・テーブルの 1 文字から 8 文

字の名前でなければなりません。タイプ別の CICSplex SM リソース・テーブルのリストについては、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

PARM(*data-area*)

定義の除去に使用されるパラメーター式が入ったバッファを指定します。

REMOVE コマンドでパラメーター式を使用する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブルに有効なパラメーターの説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

PARMLEN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

SCOPE(*data-value*)

このコマンドのスコープを指定します。

(このコマンドあるいは以前の CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドで設定された) 現行コンテキストが CICSplex であり、OBJECT オプションに CICS 定義リソースが指定されていて、PARM オプションに CSD パラメーターが含まれている場合、有効なスコープを指定できます。

スコープには、CICSplex 内の CICS システムを指定できます。現行コンテキストが CMAS であるか、OBJECT オプションにその他のタイプのリソース・テーブルが指定されているか、CICS 定義リソースに CSD パラメーターが指定されていない場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

SCOPE がコマンドに適用され、SCOPE オプションが指定されない場合、スレッドのデフォルトのスコープが想定されます。現行コンテキストが CICSplex であり、CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドにデフォルトのスコープが設定されていない場合、SCOPE オプションに対する INVALIDPARM 応答を受け取ります。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

REMOVE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースに必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

CSD 要求の場合に限り、要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- FROM
- LENGTH
- OBJECT
- PARM
- PARMLen
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

CSDAPI

CICS CSD にアクセスするための CICSplex SM API のサポートが使用不可です。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

NOTPERMIT

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下のいずれかの理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは、リソース・テーブルに必須属性が欠落しているか、1 つ以上の競合する属性が含まれているか、あるいは存在しない場合に起こることがあります。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

INVALIDATTR

リソース・テーブル属性の 1 つが無効です。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM ではサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

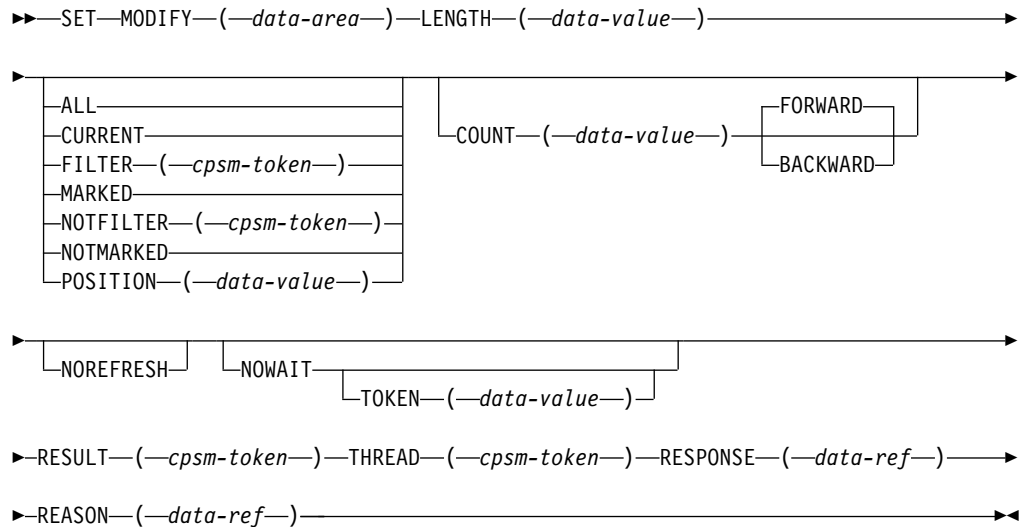
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

SET

1 つ以上のリソースの属性を変更します。



説明

このコマンドは、既存の結果セット内のリソース・テーブル・レコードによって表されている 1 つ以上のリソースの属性を変更します。

- SET コマンドは、CICS リソースおよび一部の CICSplex SM のリソース・テーブルでのみ有効です。
- SET コマンドの発行時に有効になっているコンテキストおよびスコープに、要求された変更をサポートしていない CICS システムが含まれている場合、要求はそれらの CICS システムで無視されます。

関連するコマンド

COPY、GET、GROUP、LOCATE、MARK、PERFORM OBJECT、
PERFORM SET、SPECIFY FILTER

オプション

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードを変更します。ALL を指定する場合、COUNT オプションは無視されます。

BACKWARD

直前のリソース・テーブル・レコードを変更して、結果セットを逆方向に進み、COUNT オプションに指定された数のレコードを変更します。

注: レコード・ポインターが結果セットの下部にある場合、BACKWARD を使用すると、現行のレコード (最後のレコード) が変更され、その前のレコードに進みます。

COUNT(*data-value*)

変更するリソース・テーブル・レコードの数を指定します。COUNT オプションを指定しない場合、1 つのレコードのみがリフレッシュされます。

FORWARD オプションも BACKWARD オプションも指定しない場合、変更プロセスは結果セットを順方向に進みます。

CURRENT

現行のリソース・テーブル・レコードを変更します。CURRENT を指定する場合、COUNT オプションは無視されます。

FILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみを変更の対象とすることを指定します。

変更されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、フィルター基準を満たす最初のレコードのみが変更されます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

FORWARD

現行のリソース・テーブル・レコードを変更して、結果セットを順方向に進み、COUNT オプションに指定された数のレコードを変更します。

LENGTH(*data-value*)

MODIFY バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、変更式以外のデータを含めてはなりません。

MARKED

結果セットでマークを付けられているリソース・テーブル・レコードのみを変更の対象とすることを指定します。

変更されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、マークが付けられている最初のレコードのみが変更されます。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

MODIFY(*data-area*)

リソース・テーブル・レコードの変更に使用される変更式が入ったバッファを指定します。

変更式を形成する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

NOREFRESH

ソース結果セット内のリソース・テーブル・レコードをリフレッシュしないことを指定します。レコードは、SET コマンドの処理前のリソースの状況を反映します。

NOREFRESH オプションを指定しない場合、この操作の完了後のリソースの状況を反映するためにリソース・テーブル・レコードがリフレッシュされます。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみを変更の対象とすることを指定します。

変更されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、フィルター基準を満たしていない最初のレコードのみが変更されます。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

NOTMARKED

結果セットでマークを付けられていないリソース・テーブル・レコードのみを変更の対象とすることを指定します。

変更されるレコードの数は、COUNT オプションによって決まります。COUNT オプションを指定しない場合、マークが付けられていない最初のレコードのみが変更されます。

MARK コマンドと UNMARK コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにマークを付けられます。

NOWAIT

SET コマンドが受け入れられるとすぐに制御をプログラムに戻して、コマンドを非同期的に処理できるようにします。

NOWAIT オプションを指定する場合、その後に RECEIVE コマンドを使用して、この要求の完了をテストする必要があります。非同期要求の結果は、ASYNCREQ リソース・テーブル・レコードとして返されます。非同期処理の詳細な説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

注: TOKEN オプションを指定する場合、デフォルトで NOWAIT オプションが指定されているものと解釈されます。

POSITION(*data-value*)

結果セット内の *n* 番目のリソース・テーブル・レコードを変更します。

POSITION を指定する場合、COUNT オプションは無視されます。

この値は、結果セット内のレコードの相対位置を示す数値でなければなりません。結果セット内の最初のレコードは数値 1 で識別されます。

例えば、結果セット内の 5 番目のリソース・テーブル・レコードを変更するには、POSITION(5) と指定します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOKEN(*data-value*)

非同期 SET 要求を後続の RECEIVE コマンドの結果と相互に関連付けるために選択する 1 文字から 4 文字のトークンを定義します。このトークンはプログラムによって使用されます。CICSplex SM は、この値を使用しません。トークンは、この SET 要求の完了時に RECEIVE コマンドによって返されます。

条件

SET コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

SCHEDULED

コマンドの処理がスケジュールされました。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS または MAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDDATA

以下のいずれかの理由により、無効データ・エラーが発生しました。

MODIFY

MODIFY バッファにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

NOTSUPPORTED

MODIFY バッファにリストされている属性は、変更可能ではありません。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

コマンド・ストリングまたは MODIFY バッファのいずれかで無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ATTRIBUTE
- COUNT
- FILTER
- LENGTH
- MODIFY
- NOTFILTER
- POSITION
- RESULT
- THREAD
- TOKEN

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

SCOPE

指定されたスコープ内のいずれの MAS も使用不可であるか、いずれも要求された変更をサポートしていません。

NOTFOUND

以下のいずれかの理由により、未検出状態が発生しました。

ACTION

MODIFY バッファで要求されたアクションは、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

ATTRIBUTE

MODIFY バッファで指定された属性は、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

NOTPERMIT

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下のいずれかの理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは、リソース・テーブルに必須属性が欠落しているか、1 つ以上の競合する属性が含まれているか、あるいは重複がある場合に起こることがあります。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM ではサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

SPECIFY FILTER

属性または値のフィルターを定義して、フィルターに識別トークンを割り当てます。

```
►►—SPECIFY—FILTER—(—data-ref—)—CRITERIA—(—data-area—)—►►
►—LENGTH—(—data-value—)—OBJECT—(—data-value—)—THREAD—(—cpsm-token—)—►
►—RESPONSE—(—data-ref—)—REASON—(—data-ref—)—►►
```

説明

このコマンドは、属性または値のフィルターを定義して、フィルターに識別トークンを割り当てます。

- フィルターは、フィルターが定義される特定の処理スレッドに関連付けられます。他の処理スレッドは、そのフィルターを共用できません。
- 処理スレッドで使用する複数のフィルターを定義できます。CICSplex SM は、それぞれに固有の識別トークンを割り当てます。
- 処理スレッドが終了すると、その処理スレッドによって定義されたフィルターはすべて破棄されます。

関連するコマンド

COPY、DELETE、DISCARD、FETCH、GET、GROUP、LISTEN、LOCATE、MARK、PERFORM OBJECT、PERFORM SET、REFRESH、SET、UNMARK

オプション

CRITERIA(*data-area*)

この操作に使用されるフィルター式が入ったバッファを指定します。
CRITERIA オプションは、指定された基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみをフィルタリングします。

フィルター式を形成する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

注: フィルター式には EYU_CICSNAME 属性も EYU_CICSREL 属性も指定できません。

FILTER(*data-ref*)

CICSplex SM がこのフィルターに割り当てるトークンを受け取る変数に名前を付けます。

この識別トークンを、このフィルターを使用するすべての後続のコマンドで指定する必要があります。

LENGTH(*data-value*)

CRITERIA バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、フィルター式以外のデータを含めてはなりません。

OBJECT(*data-value*)

フィルターが作成される対象のリソース・テーブルを指定します。この値は、有効なリソース・テーブルの 8 文字の名前でなければなりません。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

SPECIFY FILTER コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDDATA

無効なデータが検出されました。無効データを含むパラメーターは理由値として戻されます。

CRITERIA

CRITERIA バッファにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

INVALIDCMD

以下のいずれか 1 つの理由により、コマンドが無効です。

FILTER

操作に渡されたフィルター式が大きすぎるか、または複雑すぎます。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CRITERIA
- FILTER
- LENGTH
- OBJECT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

NOTFOUND

以下の理由により、未検出状態が発生しました。

ATTRIBUTE

CRITERIA バッファで指定された属性は、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

SPECIFY VIEW

特定のリソース・テーブルのカスタマイズされたビューを作成します。

►►—SPECIFY—VIEW—(—*data-value*—)—FIELDS—(—*data-area*—)—►►

►LENGTH—(—data-value—)—OBJECT—(—data-value—)—THREAD—(—cpsm-token—)————►
 ►RESPONSE—(—data-ref—)—REASON—(—data-ref—)————►

説明

このコマンドは、特定のリソース・テーブルのカスタマイズされたビューを作成します。

- CICS リソースのタイプのリソース・テーブルのビューのみを作成できます。
- ビューは、ビューが作成される特定の処理スレッドに関連付けられます。他の処理スレッドは、そのビューを共用できません。
- 処理スレッドが終了すると、その処理スレッドによって作成されたビューはすべて削除されます。
- ビューに割り当てる名前は、既存のリソース・テーブル名より優先されます。既存のリソース・テーブルのカスタマイズされたビューを表すように、そのリソース・テーブル名を再定義することができます。
- まだ他のカスタマイズされたビューにも CICSplex SM 提供のリソース・テーブルにも割り当てられていない名前をカスタマイズされたビューに使用することをお勧めします。既に割り当てられている名前を使用する場合は、処理に影響が及ぶ可能性があることに注意してください。詳細については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。
- より新しいバージョンの CICSplex SM にアップグレードする際、新しいリソース・テーブルに、カスタマイズされたビューと同じ名前が付けられていないことを確認してください。詳細については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

関連するコマンド

DISCARD、GET

オプション

FIELDS(data-area)

この操作に使用される順序式が入ったバッファを指定します。

SPECIFY VIEW コマンドで順序式を使用する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

注: 順序式には EYU_CICSNAME 属性も EYU_CICSREL 属性も指定できません。

LENGTH(data-value)

FIELDS バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、順序式以外のデータを含めてはなりません。

OBJECT(data-value)

ビューが作成される対象のリソース・テーブルを指定します。この値は、有効な CICS リソース・テーブルの 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。タイプ別の CICSplex SM リソース・テーブルのリストについては、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が **CONNECT** コマンドによって戻されます。

VIEW(*data-value*)

作成されるビューの 1 文字から 8 文字の名前を定義します。

条件

SPECIFY VIEW コマンドによって戻すことのできる **RESPONSE** 値を以下にリストします。それぞれの **RESPONSE** の説明には、該当する場合には関連する **REASON** 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

DUPE

以下の理由により、重複状態が発生しました。

VIEW 指定されたビューは既に存在しているため、作成できません。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

コマンド・ストリングまたは FIELDS バッファのいずれかで無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ATTRIBUTE
- FIELDS
- LENGTH
- OBJECT
- THREAD
- VIEW

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

NOTFOUND

以下の理由により、未検出状態が発生しました。

ATTRIBUTE

FIELDS バッファで指定された属性は、指定されたリソース・テーブルで見つかりませんでした。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下のいずれかの理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは、リソース・テーブルに必須属性が欠落しているか、1 つ以上の競合する属性が含まれているか、あるいは存在しない場合に起こることがあります。このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM ではサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

TERMINATE

すべてのアクティブ・スレッド上のすべての API 処理を終了します。

▶—TERMINATE—RESPONSE—(—*data-ref*—)—REASON—(—*data-ref*—)—▶

説明

このコマンドは、コマンドを発行する CICS タスクまたは MVS タスクによって作成されたすべてのアクティブ・スレッド上のすべての API 処理を終了します。

- TERMINATE を発行することは、各アクティブ・スレッドに対して DISCONNECT コマンドを個別に発行することと同じです。
- 結果セット、フィルター、ビュー、診断データ、および未解決の非同期要求を含めて、スレッドに関連付けられているすべてのリソースが解放されます。

関連するコマンド

CONNECT、DISCONNECT

オプション

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

条件

TERMINATE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

TRANSLATE

リソース・テーブルの属性値を変換します。

コマンド

```
►►—TRANSLATE—OBJECT—(—data-value—)—ATTRIBUTE—(—data-value—)—►►
►└─FROMCV—(—data-value—)—TOCHAR—(—data-ref—)
  └─FROMCHAR—(—data-value—)—TOCV—(—data-ref—)┐►►
►—THREAD—(—cpsm-token—)—RESPONSE—(—data-ref—)—REASON—(—data-ref—)—►►
```

説明

このコマンドは、エンコード形式で維持されているリソース・テーブル属性値 (EYUDA 値や CVDA 値など) を内部コード形式と外部表示形式の間で変換します。

- ユーザー・プログラムが REXX で作成されている場合は、TPARSE コマンドを使用して、リソース・テーブル・レコードにアクセスし、その属性値を変換することができます。ただし、TPARSE で ASIS オプションを使用する場合、属性値は外部形式に変換されません。この場合は、TPARSE を使用した後に TRANSLATE を使用して、形式設定された表示値を受け取る必要があります。TPARSE コマンドについては、13 ページの『第 2 章 REXX 関数およびコマンド』を参照してください。
- CICS 環境では、DFHVALUE 関数が、以下のリソース・テーブル属性に対して非互換の CVDA 値を返す可能性があります。

リソース・テーブル	属性値
CONNECT	RECOVSTATUS(NRS)
IPCONN	RECOVSTATUS(NRS)
LIBRARY	CRITSTATUS(CRITICAL)
LOCTRAN	RESSEC(RESSECEXT)
PROGDEF	API(CICSAPI)
PROGRAM	APIST(CICSAPI)
PROGRAM	LPASTAT(NOTSVA)
PROGRAM	LPASTAT(SVA)

上記の CVDA 値は、CICS で使用される値と競合するため、CICSplex SM は、固有性を維持するためにこれらの値を変更する必要があります。CICSplex SM は、これらの CICS CVDA 属性のそれぞれについて DFHVALUE によって返さ

れる値に 8000 または 9000 のいずれかを加算します。

上記のいずれかの属性を変換する場合は、その属性を CICSplex SM に提示する前に、DFHVALUE から受け取る値に 8000 または 9000 のいずれかを加算する必要があります。

オプション

ATTRIBUTE(*data-value*)

変換されるリソース・テーブル属性を指定します。この値は、リソース・テーブルの有効な属性の 1 文字から 12 文字の名前でなければなりません。

FROMCHAR(*data-value*)

指定された属性の 1 文字から 12 文字の値を指定します。

FROMCV(*data-value*)

指定された属性の 4 バイトの内部コード値を指定します。

OBJECT(*data-value*)

変換される属性が属するリソース・テーブルを指定します。この値は、有効なリソース・テーブルの 8 文字の名前でなければなりません。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

TOCHAR(*data-ref*)

内部コード値を指定された属性の 1 文字から 12 文字の値に変換した結果を受け取る変数名を指定します。

TOCV(*data-ref*)

文字値を指定された属性の 4 バイトの内部コード値に変換した結果を受け取る変数に名前を付けます。

条件

TRANSLATE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- ATTRIBUTE
- FROMCHAR
- FROMCV
- OBJECT
- THREAD
- TOCHAR
- TOCV

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下の理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM ではサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

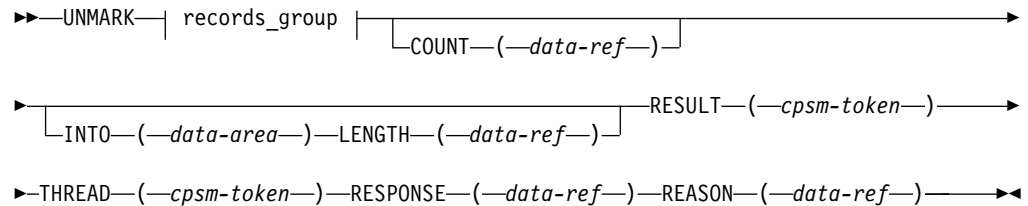
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

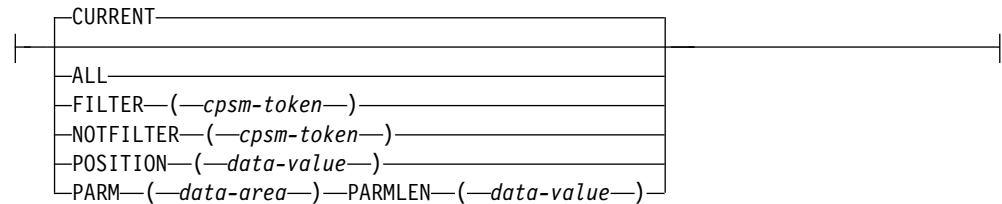
このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

UNMARK

リソース・テーブル・レコードに付けられたマークを解除します。



records_group



説明

このコマンドは、以前に MARK コマンドによってリソース・テーブル・レコードに付けられたマークを解除します。UNMARK コマンドは、結果セット内の次のレコードではなく、フェッチされた最後のレコードで常に処理を開始します。

関連するコマンド

EXPAND、LOCATE、MARK

オプション

ALL

結果セット内のすべてのリソース・テーブル・レコードのマークを解除します。

COUNT (data-ref)

マークを解除できなかったリソース・テーブル・レコードの数を受け取る変数名を指定します。

CURRENT

現行のリソース・テーブル・レコードのみのマークを解除します。

FILTER (cpsm-token)

この操作に使用するフィルターを指定します。FILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たすリソース・テーブル・レコードのみのマークを解除します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

INTO(*data-area*)

マークを解除できなかったリソース・テーブル・レコードのリストを受け取るバッファを指定します。

このバッファの長さは、UNMARK 要求によって生成される可能性がある最大数のレコード番号を保持するのに十分でなければなりません (いずれのマークも解除できなかった場合に備えて)。レコード番号は、INTO バッファで (範囲ではなく) 個別にリストされ、コンマで区切られます。

注: (バッファの長さが十分でなかったために) RESPONSE 値 WARNING AREATOOSMALL を受け取る場合、このバッファに返されたデータは、マークを解除できなかったレコードの部分的なリストを表します。

LENGTH(*data-ref*)

INTO バッファの長さを指定するフルワード値。

CICSplex SM がこのフィールドで返す値は、次のように UNMARK コマンドの RESPONSE 値によって異なります。

OK INTO バッファに返されるデータの実際の長さ。

WARNING AREATOOSMALL

マークを解除できなかったレコードのリスト全体を保持するのに必要になるバッファ長。

NOTFILTER(*cpsm-token*)

この操作に使用するフィルターを指定します。NOTFILTER オプションは、指定されたフィルター基準を満たしていないリソース・テーブル・レコードのみのマークを解除します。

フィルターを識別する *cpsm-token* 値が SPECIFY FILTER コマンドによって戻されます。

PARM(*data-area*)

マークを解除するリソース・テーブル・レコードをリストするパラメーター式が入ったバッファを指定します。

UNMARK コマンドのパラメーター式は、レコード番号の文字ストリングです。例えば、以下のような項目が含まれています。

```
PARM('1,3,6:9,24.')
```

個別のレコードを指定するには、レコード番号をコンマで区切ります。レコードの範囲を指定するには、下位と上位のレコード番号をコロンで区切ります。パラメーター式の全体は、ピリオドで終了させなければなりません。

UNMARK コマンドでパラメーター式を使用する方法について詳しくは、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

PARMLEN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

POSITION(*data-value*)

結果セット内の *n* 番目のリソース・テーブル・レコードのマークを解除します。

この値は、結果セット内のレコードの相対位置を示す数値でなければなりません。結果セット内の最初のレコードは数値 1 で識別されます。

例えば、結果セット内の 5 番目のリソース・テーブル・レコードのマークを解除するには、POSITION(5) と指定します。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GETDEF
- GROUP
- PERFORM OBJECT

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

UNMARK コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

NODATA

指定された検索基準と一致するレコードが見つかりませんでした。

WARNING

コマンドは処理を完了しましたが、以下のいずれかの理由により警告があります。

AREATOOSMALL

INTO オプションおよび LENGTH オプションを指定しましたが、バッファの長さが、マークを解除できなかったレコードのストリングを保持するのに十分ではありませんでした。

DATAERROR

PARM バッファで指定された 1 つ以上のレコードのマークを解除できませんでした。COUNT オプションを指定した場合、マークを解除できなかったレコードの数が返されます。INTO オプションおよび LENGTH オプションを指定した場合、レコードのリストがバッファに返されます。

BUSY 以下の理由により、使用中状態が発生しました。

RESULT

RESULT オプションで指定された結果セットが別のコマンドによって処理中です。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

SOLRESOURCE

ローカル側で所有されている (つまり、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースによって所有されている) 必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- COUNT
- FILTER
- INTO
- LENGTH
- NOTFILTER
- PARM
- PARMLLEN
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

UPDATE

既存の CICSplex SM 定義または CICS 定義を更新します。

```
►►UPDATE—OBJECT—(—data-value—)—————►
►FROM—(—data-area—)—————►
  |RESULT—(—cpsm-token—)—MODIFY—(—data-area—)|
►LENGTH—(—data-value—)—————►
►
  |PARM—(—data-area—)—PARMLEN—(—data-value—)|
►
  |CONTEXT—(—data-value—)| |SCOPE—(—data-value—)|
►
►THREAD—(—cpsm-token—)—RESPONSE—(—data-ref—)—REASON—(—data-ref—)————►
```

説明

このコマンドは、指定された属性に従って既存の CICSplex SM 定義または CICS 定義を更新します。

- CICSplex SM データ・リポジトリにある既存の定義は、更新された定義に置き換えられます。
- CICSplex をコンテキストとして使用する定義 (ワークロード管理定義やリアルタイム分析定義など) の場合、定義は、CICSplex の管理に関係するすべての CMAS のデータ・リポジトリでも更新されます。

関連するコマンド

CREATE、REMOVE

オプション

CONTEXT(*data-value*)

このコマンドのコンテキストを指定します。コンテキストは、CMAS または CICSplex の 1 文字から 8 文字の名前でなければなりません。

CONTEXT オプションを指定しない場合、スレッドのデフォルトのコンテキストが想定されます。

FROM(*data-area*)

更新される定義を表すリソース・テーブル・レコードが入っているバッファを指定します。

レコードには、OBJECT オプションに指定されたリソース・テーブルのすべての属性が入っている必要があります。指定しないオプションの属性については、フィールドをヌル (ゼロ) 値に設定します。

LENGTH(*data-value*)

FROM または MODIFY バッファの長さを指定するフルワード値。

注: 指定するバッファ長には、リソース・テーブル・レコードと変更式以外のデータを含めてはなりません。

MODIFY(*data-area*)

CICS 定義リソース・テーブル・レコードの変更に使用される変更式が入ったバッファを指定します。

変更式を形成する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

OBJECT(*data-value*)

更新される定義を表すリソース・テーブルを指定します。この値は、有効な CICSplex SM 定義または CICS 定義のリソース・テーブルの 8 文字の名前でなければなりません。タイプ別の CICSplex SM リソース・テーブルのリストについては、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

PARM(*data-area*)

定義の更新に使用されるパラメーター式が入ったバッファを指定します。

UPDATE コマンドでパラメーター式を使用する方法については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。特定のリソース・テーブルに有効なパラメーターの説明については、『Reference』の『CICSplex SM resource tables』を参照してください。

PARMLN(*data-value*)

PARM バッファの長さを指定するフルワード値。

REASON(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード理由値を受け取る変数に名前を付けます。

RESPONSE(*data-ref*)

このコマンドによって戻されるフルワード応答値を受け取る変数に名前を付けます。

RESULT(*cpsm-token*)

この操作によって処理される API 結果セットを指定します。結果セットには、CICS 定義リソース・テーブル・レコードが入っている必要があります。レコードは、MODIFY バッファで指定する変更式に従って更新されます。

以下のいずれかのコマンドによって生成された結果セットを指定できます。

- COPY
- GET
- GROUP
- PERFORM OBJECT

SCOPE(*data-value*)

このコマンドのスコープを指定します。

(このコマンドあるいは以前の CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドで設定された) 現行コンテキストが CICSplex であり、OBJECT オプションに CICS 定義リソースが指定されていて、PARM オプションに CSD パラメーターが含まれている場合、有効なスコープを指定できます。

スコープには、CICSplex 内の CICS システムを指定できます。現行コンテキストが CMAS であるか、OBJECT オプションにその他のタイプのリソース・テーブルが指定されているか、CICS 定義リソースに CSD パラメーターが指定されていない場合、このオプションには意味がなく、このオプションは無視されます。

SCOPE がコマンドに適用され、SCOPE オプションが指定されない場合、スレッドのデフォルトのスコープが想定されます。現行コンテキストが CICSplex であり、CONNECT コマンドまたは QUALIFY コマンドにデフォルトのスコープが設定されていない場合、SCOPE オプションに対する INVALIDPARM 応答を受け取ります。

THREAD(*cpsm-token*)

この操作に使用する API スレッドを識別します。スレッドを識別する *cpsm-token* 値が CONNECT コマンドによって戻されます。

条件

UPDATE コマンドによって戻すことのできる RESPONSE 値を以下にリストします。それぞれの RESPONSE の説明には、該当する場合には関連する REASON 値のリストも含まれています。

OK コマンドは処理を正常に完了しました。

ENVIRONERROR

以下のいずれかの理由により、環境エラーが発生しました。

NOSERVICE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、API サービス・モジュールをロードできませんでした。

NOSTORAGE

アプリケーション・スタブ・プログラムは、処理スレッドが実行されているアドレス・スペースで必要なストレージを取得できませんでした。

NOTPROCESSED

CSD 要求の場合に限り、要求が向けられた MAS の 1 つが要求を処理できませんでした。

REQTIMEOUT

要求が向けられた CMAS または MAS の 1 つが応答しませんでした。

SOCRESOURCE

CMAS によって所有される必須リソースが使用不可です。

FAILED

以下のいずれかの理由により、コマンドが失敗しました。

ABENDED

コマンド処理が異常終了しました。

EXCEPTION

コマンド処理の際、例外状態が発生しました。

INVALIDDATA

以下のいずれかの理由により、無効データ・エラーが発生しました。

MODIFY

MODIFY バッファーにリストされている属性値は、指定された属性に有効ではありません。

NOTSUPPORTED

MODIFY バッファーにリストされている属性は、変更可能ではありません。

INVALIDCMD

以下の理由により、コマンドが無効です。

LENGTH

コマンドのすべてのオプションの合計長が上限を超えています。

INVALIDPARM

無効なパラメーターが検出されました。無効なパラメーターが以下の理由値として戻されました。

- CONTEXT
- FROM
- LENGTH
- MODIFY
- OBJECT
- PARM
- PARMLen
- RESULT
- THREAD

コマンドの説明で有効なパラメーター構文を確認してください。

NOTAVAILABLE

以下のいずれかの理由により、使用不可状態が生じました。

APITASK

API 制御サブタスクがアクティブではありません。

CMAS

要求が向けられた CMAS が使用不可です。

CPSMAPI

処理スレッドが接続される CMAS で、API 処理を行えません。

CSDAPI

CICS CSD にアクセスするための CICSplex SM API のサポートが使用不可です。

MAINTPOINT

現行コンテキストの保守ポイントが使用不可です。

NOTPERMIT

以下の理由により、許可されない状態が発生しました。

USRID

処理スレッドに関連付けられているユーザー ID に、必要なセキュリティ許可がありません。

SERVERGONE

処理スレッドが接続されていた CMAS がアクティブではなくなりました。

TABLEERROR

以下のいずれかの理由により、リソース・テーブル・レコードが無効です。

DATAERROR

1 つ以上のリソース・テーブル属性に関連付けられている値が無効です。このエラーは次の場合に起こることがあります。

- リソース・テーブルに必須属性が欠落しているか、1 つ以上の競合する属性が含まれているか、あるいは存在しない。
- CICS リソース定義に、EXEC CICS CREATE コマンドで警告が出る原因になる属性が含まれている。

このエラーに関する追加データを取得するには、FEEDBACK コマンドを使用します。

INVALIDATTR

リソース・テーブル属性の 1 つが無効です。

INVALIDVER

指定されたバージョンのリソース・テーブルは、CICSplex SM ではサポートされていません。

VERSIONINVL

以下のいずれかの理由により、バージョン競合が生じました。

NOTSUPPORTED

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンはサポートされていません。

NOTVSNCONN

このコマンドで使用されているアプリケーション・スタブ・プログラムのバージョンが、CONNECT コマンドで使用されているバージョンと同じではありません。

第 4 章 CICSplex SM API コマンド引数リスト

CICSplex SM API コマンドの引数をリストしています。

EXEC CPSM コマンドごとに、CICS 変換プログラムは、CICSplex SM EXEC インターフェース・スタブ・プログラムに呼び出しを挿入します。Link editing your programを参照してください。

EXEC CPSM コマンドのパラメーターは、標準の呼び出しパラメーター・リスト、つまり EXEC CPSM コマンドの引数 ARG0 から ARG*n* のリストで渡されます。

引数 0

ARG0 には、コマンドに固有のデータが含まれています。ARG0 の最初の 2 バイトには、CPSM コマンドの機能コードが含まれています。機能コード値のリストについては、153 ページの『第 5 章 CICSplex SM API コマンドの機能コード値』を参照してください。

引数 1

ARG1 には、THREAD 値が含まれています。TERMINATE コマンドの場合、ARG1 にはゼロが含まれています。

引数 2

ARG2 には、OBJECT 値が含まれています (該当する場合)。有効な OBJECT 値が含まれる可能性があるコマンドのリストについては、153 ページの『第 5 章 CICSplex SM API コマンドの機能コード値』を参照してください。

引数 3

ARG3 には、コマンドに固有のデータが含まれています。

引数 4

ARG4 には、コマンドに固有のデータが含まれています。

引数 5

ARG5 は、応答コードを返します。155 ページの『第 6 章 RESPONSE 値および REASON 値』を参照してください。

引数 6

ARG6 は、理由コードを返します。155 ページの『第 6 章 RESPONSE 値および REASON 値』を参照してください。

引数 7 以上

ARG7 以上には、コマンドに固有のデータが含まれています。

第 5 章 CICSplex SM API コマンドの機能コード値

CICSplex SM API コマンドおよび機能コードの数値をリストしています。

表 1 はコマンド名の順序で、154 ページの表 2 は機能コード値の順序です。

引数については、151 ページの『第 4 章 CICSplex SM API コマンド引数リスト』を参照してください。

表 1. コマンド名順の機能コード値

CICSplex SM コマンド	引数の数	機能コード	ARG2 の OBJECT 値
ADDRESS	7	F016	いいえ
CANCEL	10	F002	いいえ
CONNECT	13	F003	いいえ
COPY	11	F004	いいえ
CREATE	10	F005	はい
DELETE	7	F006	いいえ
DISCARD	7	F007	いいえ
DISCONNECT	7	F008	いいえ
EXPAND	16	F021	いいえ
FEEDBACK	10	F020	いいえ
FETCH	10	F009	いいえ
GET	7	F00A	はい
GETDEF	7	F017	はい
GROUP	12	F01E	はい
LISTEN	14	F018	いいえ
LOCATE	7	F00B	いいえ
MARK	7	F00C	いいえ
ORDER	10	F00D	いいえ
PERFORM OBJECT	10	F00F	いいえ
PERFORM SET	10	F00E	はい
QUALIFY	7	F010	いいえ
QUERY	7	F011	いいえ
RECEIVE	7	F012	はい
REFRESH	7	F019	いいえ
REMOVE	10	F013	はい
SET	10	F01A	いいえ
SPECIFY FILTER	11	F014	はい
SPECIFY VIEW	11	F01B	はい
TERMINATE	7	F01C	いいえ
TRANSLATE	13	F01D	はい

表 1. コマンド名順の機能コード値 (続き)

CICSplex SM コマンド	引数の数	機能コード	ARG2 の OBJECT 値
UNMARK	7	F015	いいえ
UPDATE	10	F01F	はい

表 2. 機能コード順の機能コード値

機能コード	引数の数	CICSplex SM コマンド	ARG2 の OBJECT 値
F002	10	CANCEL	いいえ
F003	13	CONNECT	いいえ
F004	11	COPY	いいえ
F005	10	CREATE	はい
F006	7	DELETE	いいえ
F007	7	DISCARD	いいえ
F008	7	DISCONNECT	いいえ
F009	10	FETCH	いいえ
F00A	7	GET	はい
F00B	7	LOCATE	いいえ
F00C	7	MARK	いいえ
F00D	10	ORDER	いいえ
F00E	10	PERFORM SET	はい
F00F	10	PERFORM OBJECT	いいえ
F010	7	QUALIFY	いいえ
F011	7	QUERY	いいえ
F012	7	RECEIVE	はい
F013	10	REMOVE	はい
F014	11	SPECIFY FILTER	はい
F015	7	UNMARK	いいえ
F016	7	ADDRESS	いいえ
F017	7	GETDEF	はい
F018	14	LISTEN	いいえ
F019	7	REFRESH	いいえ
F01A	10	SET	いいえ
F01B	11	SPECIFY VIEW	はい
F01C	7	TERMINATE	いいえ
F01D	13	TRANSLATE	はい
F01E	12	GROUP	はい
F01F	10	UPDATE	はい
F020	10	FEEDBACK	いいえ
F021	16	EXPAND	いいえ

第 6 章 RESPONSE 値および REASON 値

このセクションでは、各 API コマンドによって返される RESPONSE 値および REASON 値について要約します。

これらの値の説明については、その値を返すコマンドの説明を参照してください。RESPONSE 文字値および REASON 文字値とそれらに相当する数値のリストについては、161 ページの『第 7 章 EYUDA 値』を参照してください。RESPONSE オプションおよび REASON オプションの説明については、Developing CICSplex SM applicationsを参照してください。

COMMAND	RESPONSE	REASONS
ADDRESS	OK ENVIRONERROR FAILED INVALIDPARM NOTAVAILABLE SERVERGONE VERSIONINVL	NOSERVICE、NOSTORAGE ABENDED、EXCEPTION ECB、SENTINEL、THREAD APITASK、CPSMAPI NOTSUPPORTED、NOTVSNCONN
CANCEL	OK ENVIRONERROR FAILED INVALIDPARM NOTAVAILABLE SERVERGONE VERSIONINVL	NOSERVICE、NOSTORAGE、SOCRESOURCE ABENDED、EXCEPTION NOTIFICATION、THREAD APITASK、CPSMAPI NOTSUPPORTED、NOTVSNCONN
CONNECT	OK ENVIRONERROR FAILED INVALIDPARM NOTAVAILABLE NOTPERMIT VERSIONINVL	APITASKERR、INVALIDTCB、NOSERVICE、NOSTORAGE、SOCRESOURCE、 SOERESOURCE、SOLRESOURCE ABENDED、EXCEPTION CONTEXT、SCOPE、SIGNONPARM、USRID、VERSION APITASK、CPSMAPI、CPSMSERVER、CPSMSYSTEM、CPSMVERSION USRID NOTSUPPORTED
COPY	OK NODATA BUSY ENVIRONERROR FAILED INCOMPATIBLE INVALIDPARM NOTAVAILABLE SERVERGONE TABLEERROR VERSIONINVL	FROM、TO NOSERVICE、NOSTORAGE、SOCRESOURCE ABENDED、EXCEPTION INVALIDOBJ FILTER、FROM、NOTFILTER、THREAD、TO APITASK、CPSMAPI INVALIDVER NOTSUPPORTED、NOTVSNCONN
CREATE	OK ENVIRONERROR FAILED INVALIDCMD INVALIDPARM NOTAVAILABLE	NOSERVICE、NOSTORAGE、NOTPROCESSED、REQTIMEOUT、SOCRESOURCE ABENDED、EXCEPTION LENGTH CONTEXT、FROM、LENGTH、OBJECT、PARM、PARMLN、THREAD APITASK、CMAS、CPSMAPI、CSDAPI、MAINTPOINT

COMMAND	RESPONSE	REASONS
DELETE	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDATTR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	NODATA	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE, SOLRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	FILTER, NOTFILTER, RESULT, THREAD
DISCARD	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INUSE	FILTER, VIEW
	INVALIDPARM	FILTER, RESULT, THREAD, VIEW
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
DISCONNECT	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
FEEDBACK	NODATA	
	WARNING	AREATOOSMALL
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	COUNT, INTO, LENGTH, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
FETCH	NODATA	BACKWARD, FORWARD
	WARNING	AREATOOSMALL
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE, SOLRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	COUNT, FILTER, INTO, LENGTH, NOTFILTER, POSITION, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
GET	SCHEDULED	
	NODATA	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	OK	

COMMAND	RESPONSE	REASONS
GETDEF	INVALIDDATA	CRITERIA
	INVALIDCMD	FILTER, LENGTH
	INVALIDPARM	CONTEXT, CRITERIA, FILTER, LENGTH, OBJECT, PARM, PARMLen, RESULT, SCOPE, THREAD, TOKEN
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, CSDAPI, MAINTPOINT, SCOPE, WORKLOAD
	NOTFOUND	ATTRIBUTE
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
GROUP	NODATA	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INCOMPATIBLE	INVALIDOBJ
	INVALIDPARM	ATTRIBUTE, OBJECT, RESOURCE, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
LISTEN	OK	
	NODATA	
	BUSY	FROM, TO
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	BY, FILTER, FROM, LENGTH, NOTFILTER, SUMOPT, THREAD, TO
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	INVALIDVER
LOCATE	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	NODATA	BACKWARD, FORWARD
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE, SOLRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	BACKWARD, FILTER, FORWARD, NOTFILTER, POSITION, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
MARK	OK	
	NODATA	
	WARNING	AREATOOSMALL, DATAERROR
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE, SOLRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION

COMMAND	RESPONSE	REASONS
ORDER	INVALIDPARM	COUNT, FILTER, INTO, LENGTH, NOTFILTER, PARM, PARMLLEN, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	BY, LENGTH, RESULT, THREAD
PERFORM OBJECT	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	SCHEDULED	
	NODATA	BACKWARD, FORWARD
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDDATA	PARM, CRITERIA
PERFORM SET	INVALIDCMD	FILTER, LENGTH
	INVALIDPARM	ACTION, CONTEXT, CRITERIA, FILTER, LENGTH, OBJECT, PARM, PARMLLEN, RESULT, SCOPE, THREAD, TOKEN
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, CSDAPI, MAINTPOINT, PLEXMGR, SCOPE, WORKLOAD
	NOTFOUND	ACTION, ATTRIBUTE
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	WARNING	RESULT, ACTION
QUALIFY	OK	
	SCHEDULED	
	NODATA	BACKWARD, FORWARD
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDDATA	PARM, CRITERIA
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	ACTION, FILTER, NOTFILTER, PARM, PARMLLEN, POSITION, RESULT, THREAD, TOKEN
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, MAINTPOINT, PLEXMGR, SCOPE, WORKLOAD
QUERY	NOTFOUND	ACTION, ATTRIBUTE
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	CONTEXT, SCOPE, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI, PLEXMGR
QUERY	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN

COMMAND	RESPONSE	REASONS
	OK	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	CONTEXT, DATALENGTH, OBJECT, RESULT, THREAD, TYPE
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
RECEIVE		
	OK	
	NODATA	
	WARNING	AREATOOSMALL
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	DELAY, INTO, LENGTH, OBJECT, THREAD, TOKEN
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
REFRESH		
	OK	
	SCHEDULED	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	COUNT, FILTER, NOTFILTER, RESULT, THREAD, TOKEN
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, MAINTPOINT, SCOPE
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
REMOVE		
	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	CONTEXT, FROM, LENGTH, OBJECT, PARM, PARMLen, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, CSDAPI, MAINTPOINT
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDATTR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
SET		
	OK	
	SCHEDULED	
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDDATA	MODIFY, NOTSUPPORTED
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	ATTRIBUTE, COUNT, FILTER, LENGTH, MODIFY, NOTFILTER, POSITION, RESULT, THREAD, TOKEN
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, MAINTPOINT, SCOPE
	NOTFOUND	ACTION, ATTRIBUTE
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
SPECIFY FILTER		
	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION

COMMAND	RESPONSE	REASONS
	INVALIDCMD	FILTER, LENGTH
	INVALIDPARM	CRITERIA, FILTER, LENGTH, OBJECT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	NOTFOUND	ATTRIBUTE
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
SPECIFY VIEW	OK	
	DUPE	VIEW
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDDATA	CRITERIA
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	ATTRIBUTE, FIELDS, LENGTH, OBJECT, THREAD, VIEW
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	NOTFOUND	ATTRIBUTE
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
TERMINATE	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
TRANSLATE	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDPARM	ATTRIBUTE, FROMCHAR, FROMCV, OBJECT, THREAD, TOCHAR, TOCV
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	INVALIDVER, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
UNMARK	OK	
	NODATA	
	WARNING	AREATOOSMALL, DATAERROR
	BUSY	RESULT
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, SOCRESOURCE, SOLRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	COUNT, FILTER, INTO, LENGTH, NOTFILTER, PARM, PARMLLEN, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CPSMAPI
	SERVERGONE	
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN
UPDATE	OK	
	ENVIRONERROR	NOSERVICE, NOSTORAGE, NOTPROCESSED, REQTIMEOUT, SOCRESOURCE
	FAILED	ABENDED, EXCEPTION
	INVALIDCMD	LENGTH
	INVALIDPARM	CONTEXT, FROM, LENGTH, MODIFY, OBJECT, PARM, PARMLLEN, RESULT, THREAD
	NOTAVAILABLE	APITASK, CMAS, CPSMAPI, CSDAPI, MAINTPOINT
	NOTPERMIT	USRID
	SERVERGONE	
	TABLEERROR	DATAERROR, INVALIDATTR, INVALIDVER
	VERSIONINVL	NOTSUPPORTED, NOTVSNCONN

第 7 章 EYUDA 値

このセクションでは、CICSplex SM API EYUDA 値と、それに相当する数値をリストします。

EYUDA には、3 つの種類があります。

一般 CICSplex SM がリソースを記述または定義するために使用する値。この種の EYUDA は、1 から 776 の範囲の数値を持ちます。『EYUDA の一般値 (番号順)』を参照してください。

RESPONSE

API コマンドの RESPONSE オプションによって返される値。この種の EYUDA は、1024 から 1042 の範囲の数値を持ちます。187 ページの『EYUDA RESPONSE 値 (番号順)』を参照してください。

REASON

API コマンドの REASON オプションによって返される値。この種の EYUDA は、1280 から 1378 の範囲の数値を持ちます。189 ページの『EYUDA REASON 値 (番号順)』を参照してください。

注: SUMMUNLIKE に関してリストされる EYUDA 値およびそれに相当する数値は、API GROUP コマンドの結果セットの EYUDA 属性、または WUI のサマリー表のビューに対してのみ戻されます。以前のリリースでは、N_a に設定されていました。

注: HOTPOOL に関してリストされている EYUDA 値とそれに相当する数値は、CICS Transaction Server 2.3 でのみ有効です。

EYUDA の一般値 (番号順)

このセクションでは、一般的な EYUDA を番号順にリストして、それぞれの文字値を示します。

値	EYUDA
0	N_A
0	NA
1	YES
2	NO
3	ON
4	OFF
5	VALID
6	INVALID
7	TRUE
8	FALSE
9	VLS

値	EYUDA
10	LS
11	LW
12	NM
13	HW
14	HS
15	VHS
16	EQ
17	NE
18	GT
19	LT
20	LOW
21	HIGH
22	NORMAL
23	IMMEDIATE
24	TAKEOVER
25	SHUT
26	NOSHUT
27	GLOBAL
28	SYSTEM
30	SUSPEND
33	VALUE
34	THRESHOLD
35	SAM
36	APM
37	MRM
38	TRANID
39	TERMID
40	SIGNID
41	RACFGID
42	USERID
43	NULL
44	CHARSTR
45	ACTIVE
46	INACTIVE
47	WAITING
48	QUIESCING
49	POOL
50	LTRAN
51	RTRAN
53	GOAL
54	QUEUE

值	EYUDA
55	LUNAME
58	DELIMIT
59	PCONV
60	LOGON
61	SIGNON
63	PERMANENT
64	MCICS
65	MGLBL
66	MDBX
67	MCONN
68	MFILE
69	MJRNL
70	MPROG
71	MTERM
72	MTDQS
73	MTRAN
74	MAPPL
75	ABOVE
76	BELOW
77	NOCOPY
78	DSA
79	CDSA
80	UDSA
81	LPA
82	EDSA
83	ECDSA
84	EUDSA
85	ERDSA
86	ELPA
87	CICS
88	USER
89	READONLY
90	LU61
91	LU62
92	INDIRECT
93	MRO
94	NOTAPPLIC
95	LFILE
96	RFILE
97	CTABL
98	UTABL

値	EYUDA
99	INSTALLED
100	PENDING
101	INHERIT
102	EXPLICIT
103	CICSSYS
104	SYSGROUP
105	KEEP
106	NAME
107	FORCE
108	NONE
109	UNASSIGNED
110	DROP
111	LOCAL
112	REMOTE
113	DEFAULT
114	REMOVE
115	DORMANT
116	START
117	END
118	ADJACENT
119	LOSTCON
120	CREATING
121	REMOVING
122	QUIESCED
123	LINKACTIVE
124	LINKDOWN
125	ESSS
126	CONACT
127	RESET
128	SYSDUMP
129	TRANDUMP
130	MAXTASK
131	STALLED
132	SOSUDSA
133	SOSCDSA
134	SOSEUDSA
135	SOSECDSA
136	SOSERDSA
137	SOSSDSA
138	SOSESDSA
139	SOSRDSA

值	EYUDA
140	QUIESCE
141	PRIMARY
142	SECONDARY
143	DUPLICATE
144	FROZEN
145	ALL
146	ANY
147	SUM
148	MIN
149	MAX
150	AVG
151	CNT
152	LE
153	GE
154	SDSA
155	ESDSA
156	RDSA
157	SOSMVS
158	SOSBELOW
159	SOSABOVE
161	EXECUTE
162	CHECK
163	LOSTCMAS
164	LOSTMAS
165	AASTERISK
166	BLANK
167	INDEX
168	DATA
169	BOTH
170	NETBIOS
171	TCPIP
172	AFTER
173	ALLREQS
174	ASA
177	ASIS
178	ASSEMBLER
179	BACKOUTONLY
180	BEFORE
181	BLUE
182	C
183	CLEARCONV

値	EYUDA
184	CLOSE
185	COBOL
186	COLD
187	CYCLIC
188	DEFERRED
189	DIP
190	DISK
191	EODS
192	EXTA
193	FILE
194	FIRSTREF
195	GREEN
196	IDENTIFY
197	IGNORE
198	INITIAL
199	INOUT
200	INPUT
201	LEAVE
202	LE370
203	LINEAR
204	LINK
205	LMS
206	LOGICAL
207	LOGOFF
208	LRU
209	MACHINE
210	MESSAGE
211	MIXIDPE
212	MOD
213	MODIFYREQS
214	MSRE
215	NEUTRAL
216	NEW
217	NOFORCE
218	NONVTAM
219	OLD
220	ONLY
221	OPEN
222	OPID
223	OUTPUT
224	PERSISTENT

值	EYUDA
225	PHYSICAL
226	PINK
227	PLI
228	PRINTER
229	RED
230	RECOVERY
231	REJECT
232	RELEASESESS
233	REREAD
234	RPG
235	SCS
236	SECURITY
237	SHR
238	SKIP
239	SPECIFIC
240	STARTIO
241	STARTUP
242	STRFIELD
243	SYSDEFAULT
244	TAPE
245	TERMINAL
246	TRANSACTION
247	TRANSIENT
248	TURQUOISE
249	U
250	UNCONDREL
251	UPDATEONLY
252	VB
253	VERIFY
254	VTAM
255	YELLOW
256	3270
257	AUTO
258	DYNAM
259	EXTRA
260	INTRA
261	IND
262	STAT
263	RELATED
264	TARGET
265	NEVER

値	EYUDA
266	ALWAYS
267	COLDONLY
268	WARMONLY
269	PROMPT
270	CONTINUE
271	TERMINATE
272	SHUTDOWN
273	RTADEF
274	STATDEF
275	CONNDEF
276	FILEDEF
277	JRNLDEF
278	JRNMDEF
279	LSRDEF
280	MAPDEF
281	PARTDEF
282	PRTNDEF
283	PROFDEF
284	PROGDEF
285	SESSDEF
286	TDQDEF
287	TERMDEF
288	TRANDEF
289	TRNCLDEF
290	TSQDEF
291	TYPTMDEF
292	MPSYNCCR
293	ASSOCIATIONS
294	MEMBERS
295	DB2CDEF
296	DB2EDEF
297	DB2TDEF
298	FSEGDEF
299	TSMDEF
300	ENQMDEF
301	TCPDEF
302	DOCDEF
303	FULL
304	RELEASE
305	PA1
306	PA2

值	EYUDA
307	PA3
308	PF1
309	PF2
310	PF3
311	PF4
312	PF5
313	PF6
314	PF7
315	PF8
316	PF9
317	PF10
318	PF11
319	PF12
320	PF13
321	PF14
322	PF15
323	PF16
324	PF17
325	PF18
326	PF19
327	PF20
328	PF21
329	PF22
330	PF23
331	PF24
332	STANDARD
333	APPC
334	BATCHDI
335	BCHLU
336	CONSOLE
337	CONTLU
338	INTLU
339	LUTYPE2
340	LUTYPE3
341	LUTYPE4
342	L3277
343	L3284
344	L3286
345	PIPELINE
346	SCSPRINT
347	TLX

値	EYUDA
348	TWX
349	USERPROG
350	3270P
351	3275
352	3277
353	3277CM
354	3284
355	3284CM
356	3286
357	3286CM
358	3600
359	3614
360	3650
361	3653
362	3767
363	3767C
364	3767I
365	3770
366	3770B
367	3770C
368	3770I
369	3790
370	BLINK
371	REVERSE
372	UNDERLINE
373	INSTALL
374	RESDEF
375	RASINDSC
376	RESTYPE
377	SCOPETYP
378	REBUILD
379	RECONNECT
380	CONNECTING
381	TWAIT
382	NOTWAIT
383	DISCONNING
384	CFTBL
385	CF
386	QUASIRENT
387	THREADSAFE
388	PROCDEF

值	EYUDA
389	BAPPL
390	ACTIVITY
391	PROCESS
393	PMWINDOW
394	FULLSCREEN
395	COM1
396	COM2
397	COM3
398	COM4
399	COM5
400	COM6
401	COM7
402	COM8
403	CLIENTAUTH
404	RQMDEF
405	3270TERM
406	3270PRNT
407	3270DBTM
408	3270DBPR
409	3151TERM
410	SEQTERM
411	EOF
412	EOT
413	FEPOODEF
414	FETRGDEF
415	FENODDEF
416	FEPRODEF
417	DEBUG
418	LEVSE
419	KEY
420	RBA
423	EJCODEF
424	EJDJDEF
425	BASIC
426	CERTIFICATE
427	AUTOREGISTER
428	AUTOMATIC
429	CLIENTCERT
430	LINK3270
431	FACILITY
432	NOTOPEN

値	EYUDA
433	UNKNOWN
434	REENTPROT
435	NOREENTPROT
436	ASSERTED
437	MIRROR
438	DPL
439	ONCRPC
440	WEB
441	BRIDGE
442	CICSBTS
443	TDQUEUE
444	TERMSTART
445	XMRUN
446	SOCKET
447	RRS
448	IIRQRECV
449	RZSTTRPT
450	IIOP
451	ECI
452	HOTPOOL
453	JVM
454	HTASK
455	IOERROR
456	INVALIDFILE
457	SUSPENDED
458	SUSPENDING
459	HISTORY
460	REALTIME
461	VELOCITY
462	DISCRETIONRY
463	CONNECTED
464	NOTCONNECTED
465	RESUMING
466	URIMPDEF
467	PIPEDEF
468	WEBSVDEF
469	STARTED
470	STOPPED
471	XPLINK
472	SSL
473	CICSAPI

值	EYUDA
474	OPENAPI
475	EXCI
476	RECREATED
477	IPCONDEF
478	SAME
479	SUPPORTED
480	SOSGCDSA
481	JCL
482	REGION
483	IEFUSI
484	SMF
485	ABOVEBAR
486	LIBDEF
487	ENABLED
488	DISABLED
489	SNA
490	IPIC
491	PARTIAL
492	ATOMDEF
493	BUNDDEF
494	MQCONDEF
495	JVMSVDEF
496	THREADED
497	CSDLIST
498	CSDGROUP
499	CSDINLST
500	CSDINGRP
501	LOCKED
502	UOW
503	SIT
504	EYU
505	TABLE
506	SYSIN
507	WUI
508	REQUIRED
509	COMBINED
510	LNQUEUE
511	LNGOAL
512	GROUPRESYNC
513	INSTALLING
514	DISCARDING

値	EYUDA
566	SUMMUNLIKE
567	ATTLSAWARE
568	MQMON
640	MODBNOTACTIVE
641	PRIVATEMETHOD
642	METHODLOCKED
643	ENVIRONTIMEOUT
644	ENVIRONCANCEL
645	STARTFAILED
646	STACKTOOLARGE
647	OVERFLOWOSSBFAIL
648	BADMALTRANSFER
736	TRANSMITTIMEOUT
737	EXECUTETIMEOUT
738	TRANSMITFAILED
739	TARGETUNAVAIL
740	SECVIOLATION
741	MALRETURNFAILED
742	MAXHISTORYRECS
743	REQNOTPROCED
752	NOTAUTHORIZED
753	SECINTERFACEFAIL
754	TRUSTED
755	ETDSA
756	EMPTY
757	INCOMPLETE
758	INVALIDSCOPE
759	DISABLING
760	ENABLING
761	SOMEDISABLED
762	BYTE
763	KILOBYTE
764	MEGABYTE
765	GIGABYTE
766	THOUSAND
767	SECOND
768	MILLISECOND
769	MICROSECOND
770	ABEND
771	PLATFORM
772	APPLICATION

値	EYUDA
773	APPLMAJVER
774	APPLMINVER
775	APPLMICVER
776	OPERATION
777	IMPORTONLY
778	AVAILABLE
779	UNAVAILABLE
780	SOMEAVAIL
781	520
782	MQMONDEF
783	TASK

EYUDA の一般値 (アルファベット順)

このセクションでは、一般的な EYUDA を文字値のアルファベット順にリストしています。

EYUDA	値
AASTERISK	165
ABEND	770
ABOVE	75
ABOVEBAR	485
ACTIVE	45
ACTIVITY	390
ADJACENT	118
AFTER	172
ALL	145
ALLREQS	173
ALWAYS	266
ANY	146
APM	36
APPC	333
APPLICATION	772
APPLMAJVER	773
APPLMICVER	775
APPLMINVER	774
ASA	174
ASIS	177
アセンブラー	178
ASSERTED	436
ASSOCIATIONS	293

EYUDA	値
ATOMDEF	492
AUTO	257
AUTOMATIC	428
AUTOREGISTER	427
AVAILABLE	778
AVG	150
BACKOUTONLY	179
BAPPL	389
BASIC	425
BATCHDI	334
BCHLU	335
BEFORE	180
BELOW	76
BLANK	166
BLINK	370
BLUE	181
BOTH	169
BRIDGE	441
BUNDEF	493
BYTE	762
C	182
CDSA	79
CERTIFICATE	426
CF	385
CFTBL	384
CHARSTR	44
CHECK	162
CICS	87
CICSAPI	473
CICSBTS	442
CICSSYS	103
CLEARCONV	183
CLIENTAUTH	403
CLIENTCERT	429
CLOSE	184
CNT	151
COBOL	185
COLD	186
COLDONLY	267
COM1	395
COM2	396

EYUDA	値
COM3	397
COM4	398
COM5	399
COM6	400
COM7	401
COM8	402
CONACT	126
CONNDEF	275
CONNECTED	463
CONNECTING	380
CONSOLE	336
CONTINUE (続行)	270
CONTLU	337
CREATING	120
CSDLIST	497
CSDGROUP	498
CSDINLST	500
CTABL	97
CYCLIC	187
DATA	168
DB2CDEF	295
DB2EDEF	296
DB2TDEF	297
DEBUG	417
DEFAULT	113
DEFERRED	188
DELIMIT	58
DIP	189
DISABLED	488
DISCONNING	383
DISCRETIONARY	462
DISK	190
DOCDEF	302
DORMANT	115
DPL	438
DROP	110
DSA	78
DUPLICATE	143
DYNAM	258
ECDSA	83
ECI	451

EYUDA	値
EDSA	82
EJCODEF	423
EJDJDEF	424
ELPA	86
ENABLED	487
END	117
ENQMDEF	300
EODS	191
EOF	411
EOT	412
EQ	16
ERDSA	85
ESDSA	155
ESSS	125
EUDSA	84
EXECUTE	161
EXPLICIT	102
EXTA	192
EXTRA	259
FACILITY	431
FALSE	8
FENODDEF	415
FEPOODEF	413
FEPRODEF	416
FETRGDEF	414
FILE	193
FILEDEF	276
FIRSTREF	194
FORCE	107
FROZEN	144
FSEGDEF	298
FULL	303
FULLSCREEN	394
GE	153
GIGABYTE	765
GLOBAL	27
GOAL	53
GREEN	195
GT	18
HIGH	21
HISTORY	459

EYUDA	值
HOTPOOL	452
HS	14
HTASK	454
HW	13
IDENTIFY	196
IEFUSI	483
IGNORE	197
IIOP	450
IIRQRECVR	448
IMMEDIATE	23
INACTIVE	46
IND	261
INDEX	167
INDIRECT	92
INHERIT	101
INITIAL	198
INOUT	199
INPUT	200
INSTALL	373
INSTALLED	99
INTLU	338
INTRA	260
INVALID	6
INVALIDFILE	456
IOERROR	455
IPCONDEF	475
JCL	481
JRNLDEF	277
JRNMDEF	278
JVM	453
JVMVDEF	495
KEEP	105
KEY	419
KILOBYTE	763
LE	152
LEAVE	201
LEVSE	418
LE370	202
LFILE	95
LIBDEF	486
LINEAR	203

EYUDA	値
LINK	204
LINKACTIVE	123
LINKDOWN	124
LINK3270	430
LMS	205
LNGOAL	511
LNQUEUE	510
LOCAL	111
LOCKED	501
LOGICAL	206
LOGOFF	207
LOGON	60
LOSTCMAS	163
LOSTCON	119
LOSTMAS	164
LOW	20
LPA	81
LRU	208
LS	10
LSRDEF	279
LT	19
LTRAN	50
LUNAME	55
LUTYPE2	339
LUTYPE3	340
LUTYPE4	341
LU61	90
LU62	91
LW	11
L3277	342
L3284	343
L3286	344
MACHINE	209
MAPDEF	280
MAPPL	74
MAX	149
MAXTASK	130
MCICS	64
MCONN	67
MDBX	66
MEGABYTE	764

EYUDA	値
MEMBERS	294
MESSAGE	210
MFILE	68
MGLBL	65
MICROSECOND	769
MILLISECOND	768
MIN	148
MIRROR	437
MIXIDPE	211
MJRNL	69
MOD	212
MODIFYREQS	213
MPROG	70
MPSYNCCR	292
MQCONDEF	494
MRM	37
MRO	93
MSRE	214
MTDQS	72
MTERM	71
MTRAN	73
N_A	0
NA	0
NAME	106
NE	17
NETBIOS	170
NEUTRAL	215
NEVER	265
NEW	216
NM	12
NO	2
NOCOPY	77
NOFORCE	217
なし	108
NONVTAM	218
NOREENTPORT	435
NORMAL	22
NOSHUT	26
NOTAPPLIC	94
NOTCONNECTED	464
NOTOPEN	432

EYUDA	値
NOTWAIT	382
NULL	43
オフ	4
OLD	219
ON	3
ONCRPC	439
ONLY	220
OPEN	221
OPENAPI	474
OPERATION	776
OPID	222
出力	223
PARTDEF	281
PA1	305
PA2	306
PA3	307
PCONV	59
PENDING	100
PERMANENT	63
PERSISTENT	224
PF1	308
PF10	317
PF11	318
PF12	319
PF13	320
PF14	321
PF15	322
PF16	323
PF17	324
PF18	325
PF19	326
PF2	309
PF20	327
PF21	328
PF22	329
PF23	330
PF24	331
PF3	310
PF4	311
PF5	213
PF6	313

EYUDA	值
PF7	314
PF8	315
PF9	316
PHYSICAL	225
PINK	226
PIPEDEF	467
PIPELINE	435
PLATFORM	771
PLI	227
PMWINDOW	393
POOL	49
PRIMARY	141
PRINTER	228
PROCDEF	388
PROCESS	391
PROFDEF	283
PROGDEF	284
PROMPT	269
PRTNDEF	282
QUASIRENT	386
QUEUE	54
QUIESCE	140
QUIESCED	122
QUIESCING	48
RACFGID	41
RASINDSC	375
RBA	420
RDSA	156
READONLY	89
REALTIME	460
REBUILD	378
RECONNECT	379
RECOVERY	230
RED	229
REENTPROT	434
REGION	482
REJECT	231
RELATED	263
RELEASE	304
RELEASESESS	232
REMOTE	112

EYUDA	値
REMOVE	114
REMOVING	121
REREAD	233
RESDEF	374
RESET	127
RESTYPE	376
RESUMING	465
REVERSE	371
RFILE	96
RPG	234
RQMDEF	404
RRS	447
RTADEF	273
RTRAN	51
RZSTTRPT	449
SAM	35
SCOPETYP	337
SCS	235
SCSPRINT	346
SDSA	154
SECOND	767
SECONDARY	142
SECURITY	236
SEQTERM	410
SESSDEF	285
SHR	237
SHUT	25
SHUTDOWN	272
SIGNID	40
SIGNON	61
SKIP	238
SMF	484
SOCKET	446
SOMEAVAIL	780
SOSABOVE	159
SOSBELOW	158
SOSCDSA	133
SOSECDSA	135
SOSERDSA	136
SOSESDSA	138
SOSEUDSA	134

EYUDA	值
SOSGCDSA	480
SOSMVS	157
SOSRDSA	139
SOSSDSA	137
SOSUDSA	132
SPECIFIC	239
SSL	472
STALLED	131
STANDARD	332
START	116
STARTED	332
STARTIO	240
STARTUP	241
STAT	262
STATDEF	274
STOPPED	470
STRFIELD	242
SUM	147
SUMMUNLIKE	566
SUSPEND	30
SUSPENDED	457
SUSPENDING	458
SYSDEFAULT	243
SYSDUMP	128
SYSGROUP	104
SYSTEM	28
TAKEOVER	24
TAPE	244
TARGET	264
TCPDEF	301
TCPIP	171
TDQDEF	286
TDQUEUE	443
TERMDEF	287
TERMINAL	39
TERMINATE	245
TERMSTART	271
THOUSAND	444
THREADED	766
THREADED	496
THREADSAFE	387

EYUDA	値
THRESHOLD	34
TLX	347
TRANDEF	288
TRANDUMP	129
TRANID	38
TRANSACTION	246
TRANSIENT	247
TRNCLDEF	289
TRUE	7
TSMDEF	299
TSQDEF	290
TURQUOISE	248
TWAIT	381
TWX	348
TYPTMDEF	291
U	249
UDSA	80
UNASSIGNED	109
UNAVAILABLE	779
UNCONDREL	250
UNDERLINE	372
UNKNOWN	433
UOW	502
UPDATEONLY	251
URIMPDEF	466
USER	88
USERID	42
USERPROG	349
UTABL	98
VALID	5
VALUE	33
VB	252
VELOCITY	461
VERIFY	352
VHS	15
VLS	9
VTAM	254
WAITING	47
WARONLY	268
WEB	440
WEBSVDEF	468

EYUDA	値
XMRUN	445
XPLINK	471
YELLOW	255
YES	1
3151TERM	409
3270	256
3270DBPR	408
3270DBTM	407
3270P	350
3270PRNT	406
3270TERM	405
3275	351
3277	352
3277CM	353
3284	354
3284CM	355
3286	356
3286CM	357
3600	358
3614	359
3650	360
3653	361
3767	362
3767C	363
3767I	364
3770	365
3770B	366
3770C	367
3770I	368
3790	369

EYUDA RESPONSE 値 (番号順)

このセクションでは、RESPONSE EYUDA を番号順にリストしています。

値	EYUDA
1024	OK
1025	SCHEDULED
1026	NOTFOUND
1027	NODATA
1028	INVALIDPARM

値	EYUDA
1029	FAILED
1030	ENVIRONERROR
1031	NOTPERMIT
1032	BUSY
1033	SERVERGONE
1034	NOTAVAILABLE
1035	VERSIONINVL
1036	INVALIDCMD
1037	WARNING
1038	TABLEERROR
1039	INCOMPATIBLE
1040	INUSE
1041	INVALIDDATA
1042	DUPE

EYUDA RESPONSE 値 (アルファベット順)

このセクションでは、RESPONSE EYUDA をアルファベット順にリストしています。

値	EYUDA
BUSY	1032
DUPE	1042
ENVIRONERROR	1030
FAILED	1029
INCOMPATIBLE	1039
INUSE	1040
INVALIDDATA	1041
INVALIDCMD	1036
INVALIDPARM	1028
NODATA	1027
NOTAVAILABLE	1034
NOTFOUND	1026
NOTPERMIT	1031
OK	1024
SCHEDULED	1025
SERVERGONE	1033
TABLEERROR	1038
VERSIONINVL	1035
WARNING	1037

EYUDA REASON 値 (番号順)

このセクションでは、REASON EYUDA を番号順にリストしています。

値	EYUDA
1280	THREAD
1281	OBJECT
1282	CONTEXT
1283	RESULT
1284	COUNT
1285	LENGTH
1286	FILTER
1287	NOTFILTER
1288	FORWARD
1289	BACKWARD
1290	POSITION
1291	DELAY
1292	NOTIFICATION
1293	SIGNONPARM
1294	SCOPE
1295	RESOURCE
1296	FROM
1297	TO
1298	INTO
1299	CRITERIA
1300	BY
1301	ACTION
1302	ECB
1303	SENTINEL
1304	FEEDBACK
1305	EVENT
1306	TOKEN
1307	MODIFY
1308	VIEW
1309	FIELDS
1310	ATTRIBUTE
1311	FROMCV
1312	TOCHAR
1313	FROMCHAR
1314	TOCV
1315	PARM
1316	PARMLLEN
1317	SUMOPT

値	EYUDA
1318	TYPE
1319	DATALength
1320	SOLRESOURCE
1321	SOCRESOURCE
1322	SOERESOURCE
1323	MAINTPOINT
1324	SYSNOTACT
1325	SYSLVLBAD
1326	SYSNOTLCL
1327	CICSRELBAD
1328	ARMNOTREG
1329	ARMNOTACT
1330	ARMPOLCHK
1331	ABENDED
1332	CPSMSYSTEM
1333	CPSMVERSION
1334	CPSMAPI
1335	NOTSUPPORTED
1336	NOTVSNCONN
1337	INVALIDATTR
1338	APITASKERR
1339	CPSMSERVER
1340	APITASK
1341	PLEXMGR
1342	REQTIMEOUT
1344	AREATOOSMALL
1345	USRID
1348	VERSION
1352	FILTERMATCH
1353	INVALIDOBJ
1354	INVALIDVER
1355	TASKDATAKEY
1356	INVALIDVERB
1357	NOSTORAGE
1358	NOSERVICE
1359	EXCEPTION
1360	INVALIDEVT
1361	DATAERROR
1362	CMAS
1363	FIRST
1364	NEXT

値	EYUDA
1365	EXPIRED
1366	WORKLOAD
1367	ACTIONPARM
1368	CICSNAME
1369	MAXRECORDS
1370	QUERY
1371	EXPAND
1372	XINTO
1373	XLENGTH
1374	APICMD
1375	CSDAPI
1376	TEST
1377	QUERYERROR
1378	NOTPROCESSED
1379	INVALIDTCB

EYUDA REASON 値 (アルファベット順)

このセクションでは、REASON EYUDA をアルファベット順にリストしています。

値	EYUDA
ABENDED	1331
ACTION	1301
ACTIONPARM	1367
APITASK	1340
APITASKERR	1338
AREATOOSMALL	1344
ARMNOTACT	1329
ARMNOTREG	1328
ARMPOLCHK	1330
ATTRIBUTE	1310
BACKWARD	1289
BY	1300
CICSNAME	1368
CICSRELBAD	1327
CMAS	1362
CONTEXT	1282
COUNT	1284
CPSMAPI	1334
CPSMSERVER	1339

値	EYUDA
CPSMSYSTEM	1332
CPSMVERSION	1333
CRITERIA	1299
CSDAPI	1375
DATAERROR	1361
DATALength	1319
DELAY	1291
ECB	1302
EVENT	1305
EXCEPTION	1359
EXPIRED	1365
FEEDBACK	1394
FIELDS	1309
FILTER	1286
FITLERMATCH	1352
FIRST	1363
FORWARD	1288
FROM	1296
FROMCHAR	1313
FROMCV	1311
INTO	1298
INVALIDATTR	1337
INVALIDEVT	1360
INVALIDOBJ	1353
INVALIDTCB	1379
INVALIDVER	1354
INVALIDVERB	1356
LENGTH	1285
MAINTPOINT	1323
MAXRECORDS	1369
MODIFY	1307
NEXT	1364
NOSERVICE	1358
NOSTORAGE	1357
NOTFILTER	1287
NOTIFICATION	1292
NOTPROCESSED	1378
NOTSUPPORTED	1335
NOTVSNCONN	1336
OBJECT	1281
PARM	1315

值	EYUDA
PARMLN	1316
PLEXMGR	1341
POSITION	1290
QUERY	1370
REQTIMEOUT	1342
RESOURCE	1295
RESULT	1283
SCOPE	1294
SENTINEL	1303
SIGNONPARM	1293
SOCRESOURCE	1321
SOERESOURCE	1322
SOLRESOURCE	1320
SUMOPT	1317
SYSVLBAD	1325
SYSNOTACT	1324
SYSNOTLCL	1326
TASKDATAKEY	1355
THREAD	1280
TO	1297
TOCHAR	1312
TOCV	1314
TOKEN	1306
TYPE	1318
USRID	1345
VERSION	1348
VIEW	1308
WORKLOAD	1366
XINTO	1372
XLENGTH	1373

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM® から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119 Armonk,
NY 10504-1785
United States of America*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

CICS には、プログラミング・インターフェースと見なすことのできる資料と、プログラミング・インターフェースと見なすことのできない資料があります。

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS[®], バージョン 5 リリース 5 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが含まれています。

- アプリケーションの開発
- Developing system programs
- 保護の概要
- 外部インターフェースに向けた開発
- リファレンス: アプリケーション開発h
- リファレンス: システム・プログラミング
- リファレンス: 接続

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のプログラミング・インターフェースとして意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が含まれています。

- Troubleshooting and support
- リファレンス: 診断

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが以下のマニュアルに含まれています。

- アプリケーション・プログラミング・ガイドおよびアプリケーション・プログラミング・リファレンス
- Business Transaction Services
- Customization Guide
- C++ OO Class Libraries
- Debugging Tools Interfaces Reference
- Distributed Transaction Programming Guide
- External Interfaces Guide
- Front End Programming Interface Guide
- IMS Database Control Guide
- インストール・ガイド
- セキュリティー・ガイド
- Supplied Transactions
- CICSplex SM Managing Workloads
- CICSplex SM Managing Resource Usage
- CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・ガイドおよび CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・リファレンス
- Java[™] Applications in CICS

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 5 のプログラミング・インターフェース

として意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が以下のマニュアルに含まれています。

- Data Areas
- Diagnosis Reference
- Problem Determination Guide
- CICSplex SM Problem Determination Guide

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用範囲

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商用使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することがで

きます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利 ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース（メイン・インターフェース）の場合： このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース（データ・インターフェース）の場合： このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名またはその他の個人情報を、セッションごとの Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース（「Hello World」ページ）の場合： このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、個人情報を収集しないセッションごとの Cookie を使用する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICS Explorer® の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報、セッションごとの設定および持続的な設定を使用して収集する場合があります。これらの設定を無効にすることはできませんが、ユーザー・パスワードの暗号化形式でのディスクへの保管は、サインオン中にチェック・ボックスにチェック・マークを付けることによるユーザーの明示的な操作によってのみ有効化することができます。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

【ア行】

アセンブラー言語プログラム
 引数値 6
イベント制御ブロック (ECB)
 要求 21
応答、コマンド
 summary 155

【カ行】

言語に関する考慮事項
 一般 10
コマンド、指定
 コマンド・レベル・インターフェースの使用 1
 ランタイム・インターフェースの使用 7
コマンド応答
 summary 155
コマンドの形式
 コマンド・レベル・インターフェースの使用 1
 ランタイム・インターフェースの使用 7
コマンド・レベル・インターフェース
 引数値の指定 1
 API コマンドの指定 1

【サ行】

順序式
 指定
 ORDER 92
 SPECIFY VIEW 134
セキュリティ
 CONNECT のオプション 27
属性、リソース・テーブル
 変換
 EYUVALUE 9

【ナ行】

長さオプション、指定 10

【ハ行】

パラメーター式
 指定
 CREATE 35
 GET 63
 MARK 88
 PERFORM OBJECT 96
 PERFORM SET 103
 REMOVE 122
 UNMARK 142
 UPDATE 146
引数値
 コマンド・レベル・インターフェース
 アセンブラーの使用 6
 タイプ 1
 C の使用 4
 COBOL の使用 3
 PL/I の使用 5
 ランタイム・インターフェース 7
標識フィールド
 要求 22
フィルター式
 指定
 GET 62
 PERFORM OBJECT 95
 SPECIFY FILTER 131
変換
 リソース・テーブル属性
 EYUVALUE 9
変更式
 指定
 SET 126
 UPDATE 146

【ヤ行】

要約オプション
 指定 76
要約式
 指定 76

【ラ行】

リソース・テーブル
 属性の変換
 EYUVALUE 9

A

ADDRESS コマンド
 RESPONSE 値の要約 155

C

C プログラム
 引数値 4
CANCEL コマンド
 RESPONSE 値の要約 155
COBOL プログラム
 引数値 3
CONNECT コマンド
 RESPONSE 値の要約 155
COPY コマンド
 RESPONSE 値の要約 155
CREATE コマンド
 RESPONSE 値の要約 155
CVDA 値、変換 9

D

DELETE コマンド
 RESPONSE 値の要約 156
DISCARD コマンド
 RESPONSE 値の要約 156
DISCONNECT コマンド
 RESPONSE 値の要約 156

E

ECB フィールド
 要求 21
EXPAND コマンド 46
EYU9XESV セキュリティー・ルーチン
 CONNECT のオプション 27
EYUDA 値
 その要約 161
 変換 9
EYUVALUE 関数
 説明 9

F

FEEDBACK コマンド
 RESPONSE 値の要約 156
FETCH コマンド
 RESPONSE 値の要約 156

G

GET コマンド
 RESPONSE 値の要約 156
GETDEF コマンド
 RESPONSE 値の要約 157
GROUP コマンド
 RESPONSE 値の要約 157

L

LISTEN コマンド
 RESPONSE 値の要約 157
LOCATE コマンド
 RESPONSE 値の要約 157

M

MARK コマンド
 RESPONSE 値の要約 157
MVS の制限 8

O

ORDER コマンド
 RESPONSE 値の要約 158

P

PERFORM OBJECT コマンド
 RESPONSE 値の要約 158
PERFORM SET コマンド
 RESPONSE 値の要約 158
PL/I プログラム
 引数値 5

Q

QUALIFY コマンド
 RESPONSE 値の要約 158
QUERY コマンド
 RESPONSE 値の要約 158

R

REASON オプション
 値の要約 155
 説明 10
RECEIVE コマンド
 RESPONSE 値の要約 159
REFRESH コマンド
 RESPONSE 値の要約 159
REMOVE コマンド
 RESPONSE 値の要約 159

RESPONSE オプション
 値の要約 155
 説明 10
REXX ランタイム・インターフェース
 コマンド 16
 引数値の指定 7
 API コマンドの指定 7

S

SET コマンド
 RESPONSE 値の要約 159
SPECIFY FILTER コマンド
 RESPONSE 値の要約 159
SPECIFY VIEW コマンド
 RESPONSE 値の要約 160

T

TERMINATE コマンド
 RESPONSE 値の要約 160
TRANSLATE コマンド
 RESPONSE 値の要約 160

U

UNMARK コマンド
 RESPONSE 値の要約 160
UPDATE コマンド
 RESPONSE 値の要約 160

